

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

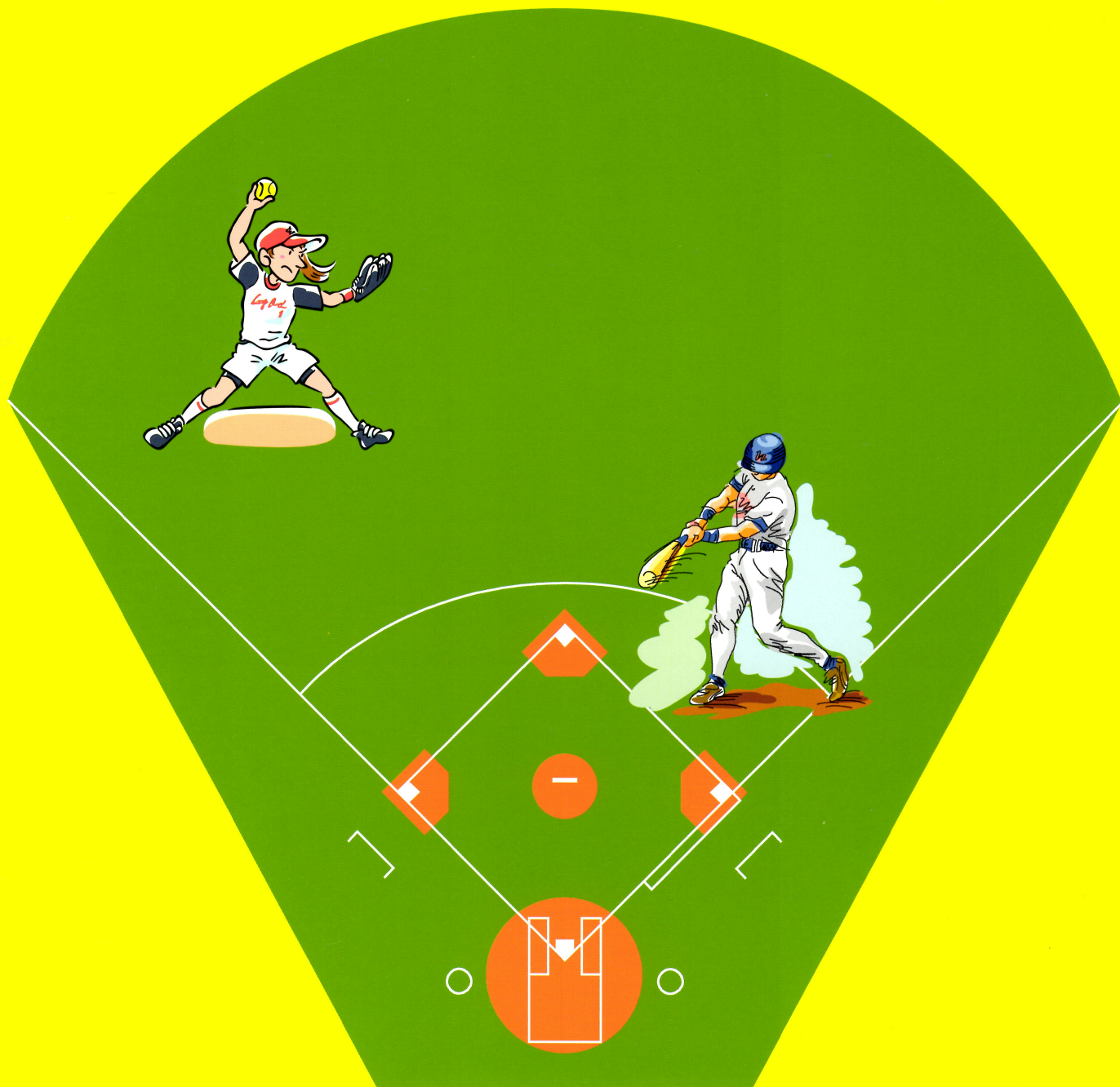
ISSN 1343-439X

ウインドミル

第 20 号



全日本大学ソフトボール連盟



野球・ソフトボール 2020年五輪復帰

ご支援ありがとうございました。



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
一谷 宣宏

学連機関誌「ウインドミル」の第20号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

平成28年度の諸行事も滞りなく終了し、その成果をここに機関誌としてまとめ上げ、皆様にお届けできる運びとなりましたこと大変嬉しく思っております。28年度も大学選手権大会を核にし、各ブロックの活性化、ソフトボール競技の充実を目指す研究等多くの有意義な活動が展開されました。各地区のソフトボールにかける情熱がひしひしと感じられる思いで一杯です。本機関誌は、唯単にゲームの記録を残すのみでなく、ソフトボールに関する貴重な論文・技術論を掲載し皆様のお役に立てばの願いから創刊されたものであることを再認識して頂き、学生ソフトボールの在り方、将来性を確認していこうではありませんか。そのような意味で、学連機関誌「ウインドミル」から得られる情報、研究成果を大切にしていきたいと存じます。

さて、学生諸君・諸姉の皆さん、大学ソフトボール関係者の皆様、今こそ、国際社会を意識し、世界に興味を示し、ソフトボール競技を通じて、世界の中の自分を形成して頂きたいと願っています。そのような意味で、2020年に開催される東京オリンピック大会において、女子ソフトボール競技が正式種目に復活する運びとなりましたことは、大きなチャンスであります。大学ソフトボール発展の大きな推進力となります。三年半先を見すえて頑張ってください。

最後になりましたが、学連機関誌「ウインドミル」がその創刊号より今日まで連続して20号を発刊し、多くの大学ソフトボールファンを魅了しております。これは一重に、貴重な原稿や「記録」をご提供いただいた執筆者や(公財)日本ソフトボール協会記録委員会の皆様をはじめとする関係各位のご尽力と編集にあたる広報記録部会員の努力の賜であります。ここにその熱意に対し深甚なる敬意を表しご挨拶いたします。

ウインドミル

第20号

目 次

ごあいさつ ●会長 一谷 宣宏	1
〔巻 頭 言〕 ●「観る」スポーツとして、大学ソフトボールを盛り上げよう -- 副会長 丸山 悟	4
〔事業報告〕 ●平成28年度の事業報告と今後の活動方針	6
理事長 久保田 豊司	
〔総 説〕 ●運動後のクールダウンについて	7
(公財)日本ソフトボール協会医事委員長 山下 義則	
〔特 集〕 ●世界へ羽ばたけ！！大学生選手	12
第11回世界男子ジュニアソフトボール選手権大会優勝!! --	12
女子トップチームの一員として	18
第5回東アジアカップ女子大学代表結果報告	20
ヘッドコーチ 二瓶 雄樹、主将 平川 瑞穂	
第1回アジア大学女子選手権大会台湾遠征報告	25
ヘッドコーチ 吉末 和也、マネージャー 仲川 知里	
国際大会への対応力と準備	40
全日本男子ヘッドコーチ 西村 信紀	
ソフトボール学生に期待されること	41
全日本女子アシスタントコーチ 木田 京子	
〔研究論文〕 ●野球型競技における打動作の熟達差	42
－投手との間合いをはかる準備動作－ 名古屋大学 高御堂 良太 他	
主催大会の記録 ●文部大臣杯第51回全日本大学男子選手権大会	46
●文部大臣杯第50回全日本大学女子選手権大会	54
コラム 記録席	62
共催大会の結果 ●第48回西日本大学選手権大会	63
●第31回東日本大学選手権大会	68
後援大会の結果 ●第19回ちゅうばりリーグ	72
●第15回大学ソフトボール東海オープン	73
●第18回千葉オープンチャレンジカップ	75

●第17回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	76
●第13回北信越大学オープンソフトボール大会	-----	77
●第8回HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会	-----	78
●第45回関東大学男女ソフトボール選手権大会	-----	79
●藤原初男杯第8回		
全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会	-----	81
全国大会の結果●第62回全日本総合男子選手権大会	-----	82
●第68回全日本総合女子選手権大会	-----	83
各地区の大会結果●北海道・東北地区		
春季大会	-----	84
選手権大会	-----	85
秋季大会	-----	86
●関東地区		
春季リーグ戦	-----	87
選手権大会	-----	89
秋季リーグ戦	-----	90
●北信越地区		
選手権大会	-----	92
新人選手権大会	-----	93
●東京地区		
春季リーグ戦	-----	94
出場枠決定戦・2次予選	-----	96
秋季リーグ戦	-----	97
順位決定戦	-----	99
●東海地区		
春季リーグ戦	-----	100
選手権大会	-----	104
秋季リーグ戦	-----	105
●近畿地区		
春季リーグ戦	-----	109
秋季リーグ戦	-----	114
●中国地区		
インカレ予選会	-----	120
選手権大会	-----	121
●四国地区		
インカレ予選会	-----	122
秋季大会	-----	123
●九州地区		
春季大会	-----	124
秋季大会	-----	125
調査研究部会●投稿規定・執筆要項	-----	126
広報記録部会●連盟表彰	-----	127
SNSの活用について	-----	127
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	128
平成28年度加盟大学一覧	-----	130
編集後記	-----	132

【巻頭言】「観る」スポーツとして、大学ソフトボールを盛り上げよう

東京2020オリンピック・パラリンピックを視野に、

大学ソフトボールの聖地化を！！

副会長 丸 山 悟（日本福祉大学）

大学が有している資源の側面（豊富な人材や充実した施設など）から、大学スポーツが「社会の発展を支える存在として、これからも重要なポジションを占めていく」と、文科省から強い期待を寄せられることに、面映ゆい思いをする人はいたとしても、取り立てて異議を差し挟む大学関係者はいないように思います。しかし、大学スポーツの産業化やスポーツマーケティングの力の発揮（顕在化）によって、日本経済を“元気づける”ような意味で「社会の発展を支える」役を大学スポーツが演じることについては、「箱根駅伝」のようなわずかな例外はあるにしても、荷が重いと感じておられる人は、まだまだたくさんおられるように思います。

文科省の言うように「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）」をつくれば、多様なコンテンツを、競合を避けながら売り出す交渉力を物にできるし、そこが司令塔的な役割を果たすことで、より魅力あるものに変えていくことができる、という意味で、大きな価値を生み出す可能性があると思います。ただし、そこには、大きな「壁」というか、前提が関係してきます。そのようなしっかりとした組織づく

りを「やれたら」とか、それに各大学及び各大学スポーツ種目が「従うのであれば」という、二つの「たら、れば」の問題が浮上してくるからです。

アメリカと比べて日本の方が、はるかに大学スポーツの「商業主義」化に対する批判・抵抗が強いです（スポーツは教育の一環ですから）、学生確保の観点等でスポーツに力を入れている大都市の大規模（総合）大学と地方の中小規模の大学との間の「格差」が激しいので、全国的という意味での「大学横断的な統括組織」を立ち上げるのは相当無理があるように思うし、時間が掛かるのは避けられないように思います。そこに輪をかけて、大学自らの力で人気スポーツを創出した実績に乏しいこと、ノウハウが「薄い」ことがネックとなっており、内発的な動きを鈍らせる大きな要因になっているような気がします。まずは成功体験を積む必要があるのではないのでしょうか？

スポーツが教育の一環であることを十分に自覚しつつ、任意団体であれ全国組織を持って運営をしてきた実績があり、その競技の充実・強化が専門的な学びを進めるうえで大きな刺激と

なり、人間的成長に大きく結びつくことを実感、確信している種目から、まずは「観る」スポーツの要素を高める取組を始めることが重要だと思っています。その取組の前進から「展望」を見出していくことが一番の早道、と言えるのではないのでしょうか？

では、私たちが関わっているソフトボールで、その可能性＝コンテンツの魅力を検証してみましよう。

2020東京オリンピックにおいて、北京オリンピック以来12年ぶりにソフトボール（女子）が野球（男子）とセットの種目としてオリンピック種目に返り咲きました。しかも、野球とともに優勝を狙える種目として国内外の注目を浴びています。

昨年、広島東洋カープの緒方監督が言った「神ってる」が流行語大賞に選ばれました。「カープ女子」もトップテンに入りました。広島の25年ぶりのリーグ優勝もあって、昨年はプロ野球が大賑わいでした。野球は日本において、人気（集客）、収益規模ともに断トツのNo.1スポーツです。今年の3月に行われるWBCで野球（ベースボール）の魅力がさらに高まれば、世界を相手にして戦う東京オリンピックに向けて、ベースボール・ソフトボールへの関心がさらに高まること、必定です。

プロ野球や高校野球を見ることで目の肥えた人々に、オリンピック優勝の可能性を探るといった観点からでも構わないので、ソフトボールも見てもらえるようにしていきたいですね。そ

うなったら、野球と同様の面白さとともに、スピーディな動きなどのスパイスの効いた独自の「味」も噛みしめてもらえるようになるでしょう。ソフトボール人気が一気に高揚する可能性が出てきます。

何から見ていただく必要があるか？私は実は、ソフトボール人気を醸し出す可能性があるのは大学ソフトボールだと考えています。

「神ってる」の言葉が象徴するように、大どんでん返しや思わぬ技が出るのが、プロ野球の魅力、醍醐味となっています。最近の大相撲で「宇良バウアー（居反り）からの逆転」で大喝采を浴びた宇良関も、その「大どんでん返し」ゆえに人気を博しました。

ファン心理には「動き」が速いことへの憧れや、動きが激しいこと、思わぬことが起こることへの「期待」があります。その種目（スポーツ）に対する根強い人気の下敷きにあり、力と力が真っ向からぶつかる真剣な試合（「取組」）でありながら、劇のような「驚き」がたくさん飛び出し、様々に面白い動き、技（わざ）を見せられたら、一瞬の刺激にとどまらず、人々は勝手にそこにストーリーのあるチームカラーや人生（人間性）を被せて、魅了されるものなのです。そういう展開の激しさなどの劇的なもの（演出効果）が、自覚的で真面目なスポーツである大学ソフトボールの中に仕込まれている、ということを強調したいのです。

スピーディという点では大学ソフトボールの良さは歴然としています。しかも、ハラハラド

キドキの逆転劇、緊張の場面がたくさん飛び出します。中には、レーザービーム（イチロー）のようなプロ顔負けの大技も出てきます。さらに、現在の大学ソフトボール（女子）には北京オリンピックで優勝した時の選手、顔なじみの選手が、今は指導者として頑張っています。地域に開かれた大学が多いので、高校野球のように、地元の学校・選手を応援する喜びも味わえます。野球を通した”潜在的な”ファンがたくさんいる「下敷き」の上に、魅力的なコンテンツがたくさんあるのが大学ソフトボールの特徴です。

ただ決定的に欠けているものがあります。そ

れは、高校野球と言ったら甲子園、ラグビーと言ったら花園、秩父宮・国立競技場といった合言葉を持たないことです。大学ソフトボールには「聖地」がないのです。これを改めない限り、前に進めません。しかし、これは自らで変えることができる課題です。「観る」スポーツを創る出発点だと私は考えます。ホーム&アウェーの試合をつくることを含め、心の拠り所でもある「ホーム」を何としてでもつくりましょう。その「ホーム」でじっくり「劇」（play）を見ていただけたら、大学ソフトボールは、プロ野球に負けない面白いコンテンツとして大化けすること間違いなしです。

【事業報告】 平成28年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 久保田 豊 司（大阪国際大学）

本連盟の主催事業である「文部科学大臣杯第51回全日本大学男女ソフトボール選手権大会」は、「大学連盟創立50周年記念大会」と位置づけ、鹿児島県協会・南薩支部協会・南九州市協会のご協力のもと、南九州市知覧平和公園を中心に実施されました。知覧地域は、薩摩藩時代

そのままの歴史と文化を今に伝える武家屋敷が連なり、また、先の太平洋戦争末期本土最南端の特攻基地のあった所でもあります。国家危急を救う大義のもと、若くして殉じた特攻隊の遺品や悲惨な傷跡を残す戦跡を通じて、後世に平和の尊さを語り継いでいる地でもあるため、学

生達には試合だけでなくたくさんの学びがあった場所となりました。

記念大会は、32チームから男女とも40チームに増枠され、優勝旗や優勝杯・準優勝杯のリニューアル、優勝チームにはチャンピオンエンブレムが贈られました。優勝チームには、チャンピオンエンブレムを1年間ユニホームの袖に付けてプレーする権利が与えられ、優勝チームとしての名誉は基より、連盟の模範チーム、選手としての活動、さらにはソフトボール競技の普及、発展への活動等、リーダーとしての多くの期待が込められています。

男子の試合は、環太平洋大学が延長10回6年ぶり2回目の優勝を飾り、準優勝には国士舘大学、3位には常葉大学と岡山大学が入賞しました。女子の試合は、園田学園女子大学が強豪大学相手に全試合無失点で4年ぶり7回目の優勝を成し遂げました。準優勝には、日本体育大学、3位には準決勝戦で惜敗した東海学園大学と日本文理大学でした。

共催している東日本・西日本大学選手権大会は、それぞれ埼玉県坂戸市他と三重県熊野市で開催されました。東日本では国士舘大学（男子）と日本体育大学（女子）が、西日本では広島大学（男子）と園田学園女子大学が頂点に立ちました。また後援大会についても、関東・北信越・東海・近畿・四国・九州の6つの地区で12大会が開催されました。これらは、大学ソフトボールのレベルアップや底辺拡大に役立てて

もらうためのものであり、各種大会において確実にその成果はあがっています。

国際関係では、女子大学日本代表チームが韓国（益山市）で開催された「第5回東アジアカップ」に出場しました。予選リーグから決勝トーナメントまでの4試合を全勝で勝ち上がりましたが、決勝は中国と3度目の対戦で1点に泣き準優勝となりました。また、台湾（台中）で開催された「第1回アジア大学女子ソフトボール選手権大会」は、3位入賞を果たしました。男子においては、ニュージーランドU23チームの招聘を試みましたが、相手協会との日程調整がつかず次年度以降に残念ですが持ち越しとなりました。

最後になりましたが、全日本大学ソフトボール連盟は、昭和41年に創立され50年の時が経ちました。2月には50周年記念誌の発刊とCDの作成、記念パーティーは創立からご尽力をくださった大学連の先輩や多数の関係者のご出席により、盛大に挙行されました。これもひとえに、(公財)日本ソフトボール協会、また各地の都道府県協会をはじめ多くの関係者のおかげであります。また、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたってもご支援を頂き、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。次年度の事業においても、本年度の反省を踏まえ大学連盟は、より一層の発展のために全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆さまの絶大なるご支援・ご尽力をお願い申し上げます。

【総 説】 運動後のクールダウンについて

(公財) 日本ソフトボール協会医事委員長 山下 義 則

はじめに

スポーツ選手は、運動の前に行われるウォームアップは十分に行われていますが、クールダウンは十分に行われていないのが現状です。しかし、十分なクールダウンを行わなかったために、運動によって起こった筋腱の微小断裂の回復が遅れたり、障害のある関節の炎症が収まらなかったりします。

投手が試合後に肩や肘に氷嚢を使用してクーリングしている姿を見たことがあると思います(図1)。これは、その部を酷使したため、筋腱の微小断裂が起こり激しい炎症も来しています。この状況から速く通常の状態にするために運動終了とともにすぐにこれらの部位にクーリングを行っています。また、すぐに氷を使ったクーリングを行わない場合は、軽い運動を行い、その後クールダウンする場合もあります。



図1. 野球選手は練習や試合後はすぐに酷使した場所をクーリングしている。

外傷時に行う医学的な冷却処置をアイシングと呼び、運動後に体を通常状態に戻すことをクーリングダウンと呼びます。その際、選手が高い運動能力を維持するために用いる冷却活動をクーリングとして区別される傾向にあります。コンディショニングのために行うクーリングダウン時に氷を使用してクーリングをする場合は、長い時間や強い冷却は必要ありません。冷やし過ぎは血流を妨げ外傷の

治癒を遅らせ、筋肉の能力発揮を大きく妨げる結果になります。運動後のクールダウンは非常に大切なため、ここで解説します。

(1) クールダウンの目的及び効果

一般的には、運動後の筋肉内に溜まった血液を心臓にもどし、運動時にできた疲労物質の除去を促進して疲労回復を速める。さらに運動で固くなった筋肉をストレッチなどで伸ばして筋肉の緊張をとる。筋肉痛の予防や筋の損傷の回復を促進させる、とされています。

これに加えて医学的な考えを示します。運動をしている選手は、心臓より多くの血液が送られてきて、筋肉が欲しがる酸素を十分に運んでくれます。しかし、運動をやめるとすぐに心臓の脈拍数が少なくなり、血液の供給は下がります。しかし、筋肉はそのままではなお多くの酸素を必要とします。このため、酸素不足が起きて、低酸素障害を来してしまいます。

これを起こさせないためには、クールダウンを行います。クールダウンは、この酸素を大量に要求している状態から効率よく平常状態に戻すことが目的です。

クールダウンの方法として、1つの方法は、筋肉の必要な酸素量を徐々に下げる方法です。このためには、心臓の脈拍を徐々に下げる必要があります、筋肉への負荷を徐々に下げるために軽いランニングを行います。その後ストレッチなどを行います。もう1つの方法は、一気に筋肉の必要な酸素量を下げる方法で、氷や冷水でクーリングを行う方法です。

運動直後は、筋肉や腱では激しいストレスにより微小断裂が起き、関節では、強い炎症を起こしています。この微小断裂や炎症を速やかに治めるために、競技や練習直後にはクーリングが必要です。特に激しい運動では、

運動直後のクーリングが必要です。

(2) クールダウンをしなかったら

(a) 心臓・体への影響

激しい運動の直後、急に運動をやめてしまうと、体の抹消に血液が溜まり、吐き気、めまい、立ちくらみなどを起こす可能性があります。心臓への負荷が多くなります。

(b) 疲労の蓄積

いろいろな代謝物質が体内に蓄積し、翌日に疲労感を感じることがあります。時に慢性疲労になることもあります。

(c) 筋肉痛の発生や柔軟性回復の遅れ

運動直後の緊張した筋肉をそのまま放置してしまうと、筋肉痛が起こりやすくなります。激しい運動では筋肉や腱に微細断裂が起こり、そのままでは回復も遅れ痛みの原因となります。時に柔軟性の回復も遅れます。

(d) 精神的な安静が得られにくい

交感神経が働いた状態で、体の興奮状態が続いたままとなります。このため、精神的な安静が得られず、物事に集中できず心身共に休まらなくなり、気分が不快になることもあります。

(3) クールダウンの方法

クールダウンの方法には、2つの方法があります。運動後の状態から、徐々に通常の状態に戻す方法と、一気に戻す方法があります。前者は、軽いジョギングや速歩から歩行に移行して末梢に貯まった血液を徐々に心臓に戻す方法です。時にストレッチも行います。この方法は、筋肉に関して有効ですが、関節を動かすため、効果炎症を改善する効果は少ないです。

これに対して、一気に通常状態に戻す方法では、氷や冷水を使用して、急激に筋肉の必要酸素量を下げます。さらに、関節の炎症を素早く治めることができます。この2つの方法について述べます。

<1> ゆっくり通常状態に戻す方法

(a) 整理運動

整理運動を行います。ウォームアップとは逆に軽いジョギングや速歩から歩行に移行して、体温や発汗、心拍数を緩やかに安静状態に近づけます。種目によっては近距離の軽いキャッチボールなども勧められます。競技活動と逆方向の伸張運動も取り入れ、ストレッチも行います。状態により、この後クーリングを行うこともあります。

クールダウンにおける有酸素運動の強度は、最大酸素摂取量の30～40%程度がよいとされています。この強度で実施すれば、乳酸の半減時間は、安静とした場合よりも2倍速くなることが知られています。

(b) ストレッチ

クールダウン時のストレッチは、反復する負荷により減少した柔軟性の回復が主な目的です。障害予防のためにも体温が低下する前に、減少した柔軟性を回復させることが大切です。まず、低負荷による持続伸張ストレッチを行います。低負荷による持続伸張は、伸長反射を起こしにくい点からも有効です。実際のストレッチは、それぞれの方向に大きな反動をつけず、自重などを利用して軽い負荷により、数十秒間以上かけて持続的に伸張する方法が用いられます。ときとして、関節深部に位置する小さな筋肉は、関節運動だけでは、伸張が困難な場合があります。この場合、体表部から硬結部を圧迫することによって伸張を補助する事もあります。上肢の場合のストレッチングは、伸張部位と方向を考えて行います。

<2> 急速に通常状態に戻す方法

(a) アイスパックの使用（キューブアイス又はクラッシュアイス）（図2）

アイスパックには、アイシング専用の袋（Soft ICE Bag等）の用意があればいいですが、ない場合はビニール袋（13～14号位）に

氷を半分くらい入れ、氷を広げできるだけ平らにします。その後、口で空気を抜きながら袋を捻り袋を閉じます。通常、冷凍庫から出した氷は必ず水を入れます。

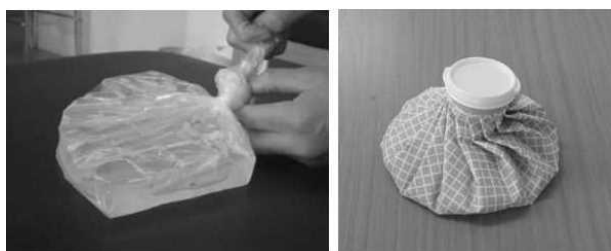


図2. ビニール袋を使用したアイスバック 市販のSoft ICE Bag 氷を入れて使用する。

クールダウンを行う時間は、環境温度や個人個人で異なりますが、通常は5～15分間程度を考えています。選手が不快感を訴えればその時点でクールダウンのためのアイシングを中止します。氷を使ったクーリングでは、最初は5分くらいで我慢できなりましたが、習慣的に行えば、不快感も少なくなり、15分間程度のクーリングはできるようになります。

クーリングにより麻酔が効いた状態となれば、クーリングを終了します。クーリングは、通常の状態に戻ることを目的としているために、この時点で終了します。通常は1回のクーリングでよいと考えられます。しかし、激しい運動の場合や疲労の強いときには8時間以内にもう一度行うこともあります。この場合、クーリングにかかった時間の2倍以上の時間の休息を入れて行います。

小・中学生や女性など筋肉量・脂肪量が少ない場合には大人の男性に比べれば同じ量の氷を使用したとしても冷却効果はより大きくなります。このため、5～10分で良いと考えられます。大切なのは、個体差考えて冷やしすぎないような安全な時間を決める必要があります。大きくて体重がある人でも、クーリングは20～25分程で十分であり、これ以上の時間は不要です。

(b) アイスマッサージの施行 (図3左)

限局した炎症の場合は、通常、氷片を体表

から直接に塗布するアイスマッサージを行います。大きめのアイスキューブ（紙コップに水を入れ、冷凍したもの等）を直接患部にあって、水滴をタオルで拭き取りながらゆっくりとマッサージを行います。冷感からピリピリとした痛みに変わり、しばらくして反応性充血により皮膚が発赤してくると鈍痛を感じるようになります。5～10分間施行して皮膚が白く変わり局部の感覚が鈍くなってきたら終了します。皮膚の状態を観察しながら凍傷に気をつけて行ってください。時として、薬剤を入れたアイスキューブを使用することもあります。



図3. アイスマッサージ、 クリッカーボトル、
紙コップの一部をはがし 限局した炎症の場
直接患部にあてる。 合に使用する。

(c) クリッカーボトルの使用 (図3右)

限局した炎症の場合、時に円筒形の容器の先端が丸い金属になっているクリッカーボトルも使用されます。中に氷を入れると先端の金属部分が冷たくなります。冷却された金属部分を用いて局所的にアイスマッサージを行います。使用方法是、アイスマッサージと同じです。

(d) アイスバス（冷水浴、アイスバケツ）の使用 (図4)

大きめのバケツや四角い容器に氷水を作って、その中に足や手などを入れてクーリングする方法です。温度の調整に氷を使用するため、アイスバスと呼ばれていますが、決して氷の中に入るものではありません。この方法は、冷やしたい部位全体がクーリングされるのでとても効果的ですが、容器の大きさでクーリングができる部位が限られます。下肢の

クーリングに使用される場合が多いですが、肘や手関節にも使用されます。足関節から下肢の運動後や肘から手の慢性炎症に対して使用されています。足関節部で使用する場合は、つま先の冷たさを減らすためにトゥキャップで保護することもあります。



図4. アイスバス（温度調整に氷を使用）、激しい運動後にはアイスバスが勧められる。

近年は、大きなアイスバスが用意されていて、下半身全体や全身が入れるようになっていきます。オリンピックなどでは、各国が専用のブースを用意して、練習や試合が終わるとすぐに選手が入っています(図5)。アイスパックを使用する場合よりも、より効率よく冷却ができます。図6は、ロンドンオリンピック女子七種競技の金メダリストのジェシカ・エニス選手がアイスバスを使用しながらインタビューを受けている写真です。



図5. ロンドンオリンピック競技場でのクーリング・スペース（ICE BATH AREA）これ以外にも数カ所で設定されていた。



図6. 優勝直後にアイスバスを使用しながら、インタビューを受けているジェシカ・エニス選手（英）

アイスバスには、適温があります。日本では、通常は約12℃前後のアイスバス（冷水）を頻繁に使用しています。この場合、下肢全体を3～5分間漬かるように指導しています。

アイスバスで注意することがあります。運動直後は下肢に大量の血液があり、まず血液を心臓に戻してからアイスバスを使用するように指導しています。立って行う下半身用のアイスバスの場合には、少し整理体操を行った後に用いるよう指導しています。また、全身を横になって入る場合は、整理体操を行った後に使用するか、すぐに使用するかは選手に任せています。下肢に水圧もかかりますので、心臓への負荷も立った場合よりも少ないと考えられます。

アイスバスを使用する場合、入浴時間のガイドラインがあります。水温18度以上では入浴時間は30分まで、水温15～18度では入浴時間は20～25分まで、水温12～15度は15～20分まで、水温10～12度は12～15分まで、水温7～10度は8～10分までを指導しています。水温7度未満では行いません。通常この時間で十分クーリングができると考えられます。

運動後のクーリングを十分理解して、良いコンディショニングを作ってください。

【特集】 世界へ羽ばたけ！！ 大 学 生 選 手

第11回世界男子ジュニアソフトボール選手権大会 優勝！！

～U19日本代表、第1回大会（1981年）以来、無敗の完全優秀で2度目の世界一に輝く～

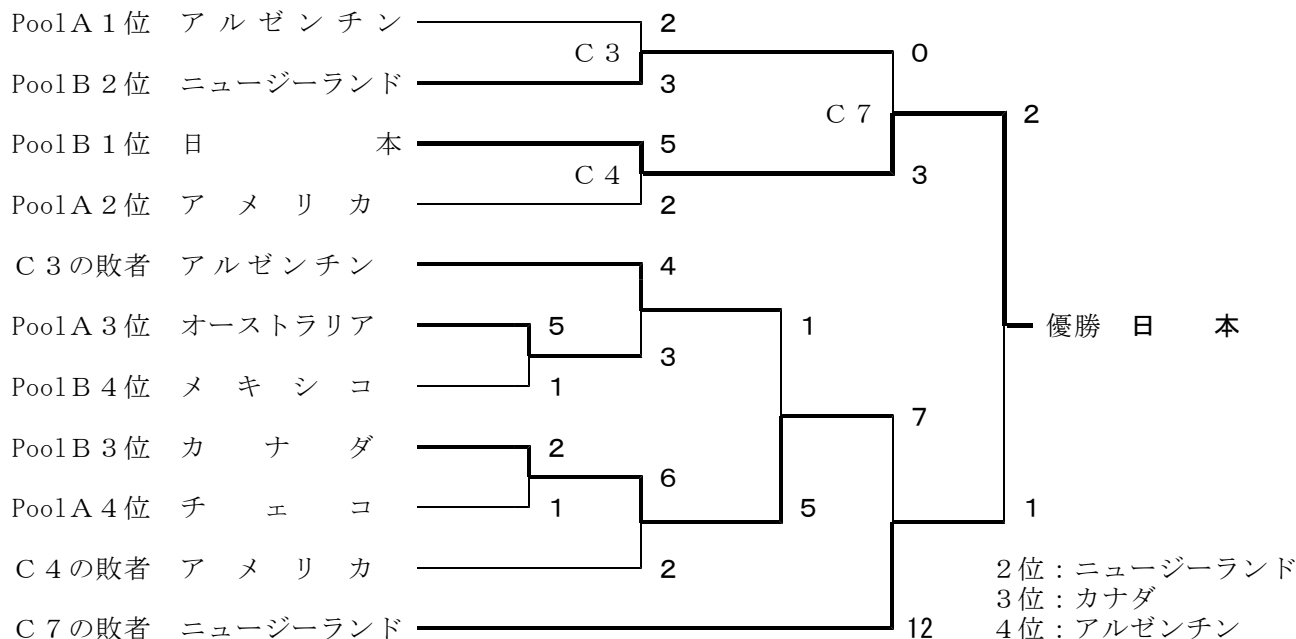
- 開催期間・場所 2016年7月24日(日)～30日(土) アメリカ・ミシガン州ミッドランド
- 参加国 PoolA：アルゼンチン、オーストラリア、アメリカ、チェコ、デンマーク、ボツワナ
PoolB：ニュージーランド、日本、メキシコ、カナダ、南アフリカ、イスラエル
- 会場 メイン球場：キューリースタジアム (Currie Stadium)
サブ球場：エマーソンパーク フィールド3 (Emerson #3)
- 試合方式 予選ラウンド・PoolA・B内でシングルラウンドロビン方式のリーグ戦で順位を決定
A・B各Pool上位4チームが決勝トーナメント (Championship tournament) へ
下位チームは順位決定トーナメント (Placement tournament) へ

●出場選手	No.	守備	氏 名	支部	所属
	1	投手	小 山 玲 央	長崎	長崎県立佐世保西高校
	2	〃	酒 井 匠	東京	日本体育大学
	3	〃	長 井 風 雅	広島	広島県立御調高校
	4	〃	中 島 優 人	東京	国士舘大学
	5	〃	メンズ ジェラン 秀吉	長崎	長崎県立大村工業高校
	6	捕手	上 田 郁 也	東京	日本体育大学
	7	〃	調 和 政	長崎	長崎県立佐世保西高校
	8	内野手	芦 田 翔	兵庫	神戸学院大学
	9	〃	今 井 悠 貴	岡山	平林金属
	10	〃	昆 野 智 之	岡山	IPU環太平洋大学
	11	〃	坂 田 大 士	熊本	熊本県立熊本工業高校
	12	〃	竹 森 歩 夢	東京	日本体育大学
	13	〃	真 崎 海 斗	長崎	長崎県立佐世保西高校
	14	〃	松 尾 舞 輝	徳島	ジェイテクト
	15	外野手	池 田 泰一朗	東京	日本体育大学
	16	〃	瓦 口 昂 弥	福岡	オール福岡
	17	〃	森 田 健 斗	栃木	ホンダエンジニアリング

●予選ラウンドPoolB

チーム	N Z L	J P N	M E X	C A N	R S A	I S R	勝	分	敗	順 位
ニュージーランド		● 0 - 1	○ 11 - 1	○ 3 - 1	○ 16 - 1	○ 17 - 0	4	0	1	2 位
日 本	○ 1 - 0		○ 6 - 3	○ 9 - 1	○ 14 - 0	○ 6 - 0	5	0	0	1 位
メキシコ	● 1 - 11	● 3 - 6		● 0 - 3	○ 6 - 1	○ 7 - 0	2	0	3	4 位
カ ナ ダ	● 1 - 3	● 1 - 9	○ 3 - 0		○ 6 - 0	○ 6 - 1	3	0	2	3 位
南アフリカ	● 1 - 16	● 0 - 14	● 1 - 6	● 0 - 6		○ 12 - 1	1	0	4	5 位
イスラエル	● 0 - 17	● 0 - 6	● 0 - 7	● 1 - 6	● 1 - 12		0	0	5	6 位

●決勝トーナメント



※本項は(公財)日本ソフトボール協会のHPを参考にしました。詳細は、www.softball.or.jp/をご参照ください。

●出場した学連登録選手の声 (ポジション・アイウ順)

世界一

日本体育大学 酒井 匠

私は小学校の頃からソフトボールをしていました。その時は、北京オリンピックで女子の日本代表が金メダルを取って、私が所属していたソフトボールチームの人数がだんだん増えていき、大会での優勝争いがどんどん厳しくなっていました。しかし、それ以来ソフトボールはオリンピック競技から外されてだんだんと競技人口も少なくなってしまう、次第に知名度も落ちていきました。けど、女子日本代表が優勝してからずっと日本代表に私は憧れていました。だから私は中学校の時は野球をやっていましたが、高校生になってからはまたソフトボールを始めました。

高校時代の目標はチームとしては全国制覇を目標に、個人としては日本代表を目標にして三年間やってきました。そして日本代表になれるチャンスが3年の時やってきました。私はその年のインターハイで準優勝していて周りから「受かるだろう」と言われていました。しかし自分の中では、自信が無く、かなり弱気で選考会に臨みました。選考会では、あまりいい結果が残せないまま終わ

ってしまい受かる気が全然しなかったです。そして受かったと聞かされた時はすごく嬉しかったのと、日本代表になったという重みも感じました。

そこから、大学の練習も真剣に取り組み始めて代表が集まる合宿に向けて、頑張って取り組みました。そして、合宿が始まり最初はみんな各チームでやっていたので息が合わない場面はたくさんありました。この合宿では一勝もできず悔しい思いと焦りのなか解散しました。私も合宿の結果が悪かったので大学での練習はその時見つかった課題を思い出してやっていました。そしてみんなで羽田空港に集合して大会会場であるミットランドに向かって出発しました。みんな空港までは楽しくやっていたんですが、会場に着いたら一気に雰囲気が変わり集中していました。そして現地に到着してから2試合練習試合をやりました。その2試合は合宿の時よりも全然違って2試合とも勝つことができ良いイメージで試合に臨めることができました。そして1試合目はイスラエル、2試合目は南アフリカとの試合は連勝でき、そして今大会優勝候補のニュージーランドとの試合が次になりました。みんな前日から気持ちを作り良い状

態で試合に臨みました。その結果全員の力で勝つことができました。そして予選リーグはその勢いで全勝で通過することができました。その時からみんなの気持ちは優勝に向けていたため負ける気が全くしなかったです。そして最後まで日本らしく元気を出しながら戦い、決勝リーグもアメリカとカナダを寄せ付けず、全ての試合を全勝で世界一になりました。世界一になれたのは選手の気持ちの強さもあると思いますが、監督やコーチ、トレーナー、親などの存在もすごく大きいと思います。この経験をいかして更に上を目指して行きたいと思います。

世界一になって

国士舘大学 中 島 優 人

今回U19に選出され、日本代表選手になることが出来ました。初めてみんなが集まって行った長崎合宿では、後輩が多くチーム状況があまり良くなく、試合では連携プレイやバッテリーミスが多く出てしまい1勝も出来ず、不安だらけのまま開催地であるアメリカのミシガン州ミッドランドへ行きました。現地に入って早速カナダ代表と練習試合をしました。私は先発を任せられ、初めて外国人相手に3イニング投げ、守備に助けられながらなんとか無失点に抑えることができ、自分にとって大きな自信になりました。

そして、初戦が近くなるに連れて、徐々にチームワークが良くなり、どんな練習も楽しく感じる事ができ、チームを盛り上げていこうと決意しました。

大会初戦、私はイスラエル戦での先発を任せられ、自分の思うようなピッチングができ、初戦を白星で飾ることが出来ました。また、南アフリカ戦でも先発を任せられ、緩急でバッターを三振に打ち取り、いい感じで次のピッチャーへと繋ぐことができました。ニュージーランド戦では、目の前でニュージーランド代表の「ハカ」を見ることで、これが世界かと緊張すると共に、絶対優勝して日本に一番いい色のメダルを持って帰ってやろと思いました。

決勝戦は、予選と決勝トーナメントで2度戦っ

たニュージーランド代表でした。やはり予選とは違い、一筋縄では行かない相手で、とても緊迫した状況でした。点を取ったと思いきや相手も食らいつき点を取られ、今までに経験したことのない白熱した試合でした。今改めて試合を振り返ってみると、私たち日本代表は勝ちたいという気持ちがニュージーランド代表よりも強く思っていたからこそ世界大会を35年振り2度目の優勝の栄冠を手に入れることが出来たと思います。

私は、日本代表になって3つ思ったことがあります。

1つ目は、グラウンドでプレイしている人、ベンチで周りに声をかけてくれる人など、自分の役割をしっかりと果たしていたこと。

2つ目は、どんな相手でも自分のパフォーマンスをする大切さ。

3目は、応援・サポートをして頂いた方々への感謝の気持ち。

そして、世界のピッチャーを見ることで、自分とは何が違うのか、どんな投げ方のピッチャーがいるかなど、今後の私にとってとてもいい経験になりました。

私は日本代表選手になり色々なことを学び、いつかはA代表に選ばれ、あの舞台にもう一度立ち優勝したいと思います。そのために、これからは自分に足りない部分を補い、常に課題を持って内容の濃い練習を行っていこうと思います。

世界一への道のり

日本体育大学 上 田 郁 也

私は小学校のからソフトボールを始めました。小学生のときにはまだまだ日本のソフトボールのことも全然知らず、ただただソフトボールをしていました。しかし、高校に進学して1年生のときのインターハイで優勝した際、その年に日本代表になった投手のピッチングを見て、私もこのような投手のボールを受けてみたいと思うようになりました。そしてそのチャンスが来ました。高校の監督から「お前なら選考会に受かるだろう。」その一言が後押しになり、選考会に行きました。その中には全国の舞台で何度も戦った実力者たちが

大勢いました。3日間の選考会を終え、合格通知が来るまでの時間はとても長く感じました。合格を知った時は素直に嬉しかったです。しかし、そこで満足している暇はなかったです。世界を相手に戦うには、代表内でレギュラーを取らないといけなかったのも、大学の練習を必死に取り組みました。

そして迎えた6月の代表合宿。5日間に及ぶ戦いが始まりました。1日目、2日目に練習を行い、3日目からはいよいよ試合形式に入っていました。私は捕手を守っているのですが、初めて受ける投手のボールに戸惑い、アピールしてやろうと思う気持ちが先走り、まったく自分のプレイができませんでした。試合の結果も全敗という散々な結果になり、私もチームも不安を残したまま代表合宿が終わりました。自分のチームに帰り、合宿で出た課題を練習しました。そしてあっという間に世界選手権がやってきました。慣れない環境に戸惑いつつ、グループ予選がスタートしました。1戦目のイスラエル、2戦目の南アフリカと連勝して迎えた3戦目、相手は優勝候補のニュージーランドでした。1位通過をするには落とせない試合とチームの雰囲気も次第に上がり、先制点を取ると、その流れのまま勝利しました。ここからチームも勢いが増し、続くカナダ、メキシコにも勝利しグループ1位通過を決めました。このときからもしかすると優勝できるんじゃないかと思いました。

決勝トーナメントが始まり、一回戦のアメリカに勝利すると、準決勝、決勝戦には、またしてもニュージーランドが立ちはだかりました。試合を重ねるごとにチームが成長しているのを感じました。そして優勝を決めたとき、私の競技人生の中で最も嬉しかった一瞬でした。日本に帰ってきてても全く実感は湧きませんでしたが、みんなからおめでとうと言われるたびにすごいことをしたのだなと思いました。この結果は、私一人ではなく、日本代表のコーチの方々、共に戦った選手だけでなく、今までソフトボールという競技をしてきて関わってきた人たちみなさんのおかげです。またいつも支えてくださっている家族への感謝を忘れ

ず、日本代表だったという誇りと経験をこれからの競技生活の糧にしていきます。

世界大会での経験を次へ

神戸学院大学 芦田 翔

今回、世界男子ジュニア選手権大会で優勝できたことはかけがえのない経験になりました。

初の世界大会で、不安や緊張はもちろんありましたが、一方で日本のソフトボール・自分のプレイがどこまで通用するのか楽しみでもありました。食事の面が気になりましたがスタッフの方々のおかげで何も気にすることなく試合に集中することができました。

合宿の時は勝ち上がれるのか不安でしたが、アメリカでのテストマッチが大きな転機になったと思います。初戦は緊張から堅さが出ていましたが、徐々に緊張も解けプレイできました。試合を重ねていくうちに、チームの団結力・個々のモチベーションが上がってきたことを実感しました。予選リーグは全試合、無心に戦った記憶しかありません。あのような感情でソフトボールをしたことは今までになかったと思います。決勝トーナメントに入るとチームの調子も最高潮になり負ける気はしませんでした。ゴールドメダルゲームでは、今まで味わったことのない緊張感があり、一つのミスさえ命取りになるような試合でした。疲労もたまり、苦しい場面もありましたがチーム一丸となって日本らしく戦えたのが勝利のポイントだと思います。海外選手のパワー、スピードは想像を超えるものでした。今までに経験したことのないピッチャーのリズムや打球の速さに対応するのは大変でしたがコーチによる適切なアドバイスのおかげで対応することができました。このように選手だけではなくコーチ陣のデータ分析などがあったからこそ勝ち上がれました。

世界一になれてほんとによかったと思います。優勝した時は、今までの不安や重圧から解放され、ただただ嬉しく、これまでやってきてよかったと思いました。ここまで楽しく緊張感のある戦いは初めてでした。

大会を通して今までとは違う自分を知れたこと。

自分で実感できる技術面の成長。他にも自分自身気づかない精神面の強さも成長したと思います。この世界一はスタッフ・選手だけの力だけではなく、ソフトボール関係者やこれまで支えてくださった方々のおかげです。世界一という結果を残すことでこれらの方々への恩返しになったのではないかと思います。

この経験は自分にとって大きな武器となり、ソフトボールを続ける上で貴重な経験ができたと思います。今、こうやってソフトボールを続けることができるのも自分ひとりの力だけではないということを噛みしめ、感謝の気持ちを忘れることなく、今大会での経験を無駄にすることのないよう今後もプレイしていきたいと思います。

日本代表としての活動を終えて

環太平洋大学 昆 野 智 之

この度、男子U19日本代表の一員として第11回世界男子ジュニア選手権大会の完全優勝に貢献できたことを誇りに思っています。今大会での優勝は、男子ソフトボール界にとって大きなものであり今後の日本のソフトボール界を活気づけるものとなればと思います。選手たちの高い意識や、監督、コーチ、トレーナーさんたちの支えがあつてこそ無敗の完全優勝が出来ました。

代表メンバーが決まってから世界選手権までは4ヶ月もなく、自分を含め選手全員が焦っていました。強化合宿では、福岡大学とダイワアクトとのテストマッチを行いました。チームとしてまとまりが無く全敗しました。普段と違うメンバーや雰囲気、日本代表としてのプレッシャーなど様々な重圧に負けていたのだと思います。この時に選手間の会話でも「こんな試合してたら世界相手じゃ通用しない、ほんとに勝てるのか」など不安の声ばかり上がっていました。この5日間の合宿で自分の力を知り様々な反省点が出ました。しかし、初めて一緒にプレイをする仲間たちと過ごすことで一人一人の性格や人柄などが分かり、チームの雰囲気が良くなりチームワークが生まれました。世界選手権の際は、このチームワークがあつたか

らこそどんなに苦しく辛い時でも声を掛け合い励ましながら戦い抜くことができたと思います。合宿から世界選手権までの1ヶ月は反省点を改善したり、新しい技を身につけたりなど能力アップに向け練習に励みました。

アメリカの現地入りをしてからは、アルゼンチンとカナダとテストマッチを行いました。合宿の時とは違いチームワークも出来てどの試合も快勝することができました。世界選手権二連覇中のアルゼンチンを倒したことで、チームの士気が上がり自信もつきました。予選リーグでは、優勝候補のニュージーランド相手に緊迫した試合の中、1-0で勝つことができチーム全体の士気をより上げるものとなりました。予選リーグを1位通過できたことで、1つ勝てばメダルが確定するという有利な位置に立ちました。しかし、私を含め選手全員は金メダルを手に入れることだけにこだわっていました。決勝トーナメントも順調に勝ち進み、ゴールドメダルゲームの相手はニュージーランドでした。対戦が3試合目ともなると日本の戦い方も研究され、簡単に勝てる試合ではありませんでした。最終回まで同点で進み両チームとも一歩も譲らず、ワンチャンスをものにした日本がサヨナラ勝ちをすることができました。優勝した瞬間は鳥肌が立ち、とても嬉しく一生忘れられないものとなりました。合宿のときには不安だったチームが予選リーグから試合を消化していくうちに成長を遂げ、最後の決勝トーナメントでは全員が自信を持ち戦うことが出来ました。

日本代表としての活動は短かったのですが、目標を達成した時の喜びや諦めないことの大切さ、周囲で支えてくれてる人達のありがたさなど様々なことを学ぶことができ貴重な体験が出来ました。U19日本代表として経験した興奮や感動を日本代表メンバーでもう一度味わいたいと思いました。次回のU19日本代表選ばれた後輩達には、二連覇を是非目指してもらい同じ喜びを味わってほしいです。短い間でしたがとても楽しかったです。仲間やスタッフの方々、支えてくれた関係者のみなさんに感謝しています。ありがとうございました。

世界一までの道

日本体育大学 竹 森 歩 夢

2016年第11回世界ジュニアソフトボール選手権大会で優勝することができ世界一になることができた。ここまでの道のりには様々なことがありました。3月に日本代表の選考会が行われ私が受かるはずもないと思い、経験のために受けるだけ受けてみようという初めはそのような気持ちでした。しかし、その中で自分をアピールしていき選んでいただけることができました。山口ヘッドコーチから私に直接電話があり、私にキャプテンをやってくれないかと言われました。正直私は引き受けるかどうか悩みました。自分が日本代表のキャプテンとしてチームを纏めていくことができるのか、私がキャプテンをして皆がついてきてくれるのか不安しかありませんでした。

不安の中、選考会後日本代表に選ばれて初めてみんなが集まる国内強化合宿が行われました。練習でも守備の連携が上手くいかなかったり、高校生と大学生の年齢と環境の違いから私もチームを上手くまとめることができず、結局4試合を行って1試合も勝つことができませんでした。チームの雰囲気も良くはなく不安がさらに大きくなったまま合宿を終えてしまいました。合宿中も私が何度も選手ミーティングをしましたが、本気で聞いてくれている気がしなく私には無理かもしれないと正直思っていた。合宿が終わり世界大会まで2週間しかなく選手はまた各チームに戻るようになって、私はこの2週間どのようにすればチームが良い方向に進むのか毎日考えていました。同じ大学である副キャプテンの池田と二人で話あったりもしました。酒井や上田とも常に世界大会を意識して練習を行い士気を高めていきました。

いよいよアメリカに到着し、テストマッチが行われました。課題であった打線の繋ぎやピッチャーの制球力などチームみんな合宿の時とは見違えるほど意識が上がっており、私もチームを引っ張っていくことに何のストレスも感じなくなりました。私たちは試合を重ねるごとに成長していくのがわかりました。これは間違いなく選手個人の意識、山口ヘッドコーチをはじめとしたスタッフの

方々のおかげであると思います。選手、スタッフが信頼しあい一体となって試合に臨むことができ、私もキャプテンとして信頼されていることを実感し、さらに私が纏めていくという気持ちが強くなっていきました。

迎えたファイナルでのニュージーランド戦これまでにないほどチームが一つになり、みんな全力で声を出していた。試合結果は森田のサヨナラヒットで勝つことができました。気づいたらみんなマウンド上に集まり喜んでいました。そのとき山口ヘッドコーチから、竹森いいチームになったな、竹森をキャプテンにしてよかったと言われた時は肩の荷が下り涙が止まりませんでした。本当に最高の仲間とスタッフとソフトボールができていい経験をさせていただきました。この喜びは今でも忘れません。この経験を活かしてソフトボールを続けていきたいと思っています。

世界一を目指して

日本体育大学 池 田 泰一郎

私は高校まで野球をしており、正直な話男子のソフトボールが高校、大学と競技としてあることを知りませんでした。北京オリンピックで女子日本代表が金メダルを獲得したのをテレビの前で見ていたので、余計に女子のスポーツという先入観が、あったのだと思います。しかし縁あって日本体育大学の男子ソフトボール部に、入部させていただけることになり、そこから私のソフトボール人生が始まりました。毎日素晴らしい環境でソフトボールに打ち込むことができたおかげで、ソフトボールの魅力に引き込まれ、そこからもっとうまくなりたい、活躍したいと思う気持ちの延長が今回のジュニア日本代表入りに繋がったのだと思います。選考会に参加させていただくのも、自分の中ではここで代表になって、自分の人生を変えてやると強い気持ちで臨みました。勝負の世界は気持ちで負けてしまうと、勝てる勝負も勝てなくなるし、チャンスは訪れないと自分の中でいつも思っていることが実践できたのだと思います。メンバーが選ばれ、強化合宿を行いチームの強化をしているときに気がついたことがあります。

私は最年長ということもあり、代表では恐らく中心を打つのだろうと、勝手に思っていました。自分の一番の持ち味はバッティングだし、そこを評価されての代表入りだと思っていたからです。しかし、それではチームが機能しませんでした。大会に入ると日本のピッチャーよりも確実にレベルがあがるし、工夫しないと打てないと山口ヘッドコーチからミーティングでお話があり、そこで自分が打たないといけないから、繋いでチームみんなで相手を崩せばいい、とにかく自分は泥臭くいくんだという意識に変わりました。その意識が大会を通じて個人的に結果を出せた要因の一つだと思います。チームは若いチームでしたが、練習から試合から一つ一つ乗り越えていくたびに、強くなっていくのをやっている選手自身が一番感じていたんじゃないでしょうか。ファイナルのニュ

ージーランド戦は、今思い出しても鳥肌が立ちます。体格もパワーも確実に相手の方が上でしたが、それでも負けない日本の団結力、精神力はこの先も世界に誇れることだと感じました。結果はサヨナラ勝ちだったのですが、最後のチャンスをキャプテンでもあり、同じ大学の竹森と作れたましたし、勝って泣いているのを見て勝たせてあげられてよかったな、キャプテン辛かったんだろうなと思うと自然と抱き合ってよかったよかったと、二人で泣いたのを覚えています。

今回の世界一が男子ソフトボールの強化、発展につながればとても嬉しく思います。そしてこれからも、自分自身男子ソフトボールの発展に少しでも貢献できるように、努力を惜しまずまだまだ一生懸命ボールを追いかけていきたいと思います。

女子トップチームの一員として

USAカップを終えて

日本体育大学 岡 村 奈々

この度日本代表として選出して頂きUSAカップに参加させて頂きました。これまでも何度か日本代表として練習や試合、遠征に参加させて頂きましたが、その中で「日本代表」としての先輩方の背中や環境から得られるものは多くありました。

まず、自己管理をしっかりし、いつでもどんな時もベストパフォーマンスができることです。どうということかという、国際大会は大半が海外で行われ日本のような整った環境はほとんどありませんでした。予期せぬことが当たり前のように起こります。試合時間や練習場所・時間の急な変更・食事・グラウンドの整備不順・天候の変化などあらゆることに対応しなければなりません。どんなに凄い選手でも体調を崩してしまえば勝負になりません。世界選手権やオリンピックのような長い

期間試合が行われる場合はなおさら自己管理が重要になります。心身ともに疲れがたまった状態でも試合はあり、そこで結果を出さなくてはなりません。ベストな状態で挑めるように、ダウンを念入りにしたり、持参したサプリメントや食べ物で栄養を補ったり、セルフケアの大切さを学びました。また、空き時間・自由時間の使い方です。トレーニングを行ったり、休養したり、練習したりと時間の使い方はそれぞれですが、与えられた環境のなかで自分を整えること、高めることが当たり前のように行っていました。

次に、人間性についてです。人として、日本を代表する者としてどうあるべきか考え直す場でもありました。ソフトボールをはじめスポーツは決して一人ではできません。監督やコーチ、チームメイトや対戦相手、トレーナー、マネージャーだけでなく、大会や練習を運営してくれる役員の方や道具を提供してくれるスポンサーや家族など支

えてくれている沢山の方々や応援してくれる人がいて初めて私たちが思い切りプレイすることができます。また、日本代表でプレイするということは、子供から実業団の選手まで誰もが目標や憧れを抱くものだと思います。こんな選手になりたい、ここで私もやりたいと思われるような選手でなければならないと思いました。応援したい・力になりたいと思われる選手、そして組織であることが大切だと感じました。

最後に、世界を相手に戦う選手やスタッフから技術的に学ぶことも沢山あり、私自身更に頑張ろうと良い刺激を受けましたが、それ以上に学ぶことがあり非常に勉強になりました。いいプレイをすることだけでなく技術を向上させるための人間性を高めること、応援したくなるような選手やチームになること、試合にベストで挑むための世界の準備をすることです。貴重な経験をさせて頂き目指す場所が明確になったいま、もう一度日の丸を背負える選手になれるよう努力していきたいと思いました。

※岡村投手は予選ラウンド6試合中4試合で8回を投げて1勝0敗 チームは順位決定戦でアメリカを破って優勝

私が学んだこと

東京女子体育大学 秋 元 菜 穂

TAP-Bでの経験は、私の人生を大きく変え、ソフトボールを10年以上続けてきた中で何よりも価値のあるものとなりました。この経験から学んだことは計り知れませんが、中でも、私が最も重要だと感じたことを綴っていききたいと思います。

第一に、ただ技術が優れていればいい選手というわけではないということです。

技術が一流であるとともに人間性も一流でなければいい選手とは言えません。私たちは多くの人の支えがなければ、ソフトボールを続けることは不可能です。家族、友人、先生、他にも関わってきた全ての人々、誰一人として欠けていては今の自分はなく、いつ、どんな時でも「応援される選手」でなければなりません。TAP-Bでは、ほとんどが実業団でプレイする年上の選手でした。その中で自分だけのことを考えている選手は一人もい

ません。挨拶や返事はもちろん、常に周りへの気遣い、優しさを忘れない行動は全てが私の見本となり、同時に自分自身の人間性の乏しさを痛感しました。技術の向上というのは、豊かな人間性を作るものであり、このことにプラスして、どの選手も自分のスタイルをもっているということを強く感じました。周りを見て気を遣うがゆえに、自分のやることを怠ってしまうということがありません。

全員に同じ時間が与えられた中で、各々が自分に必要なこと、自分が今やるべきことを理解した上で動いていました。また、周囲に流された行動をとっている人は一人もおらず、自分なりのこだわり、やり方など、ぶれないものをもっていることはそれだけで自分の強みになります。

「これだけは誰にも負けない」というものを身に付けることで、ソフトボールにおいて自分の生きる道が自然と見えてきます。その自分を作るためにも、自ら学びにいく姿勢を常にもっていなければなりません。何も行動に移せなかったり、指示を待っているだけでは必ず損をします。どの選手も「そこまでするのか」と思うほど、学ぶことに対して食欲でした。

学ぶこと、そして研究することが尽きることはありません。自分に合わないものを無駄だと捉えるのではなく、たくさんの方の方法や考え方を吸収することが大切です。

私はTAP-Bでプレイすることができ、ソフトボールに対する考え方や意識、モチベーションの全てが変わりました。多くのプロフェッショナルと関わり、様々な角度から刺激を受け、もともと高いレベルでソフトボールがしたいという気持ちが人生を変える大きな目標を生みしました。この目標を必ず達成するという決意が、私のこれからの行動を変え、取り組みに表れます。そして、今の自分が精一杯だと決めつけてはいけません。誰にでもチャンスはあり、そのチャンスを掴むために努力をするのです。上手くいくことの方が少ないですが、その先に目指すものを見失わなければ、必ず達成できると私は思います。

成 長

東京富士大学 江 渡 祐 希

今回、女子ソフトボール日本代表TAP-Bに選出していただき、平成28年6月19日から25日まで静岡県伊豆市天城ふるさと広場野球場で行われた第一次国内強化合宿に参加させていただきました。

多くの実業団の選手の方々・大学生・高校生が集まり、TAP-AとTAP-Bそれぞれのグラウンドに分かれて初日は練習をし、翌日からは、Tap-A対TAP-Bの練習試合を行いました。練習試合で登板しましたが、私と他の選手のレベルの差を感じ、実力の無さを改めて実感しました。他の選手の動きも、考え方も全く違い、私自身に不足している部分、課題は沢山あり、強化合宿中に優れた選手の技術面、体力面、精神面など様々な事を吸収していくチャンスだと思いました。試合を行っていく中で、実業団の捕手と組む機会があり、決め球をうまく活かし他の変化球も活かした配球など、今までと違う配球ハターンの発見がありました。6月21日からはカナダ・ナショナルチームも参加し試合を行いました。海外の選手はリーチも長く、外した球でも軽々と打ち返され失点してしまいました。変化球の切れも悪く、変化球で相手のバットの芯を外すことが出来ず、芯で捉えられ変化球としての役割を果たせていませんでした。やはり、

TAP-Bに選出される選手、ナショナルチームの選手は、失投を見逃さず、しっかり振り切ってきます。日頃、一球の失投がチームの負けに繋がると指導されています。一試合の中で一球でも失投を投げているようでは、高いレベルのチームには通用せず、チームの役には立ちません。今回の強化合宿の中で、改めて一球の重みを知り、ソフトボールへの取り組みの甘さを実感しました。また、ピッチングコーチに投球フォームや、守備面・配球のことなど細かいところまで指導していただき、新たな発見が沢山ありました。今回、女子ソフトボール日本代表TAP-Bに選出していただきましたが、技術面だけではなく体力面・精神面など劣っており、世界で通用する投手になるためには、まだまだ成長していかななくてはいけないと感じました。この一週間で多くの課題も見つかりましたが、得たものも多くとても貴重な経験をさせていただきました。

最後に私が、TAP-Bに選出されたのは、周りの方々の支えがあったからです。先生方、仲間、これまで出会った全ての方に感謝し、恩返しするためにも、大学4年間で学んだこと、国内強化合宿で得た経験を活かし、2020年東京五輪を目指し、精進していきたいです。

第5回東アジアカップ 女子大学日本代表 結果報告

ヘッドコーチ 二 瓶 雄 樹 (中京大学)

期 日：2016年6月7(日)～13日(月)

場 所：韓国・益山市

参加役員：斎藤春香(団長)、二瓶雄樹(ヘッド)、佐藤理恵(コーチ)、東美幸(コーチ兼庶務)

参加選手：

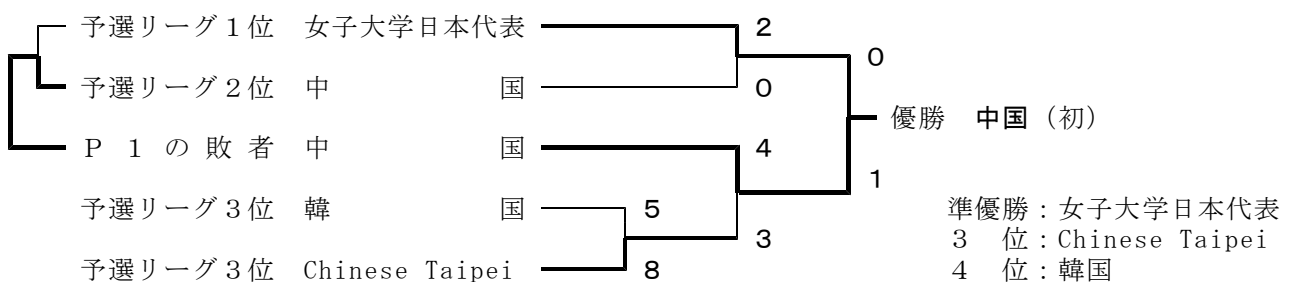
No.	守備	氏 名	支部	所属名	学年
1	投 手	秋 元 菜 穂	東京都	東京女子体育大学	4
2	〃	阿 南 恵 子	大分県	日本文理大学	2

3	捕手	江渡祐希	東京都	東京富士大学	4
4	捕手	原奈々	兵庫県	園田学園女子大学	3
5	捕手	平川穂波	愛知県	中京大学	4
6	捕手	深沢未花	東京都	東京富士大学	3
7	捕手	吉松梨乃	東京都	日本体育大学	3
8	内野手	石川恭子	兵庫県	園田学園女子大学	2
9	内野手	榎本千波	埼玉県	城西大学	4
10	内野手	鎌田優希	岡山県	IPU・環太平洋大学	3
11	内野手	田井亜加音	兵庫県	園田学園女子大学	4
12	内野手	屋禰未奈	兵庫県	園田学園女子大学	2
13	内野手	吉田彩夏	愛知県	東海学園大学	2
14	外野手	櫻岡春香	東京都	東京女子体育大学	3
15	外野手	高原侑里	宮城県	東北福祉大学	4
16	外野手	森さくら	山梨県	山梨学院大学	4
17	外野手	八鍬あゆみ	山梨県	山梨学院大学	2

大会結果

予選	日 本	中 国	台 湾	韓 国	得	失	勝	敗	順位
女子大学日本		○ 3 - 0	○ 6 - 0	○ 8 - 3	17	3	3	0	1 位
中 国	● 0 - 3		○ 4 - 3	○ 2 - 1	6	7	2	1	2 位
チャイニーズ ・タイペイ	● 0 - 6	● 3 - 4		● 4 - 5	7	15	0	3	4 位
韓 国	● 3 - 8	● 1 - 2	○ 5 - 4		9	14	1	2	3 位

決勝トーナメント



◎6月7日(火) 移動日

東京女子体育大学～羽田～ソウル～益山

◎ 6 月 8 日 (水)

午前：会場練習（全面人口芝、両翼62m、中翼70m）

午後：テクニカル・ミーティング

◎6月9日(木) 予選リーグ第1戦(1勝)

中国0000000:0

日本 0 1 2 0 0 0 x : 3

○江渡祐希、原奈々－深沢未花

(三)吉松梨乃 (二)田井亜加音

2回裏、先頭の6番・吉松梨乃（日体・3年）が右中間を破る三塁打、二死後9番・石川恭子（園田・2年）がセカンド強襲の先制のタイムリーで先取点を挙げた。続く3回裏、先頭の2番・森さくら（山学・4年）が四球で出塁、3番・平川穂波（中京・4年）が二遊間を破るヒットを打ち、無死一・二塁とチャンスを広げ、4番・田井

亜加音（園田・4年）のサードゴロが送球エラーとなり2点目。なお一死三塁のチャンスが続き、6番・吉松梨乃（日体・3年）のレフト前ヒットで三塁走者が生還。先発江渡祐希（東富・4年）が5回まで被安打1の好投、6回表から2番手・原奈々（園田・2年）も2イニングをノーヒットに抑え、3-0の完封勝利をおさめた。

・6月10日（金）予選リーグ第2戦（2勝）

台 湾 0 0 0 0 0 0 0 : 0
日 本 0 3 1 0 1 1 x : 6

○原奈々、阿南恵子、原奈々ー吉松梨乃、深沢未花、吉松梨乃

（二）森さくら

2回裏、一死から7番・櫻岡春香（東女・3年）が四球で出塁。続く8番・屋瀬未奈（園田・2年）が二遊間を破るヒットで一・二塁とチャンスを広げ9番・高原侑里（東福・4年）も二遊間を抜くタイムリーを放ち、二塁走者が生還。続く1番・吉田彩夏（東学・2年）がライト線へタイムリーを放ち、この回3点を挙げた。3回裏には、エラーとイリーガルピッチでチャンスをつくり、6番・吉松梨乃（日体・3年）の犠牲フライ追加点。5回裏には、二死一・三塁のチャンスから9番・高原侑里（東福・4年）のセーフティーバントで1点を追加。6回裏にも、二死から4番・榎本千波（城西・4年）が四球で出塁、5番・森さくら（山学・4年）がセンター頭上を越えるタイムリーツーベースを放ち6点差にリードを広げた。先発・原奈々（園田・2年）が毎回走者を出しながらも4回まで無失点で抑え、5回表から2番手・阿南恵子（日文・2年）につなぎ、最終回、原奈々（園田・2年）が再出場して三者凡退、6-0の完封勝利を収めた。

・6月10日（金）予選リーグ第3戦（3勝）

日 本 2 1 0 1 4 0 0 : 8
韓 国 0 1 0 1 0 0 1 : 3

秋元菜穂、阿南恵子、○江渡祐希ー平川穂波、深沢未花

（本）田井亜加音 （三）吉田彩夏、石川恭子

（二）鎌田優希

初回、1番・吉田彩夏（東学・2年）がスリー

ベースヒットで出塁。二死後、4番・田井亜加音（園田・4年）がセンターオーバーのツーランホームランで二点を先制。続く2回表には、二死から9番・鎌田優希（IPU・3年）、1番・吉田彩夏（東学・2年）の長短打で1点を追加。4回表には、この回先頭の6番・石川恭子（園田・2年）のスリーベースで出塁、一死後、8番・八鍬あゆみ（山学・2年）のサードゴロの間に三塁走者が生還し追加点。5回表、1番・吉田彩夏（東学・2年）、2番・高原侑里（東福・4年）、3番・森さくら（山学・4年）の3連打でまず1点を追加し、4番・田井亜加音（園田・4年）の四球を挟み、5番・榎本千波（城西・4年）、6番・石川恭子（園田・2年）の連打と7番・平川穂波（中京・4年）の押し出しの四球で3点を加え、この回大量4点を挙げた。先発・秋元菜穂（東女・4年）が2回裏に四球、パスボール、内野ゴロで一死三塁のピンチから犠牲フライで失点。4回表にも一死二・三塁となったところで2番手・阿南恵子（日文・2年）を投入するもライト前にタイムリーを打たれ2点目。最終回にも5回裏から登板した3番手・江渡祐希（東富・4年）が1点を失い、被安打8の3失点。8-3で勝利をおさめた。

・6月11日（土）決勝トーナメント準決勝

中 国 0 0 0 0 0 0 0 : 0
日 本 2 0 0 0 0 0 x : 2

○江渡祐希、原奈々ー深沢未花、吉松梨乃

（二）田井亜加音

初回、1番・吉田彩夏（東学・2年）がセカンド内野安打で出塁。2番・高原侑里（東福・4年）がスラップで転がし、これが二塁への悪送球となり、無死一・二塁とチャンスを広げ、3番・平川穂波（中京・4年）がショート内野安打を放って無死満塁とした。4番・田井亜加音（園田・4年）がライトへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者が生還。1点を先制し、なお一死二・三塁のチャンスが続き、二死後、6番・吉松梨乃（日体・3年）のセカンドゴロがエラーを誘い、この回2点目をあげた。先発：江渡祐希（東富・4年）は3回までパーフェクトピッチング。5回表、先頭打者に安打を許し、エラーと送りバントで一死三塁

のピンチを迎えた。7番打者への3球目にヒットエンドランを仕掛けられたが、それが失敗し三塁走者がタッチアウトとなりピンチを脱した。最終回は2番手：原奈々（園田・2年）が、三者凡退に抑え、2-0で完封勝利をおさめた。

◎6月12日（日）決勝トーナメント決勝

日 本 0 0 0 0 0 0 0 0 : 0
中 国 1 0 0 0 0 0 0 x : 1

●江渡祐希ー深沢未花

先発：江渡祐希（東富・4年）は一回裏、先頭打者に二塁打を打たれ、2番打者のバント処理を悪送球としてしまい一点を先制された。その後は、3安打を許したが要所を締め、最少失点で完投した。攻撃陣は相手投手陣に抑え込まれていたが、6回裏に8番・石川恭子（園田・2年）のショート内野安打の初ヒットを生かして、一死三塁のチャンスを作った。1番・吉田彩夏（東学・2年）の2球目にエンドランを仕掛けたが失敗、三塁走者がアウトとなりチャンスを逸してしまった。中国は3人の投手リレーで、完封勝利をおさめ初優勝を飾った。

※本報告書はスコアブックおよび（公財）日本ソフトボール協会HPを参考に作成しました。

【講評】女子大学日本代表としては3度目、「日本代表」としては「5連覇」となる優勝を逃したのは、もちろん残念なことである。しかし、「勝負」である以上、どんなチームも永遠に勝ち続けることはできないし、「常勝」も「連覇」もいつかは途切れるときがくるのである。

これは、北京オリンピックで金メダルを獲得し、世界選手権「連覇」を継続中の女子TOP日本代表にとっても、決して「他人事」ではない。勝ち続けているということが、「次も勝てる」という保証にはならないのだということを肝に刻んでおく必要がある。

「頂点」にあるということは、常に「目標」にされ、「ターゲット」にされるということでもある。それだけに、もう一度強化の在り方、めざすべきところをしっかりと確認しておく必要がある

だろう。

また、今大会を戦った大学のカテゴリーの選手たちには、この大会で優勝すること、それが「ゴール」ではないのだということを、改めて認識してほしいと思う。若く、将来性豊かな大学のカテゴリーの選手たちにとって、この大会は単なる「通過点」に過ぎず、この経験を「次」に「将来」につなげていってくればそれでいいのである。

もちろん「負けた」という事実から目を背けてはいけない。今までのチームが成し得たことが、今回のチームにはできなかった。これは事実である。その「原因」や「理由」は徹底的に分析し、今、ここから「その差」を埋める努力をはじめていかなければならない。

ただ、これで2020年東京オリンピックへ向けた「夢の舞台」への道が閉ざされてしまったわけでは決してない。現時点で強化の中核にあるのは「日本リーグ」に所属している選手たちであるかもしれないが、「夢の舞台」へと続く「ルート」は一つではないはずである。「日本リーグ」の選手であることが、そこへ続く「唯一無二のルート」であると決めつける必要はない。

また、現状では、大学を卒業した後、日本リーグのチームでソフトボールを続け、「第一線」で活躍している選手も多数いる。「大学経由日本リーグ」が、また一つの可能性を示す「ルート」として道が拓かれつつあることも忘れてほしくない。

「頂点」をめざす「ルート」は決して一つではなく、その歩む道も一様ではないのである。

あるいは、「頂点」をめざすことだけが進むべき道ではないのかもしれない。選手ではなく、指導者としての道を選ぶ者、あるいは一人のソフトボール愛好者として「趣味」としてソフトボールを続ける者、まったくソフトボールとは縁のない生活を送る者、「道」はそれぞれ分かれていくだろう。

それでも……この大会を戦ったことは、必ずや皆の糧となり、貴重な経験として「今後」に生きていくはずである。一度の敗戦で、一度の失敗で、すべての道が閉ざされてしまうわけではない。む

しろ「負け」を知っているからこそ、「真の強さ」を身につけることができるのである。そう…「負けること」は、「より強くなるためのチャ

ンス」でもあるのだ。

※本項は(公財)日本ソフトボール協会HPから転載しました。
記して御礼申し上げます。

女子大学日本代表の主将として感じたこと

平 川 穂 波（中京大学）

私は2016年6月9日から12日に韓国で行われた、第5回東アジアカップに出場してきました。私自身2回目の東アジアカップ、3回目となる国際大会でした。国際大会特有の、日本での試合とは異なる雰囲気には慣れてはいたものの、最年長として、また主将として出場する国際大会は初めてだったので、過去2回の国際大会とは違う気持ちでこの大会に臨みました。

6月4日から、事前合宿が東京女子体育大学で行われました。この時点で知り合いだったのは約半数、残りの約半数は初対面で、性格やプレイスタイルも全く知らないという状況からのスタートでした。他の選手も初対面同士の選手が多かったので、私は一つのことをチーム全体に提案しました。それは「全員が全員と、1日ひと言でもいいから会話をしよう」ということです。これは選手同士お互いのことを理解していなければプレイに影響すると思ったのと、このように一緒に戦えるのも何かの縁なので、仲間としての関係を大会後も続け、高め合っていくべきではないかと思ったので、そう伝えました。

その日から練習試合を行いました。打順やポジションが大学でやっているときと異なったり、監督の采配がいつもと違って戸惑ったりと、最初は上手く噛み合わないこともありました。自分の思い通りのプレイスタイルができなかった人もいたでしょう。しかし、文句や弱音を吐く選手はい

ませんでしたし、チームが一つになって優勝するという強い気持ちを全選手が持っていたので、徐々にプレイも噛み合うようになり、このチームの形ができていきました。

韓国に入りして大会が始まってからは、各々が自分の持ち味を最大限に発揮し、決勝まで全勝でコマを進めることができました。このチームでの役割や立場も理解していたので、それぞれがチームのために戦えていました。日本代表の5連覇がかかった決勝では、予選とトーナメントで2勝している中国に1-0で惜しくも負けてしまいましたが、結果よりもそれまでの過程で得るものが多くありました。

短期間でチームを作るうえで最も重要だと感じたのは、コミュニケーション力です。主将として、もっと他の選手のことを理解して、うまくまとめることができたのではないかと、思い残しもあります。特に年下の選手に対しての配慮が不足していたのではないかと反省点もあるので、今後の競技人生で生かしていきたいと思います。技術面はそれぞれ素晴らしいものを持った代表チームだったので特に不安要素はありませんでしたが、精神面で信頼し合う関係づくりの難しさを感じました。選手としては、色々な選手と話すことで、様々な考え方や練習の仕方などの意見交換をすることができ、貴重な経験になりました。この経験を今後

に生かし、更なる飛躍に繋げていきたいです。

第1回アジア大学女子ソフトボール選手権大会 台湾遠征報告 (1st Asian University Women Softball Championship 2016)

ヘッドコーチ 吉 末 和 也 (関西大学)

マネージャー 仲 川 知 里 (関西大学)

1 遠征概要

- ①派遣期間 8月22日(月)～8月28日(日)
- ②大会期間 8月24日(水)～8月27日(土)
- ③大会会場 台湾・台中(球場：金龍棒球场)
- ④宿泊先・監督会議会場 賀緹酒店 HE TI HOTEL
- ⑤派遣選手・役員

チームリーダー兼ヘッドコーチ：吉末 和也 関西大学
 コーチ・主務：西村真由子 大阪国際大学
 マネージャー：仲川 知里 関西大学3年
 トレーナー：光本 雅美 蓬治療所

No.	氏 名	所属大学	年 齢	守 備
1	齋藤 成美	大阪国際大学	4	捕手
2	高山 未由	大阪国際大学	4	内・外野手
3	北山 柚花	大阪国際大学	4	投手(右)

4	吉田 愛純	大阪国際大学	4	外野手
5	安平 泉	関西大学	3	内・外野手
6	山元麻莉絵	関西大学	2	内・外野手
7	今橋この実	関西大学	1	内野手
8	平木 琴実	関西大学	2	投手(右)
9	杉本 樹菜	関西大学	1	投手(左)
10	佐々木菜那	天理大学	3	投手(右)
11	和泉 佳穂	天理大学	3	外野手
12	神村 瑞穂	天理大学	3	内・外野手
13	寺井 美咲	同志社大学	4	内野・捕手
14	稲岡 桃香	同志社大学	3	内・外野手
15	松下 奈央	同志社大学	3	捕手
16	金谷 愛美	同志社大学	2	内野手
17	勝 ちひろ	日本福祉大学	2	投手(右)

2 大会の戦績結果について

予選リーグ

チーム	J P N	I N D	T P E	K O R	M Y S	勝	分	敗	順 位
J P N		○15-0	●2-4	●3-8	○12-0	2	0	2	3位
I N D	●0-15		●0-18	●0-14	●0-7	0	0	4	5位
T P E	○4-2	○18-0		○7-0	○9-0	4	0	0	1位
K O R	○8-3	○14-0	●0-7		○24-3	3	1	0	2位
M Y S	●0-12	○7-0	●0-9	●3-24		1	0	3	4位

順位決定戦

T P E	2				
K O R	3				
J P N	7				
M Y S	0				
		2			
		8			
			1		
				1st T P E	
					2nd K O R
					3rd J P N
					4th M Y S

3 遠征の行動記録

★遠征1日目(8/22)

出発日 関西国際空港集合(10:30)

結団式の開催

全日本大学ソフトボール連盟一谷会長挨拶

全日本大学ソフトボール連盟久保田理事長挨拶

大学日本代表グループリーダー吉末挨拶

大学日本代表主将 吉田挨拶

トレーナー、派遣審判員、通訳の紹介

学生自己紹介

15時5分台北到着 バスでホテルへ(約2時間)

夕食後全体ミーティング、洗濯・飲料水の確保

★遠征2日目(8/23)

2日目は翌日からの試合に向けて練習を、10:00~15:00(途中昼食含む)まで行った。練習会場は、屋根付きベンチがあり、扇風機も完備。セカンドベースとピッチャーサークルとの間に水が噴き出る仕組みが施してあった。

日本より湿度が高く(湿度約94%)、体に異変を訴える選手もいた。また、昼食の弁当もパクチ等の臭いで口に合わない選手ので、翌日からの試合に向けて水分・栄養補給の対策を検討した。

【代表者会議】

19時から代表者会議が行われた。(吉末、西村、仲川、通訳ピン氏が出席)

- ・大会役員紹介・挨拶
- ・ルール説明
- ・選手登録確認(パスポート、学生証)
- ・コイントス(ユニホームカラーの決定)

【全体ミーティング】

20時半からチームミーティングを行い、代表者会議での決定事項を伝達

★遠征3日目(8/24)《大会一日目》

一試合目【INDIA vs JAPAN】

INDIA	0 0 0	: 0
JAPAN	4 7 4	: 15

投一捕: #11北山柚花 - #22齊藤成美

ランナーを一人も出すことなく、3回コールドで勝利。

二試合目【JAPAN vs MALAYSIA】

J A P A N	1 4 7	: 12
MALAYSIA	0 0 0	: 0

投一捕: #19平木琴実・#17勝ちひろ - #27松下奈央

一試合目と同様、ランナーを一人も出すことなく4回コールドで勝利。

【開会式】

一試合目終了後に、開会式が開催された。東アジアソフトボール連盟、台湾ソフトボール協会、台中市の代表者の挨拶があり、各国のチームリーダーの紹介があった。

★遠征4日目(8/25)《大会二日目》

一試合目【Chinese Taipei vs JAPAN】

Chinese Taipei	0 0 0 0 0 4 0	: 4
J A P A N	2 0 0 0 0 0 0	: 2

投一捕手: #11北山柚花・#17勝ちひろ・#16杉本樹菜 - #2齊藤成美

初回、四球から出塁し、センター前ヒットと左中間への二塁打で2点を先制したが、その後は得点圏にランナーを置きながらもあと一本が出ないという場面もあり、無得点に終わる。

5回まで0点でしのいできたが、6回、エラーで出塁を許し、その後、連打を浴び、投手の継投策もうまくいかず、一挙4点を失い敗戦となった。

★遠征5日目(8/26)《大会三日目》

一試合目【KOREA vs JAPAN】

KOREA	2 0 1 3 0 2 0	: 8
JAPAN	2 0 1 0 0 0 0	: 3

投一捕: #19平木琴実・#11北山柚花・#16杉本樹菜・#17勝ちひろ - #27松下奈央

3回まではタイスコアでヒット数も同じだった。しかし、4回に2つの四球、センター前ヒットで満塁にされると、3番打者に左中間への二塁打の間にランナー3人が生還し3点を失った。その後、6回にはエラーを絡めた失点などで2点を失った。日本の攻撃は4回以降、得点圏にランナーを置くもあと一本が出ず無得点に終わり、敗戦となった。

二試合目【MALAYSIA vs JAPAN】

MALAYSIA	0 0 0 0 0	: 0
J A P A N	0 4 2 1 x	: 7

投一捕: #13佐々木菜那 - #22齊藤成美

4本の被安打を許すも、この試合を無失点に抑えた。相手投手のワイルドピッチ、またパスボールもあり、2・3・4回で7得点を挙げ、5回コー

ルド勝利となった。

★遠征 6 日目 (8 / 27) 《大会最終日》

一試合目【JAPAN vs Chinese Taipei】

J A P A N O O O O O O O : 0
Chinese Taipei O O O 1 O 1 x : 2

投一捕：#11北山柚花ー#22齊藤成美

得点圏にランナーをおいても一本が出ない厳しい状況が続き、無得点に終わった。

一方、相手チームは、少ないチャンスを実に得点につなげ、2失点を許し敗戦で3位となった。

【大会終了後のミーティング】

Chinese Taipei に負けたことで日本代表は、決勝戦には進むことができないので、大会の全日程は終了となった。大会会場で全体ミーティングを行い、参加者一人ひとりがこの遠征での感想を発表した。

【さよならパーティー】

今大会に参加した選手団(マレーシア欠席)、役員、補助員の方々が集まり、パーティーが開催された。大会直後ということもあり、高揚した雰囲気の中で始まったこのパーティーは、台中市長・副市長も来賓として出席され、表彰式、各国の出し物の披露などが行われた。参加した学生同士が国際交流を図る場となり、終始和やかなムードであった。

★遠征 7 日目 (8 / 28)

4時半にホテルを出発し、台北空港へ

8時半に台北空港を出航し、12時半に関西国際空港に到着した。解団式を行い、解散となった。

4 台湾遠征を終えて

まず、最初に、今回、第1回目となるアジア大学女子ソフトボール選手権大会に参加できる機会を与えて頂き、また、この遠征を全面的にサポートして頂いた、(公財)日本ソフトボール協会、全日本大学ソフトボール連盟の関係者各位に心から感謝申し上げます。

第1回アジア大学女子ソフトボール選手権大会の戦績は、予選リーグを含めて3勝3敗で3位となりました。チャイニーズタイペイ、韓国に負けてのこの結果は、正直、本当に悔しいですし、応援やサポートして頂いた方に申し訳ない気持ちで一杯です。

しかしながら、第1回大会となるこの大会は、アジアの大学ソフトボール発展のために継続的に開催するということと、今後、ユニバーシアードの開催に繋げていくという目的を考えると今回参加した学生は、アジアの一員として日本の大学代表にふさわしい姿勢で行動し、次回大会につながる取組みを行うことができたと評価しております。まだまだ、ソフトボールとしては発展途上にあるインドやマレーシアの学生と積極的に交流し、彼女達の良いプレーに拍手を送っていたのも日本の学生でしたし、試合後のベンチやスタンドの掃除をし、審判員、グラウンドキーパー、チームボランティア、通訳ボランティアの方々にしっかりとした挨拶を交わし、交流していたのも日本の学生でした。

開会式においては日本の学生が率先して他の国の選手に話しかけ、お別れパーティーではパフォーマンスを真っ先に披露したことで場の雰囲気が盛り上がり、参加した役員・各国の学生同士の交流や地元のボランティアスタッフとのコミュニケーションが一気に進みました。

このように、日本の学生は、大学スポーツにおいて大切にしなければならない「スポーツを楽しむ」という原点を行動で示してくれました。

台湾に到着してからの全体ミーティングでは、日本の学生の代表という自覚を持ち、この大会を成功させるためには、試合だけでなく遠征全体を通して自分が「楽しむ」から「大会に関係してくれる人をハッピーにする」ことを全員で最後までやり抜こう！という話をしてきましたが、参加学生は、最後まで軸がぶれることなく行動してくれました。

同じアジアの大学生が試合だけでなくお互い交流することに大学生の大会を開催することの意義があることの見本を示せたのではないかと自負しております。

我々、スタッフも何事も積極的に頑張ろうとする学生をサポートすることに必死になりました。チームを支えてくれた西村コーチ、仲川マネージャー、光本トレーナー、通訳のピンさんの献身的な取組みには本当に感謝しております。このチー

ムのために最大限の力を注いでくれました。

また、光本トレーナーが帯同してくれたおかげで学生は、自分のカラダを知り、管理することの大切さを学べたと思うので、所属するチームに持ち帰って是非生かして欲しいと思います。

今回の台湾遠征に参加した学生は、この遠征で得た経験を自チームに持ちかえると共に、今後のソフトボールの普及・発展に貢献できる人材に成長してくれるものと期待しています。

7/24にオリエンテーションを開催し、試合に対する準備が十分にできずに、至らぬところも多々あったかと存じますが、反省点や課題は、全日本大学ソフトボール連盟の関係者にも報告し、次の海外遠征に帯同するスタッフに引き継いでいくようにいたします。

私自身も今大会を通じて、各国のコーチングスタッフや大会役員と関係を築くことができました。国際大学スポーツ連盟のソフトボール技術担当役員（TD）としても、この経験を次回大会、あるいは、ユニバーシアードの開催につながるように尽力してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、今回は、大学日本代表として参加した選手は、大学のトップレベルの選手ではなかったのですが、今後のソフトボールの普及と発展を考えると、トップレベル層以外の大学生にも国際大会や国際交流を経験できる機会を提供することは、大学スポーツにおいて、非常に意義があると考えます。今後もより多くの大学生にスポーツを通じてグローバル感覚を涵養し、他の大学生と協力して一つのことを成し遂げることで経験する機会を増やすことは、将来的に今後の日本のソフトボールを支える人材を育成することにつながっていくと考えます。今後とも大学生の海外遠征に対しまして、格別のご配慮賜りますようお願い申し上げます。

（本項は「第1回アジア大学女子ソフトボール選手権大会台湾遠征報告書」の一部を削除・編集して掲載しました。）

第1回アジア大学選手権を終えて

大阪国際大学 齋 藤 成 美
今回、第1回目となるアジア大学選手権大会に

参加させて頂いて、本当にいい経験になり、沢山の事を学ばせて頂きました。

チームが結成されてからヶ月も経たないままに、台湾に出発という事もあり不安は沢山ありました。全員で顔を合かし、練習できた2日間は、あのプレイやこのプレイの確認をしておかなければいけないと焦りがあり落ち着きがない状態でした。しかし、私はこの2日間でチーム全員がソフトボールを好きで、それぞれ凄く考えてやっているなど感じる事ができました。今まで、ライバルであったメンバーと一緒にチームを組んでソフトボールをするという事は、すごく不思議でしたが、一度きりしか出来ないこのチームで勝ちたいという思いが溢れてきました。

台湾に着いてからの練習では湿度が高かったため、いつもよりも大量の汗が出てくるという事がありました。またエネルギーを補給するにも、ご飯がなかなか合わず食べられないという事もあり、早くこの環境に慣れないといけないう焦りがありました。しかし、いよいよ始まると思うと楽しみもあり、試合前日はなかなか寝る事ができませんでした。

第1戦目マレーシア、第2戦目インドとも、ソフトボールの原点であるような試合をさせていただきました。全員が一生懸命で、1人を全員が応援している姿は素晴らしく、見習わなければいけない事だなと思いました。第3戦目の韓国、第4戦目・5戦目の台湾に勝てなかったことはとても悔しかったです。7回2アウトでランナーをおいて、私に打順が回ってきたときに、「打てよ」と声を掛けて下さった監督、ベンチから応援してくれたメンバーに申し訳ない気持ちでいっぱいです。結果的に3位となりましたが、勝てないチームでないと思っていたのでとても悔しいです。ピッチャーが抑えてくれても打撃が繋がらなかったり、ここぞというところで踏ん張りきれなかったり、全員があと少しでも力を出し切れたら勝てたのではないかと考えてしまいます。この時、出発前以上にこのチームで1戦でも多く試合をして勝ちたいと心の底から思っていました。

台湾での試合7日間を終えて、このチームのために頑張りたいと思えるチームにすることができました。一緒に戦った者、ベンチから応援してくれた者、スタッフの方々や保護者さんにありがとうございましたと伝えたいです。海外での試合、沢山のひととの交流など、ここでしか出来ない経験をさせてもらいました。支えて下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ソフトボールを通じて、人と人との繋がり大切さを感じる事ができ、一生の思い出になりました。思い出だけで終わらないように、これらの事はたくさんの人に話し伝えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

アジア大学ソフトボール選手権大会を通して

大阪国際大学 高山 未由
一週間の遠征を通して多くのことが学べ、もう一度ソフトボールに対して自分自身の取り組みを考え直すことができる大会になりました。各国のチームと試合をしていく中でとてもソフトボールに対して純粋に楽しんでいる印象が強く見えたのはマレーシアでした。一人がいいプレイをするとみんなでその選手を称え、ミスをしてもしつこく頑張ろうという声掛けをしている姿が見られ、本来のソフトボールというものの原点を気づかせてもらいました。

試合では、自分がどこまで通用するのか、外国のチームはどのようなバッティングをしているのかなどを見て学ぶことができました。また自分自身、試合に出てみて、日本とは違いストライクゾーンも広く、ピッチャーに対応していく能力を身に付けていけるようにしないと試合が淡々と流れていき、中々打つことが出来ず、得点を取ることが出来ませんでした。一つのエラーがきっかけで大量失点に繋がり苦しい試合ばかりでしたが、その中でも諦めず、最後まで戦い抜くことが出来ました。今回の代表チームは技術選考ではなく、書類選考だけで選抜されたメンバーなので、個々の能力に差はありましたが、きちんと一人一人が自分の役割を果たしていき、全員で試合に挑むことができました。私の所属しているチームは人数も多いので、全員が平等に試合に出ることが難しいのです

が、今回の遠征で試合に出る人がすごいのではなく、土俵は皆同じであり、チームが勝つために、どれだけ自分を犠牲にして行動していけるかでチーム力も上がり、簡単に負けないチームになるのだということが学びました。なので、自チームに戻っても今回プレイ以外で経験したことを伝え、チームに浸透させていこうと思います。そして、人数も少ない中での遠征だったので、一人一人が体調管理をし、チームに迷惑をかけないように食事や睡眠時間など考えて行動するようにしました。また、周りの方のサポートや応援がある中で、期待に添えた結果ではなかったのですが、感謝の気持ちを忘れず代表選手である以上全力でプレイし、責任のある行動や言動を心がけるようにしました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

大会を終えて

大阪国際大学 北山 柚花
今遠征で私がとても大変だと思ったことは、台湾の環境に慣れるということです。現地の気温、湿度、食事、空気など日本との違いが感じられるものばかりで、初日はこの環境で自分の力を発揮できるかどうか不安でした。特に食事はベストプレイを発揮するためにとても重要だと考えており、普段自分が食べている日本食のありがたみを感じました。そんな不安が募るばかりでしたが、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー、通訳者の方、現地での日本をアシスタントして下さった方々、すべての関係者の方々は自分たち選手がベストプレイを出来るようにと、常に動いて下さりました。私は、この第1回アジア大学ソフトボール選手権に日本代表選手として出場させていただき、この遠征は多くの方の支えがあり開催できているということを学びました。そのような方々への感謝と、自分が日本の代表であるという自覚を持って試合に挑みました。ですが、結果的には3位という納得のいく結果にはならず、とても悔しい思いでいっぱいです。このチームは、練習や試合など全員で出来たのが数回で、準備が十分できていたとは言えません。ですが、私が大会中にマウンドで投

げて感じたことは、全員が一球に対しての思いが強く、一人が皆の為に、皆が一人の為に頑張っているということがすごく伝わってきました。試合に出ていなくても、自分のことばかり考えるのではなく、たとえライバルであっても試合で自分ができること、自分がしなくてはいけないことに全力で取り組んでいました。また、どんなに苦しい状況でもソフトボールを楽しむ、応援してくれている人たちを楽しませるという気持ちを常に持ち、最後の最後まで諦めずに戦うことができました。また、ソフトボールに対する各国の姿勢も学ぶことができ、試合で勝つための流れの作り方など自分達には足りないものを気づくことが出来ました。私がこの遠征を終えて、ソフトボールをする上で一番大事だと感じたことは「感謝」することです。自チームに戻っても、今ソフトボールが出来ていることに感謝し、応援してくれている人に自分の最高のパフォーマンスで返したいと思います。

今遠征で経験し学んだことを、これから自チームに戻っても活かしていけるようにし、また後輩達にもアジア大学のソフトボールの素晴らしさを伝えていけたらいいなと思います。関わって頂いた沢山の関係者の方々、本当にありがとうございました。

主将としてそして

大阪国際大学 吉 田 愛 純

今回、第1回アジア大学選手権大会に参加させていただいて、沢山のことを学ぶ事が出来ました。また4回生ということでキャプテンを務めさせていただき、大学とはまた違ったメンバーを引っ張っていくことやまとめていくことで違う観点から一人一人の性格や特徴を見ていく事が出来ました。キャプテンとして今回の台湾遠征では「全員が笑って日本に帰る」ことを目標にしていました。初めのオリエンテーションでは、とても緊張して皆さんと上手くコミュニケーションを図ることが出来ませんでした。しかし、自己紹介から一人一人の個性を見て知り、8月13日14日の練習と練習試合で、共に汗を流し、共にプレイして指摘し合うことで、チームの中で信頼関係が生まれました。

そして、一人一人のプレイでの特徴を知る事が出来、このチームは必ず良いチームになると思っていました。そして大会当日、第一戦目の対インド戦では、ホームランを打つ事が出来て、チームに貢献出来、非常に嬉しく思います。インド戦、マレーシア戦では勝つことが出来ましたが、台湾戦、韓国戦では惜しくも勝つことが出来ず、非常に悔しい思いをしました。必ずしも勝てない試合ではなかったと思います。敗因は何なのかずっと考えてきました。やはりここというチャンスの場面で打てなかったことが今でも悔しく思います。結果は第三位でしたが、これからのソフトボール活かすことが出来る貴重な試合となりました。台湾の街を観光した時に台湾の街には日本にもあるようなお店も沢山ありましたが、その中には台湾にしかないものもあり、良い買い物が出来ました。最後の夜のサヨナラパーティーでは、ボランティアで沢山サポートして下さった方々やインドや台湾、韓国の方々と交流を深め、英語などで沢山コミュニケーションを図ることが出来ました。日本の出し物の歌では見ている皆さんと一緒に手を振ってくれたりして、皆さんの心の温かさを改めて知ることが出来ました。また、インドや台湾、韓国の出し物もとてもユニークで楽しいひと時でした。最終日になると台湾を離れるのも寂しく思いましたが、このチームで過ごしたのは約1週間しかありませんでしたが、他とは比べられない深い絆が出来たと思います。また、キャプテンをさせていただいた中でキャプテンらしいことは何一つ出来ませんでした。私の目標であった「全員が笑って日本に帰る」ことが達成できて本当に良かったと思います。第2回目が行われた時、次こそは日本が優勝することを願っています。スタッフの方々や関係者の方々今回のような貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

第1回アジア大学選手権大会台湾遠征

関西大学 安 平 泉

今回、第1回アジア大学選手権大会の日本代表メンバーとして選んでいただき、大変貴重な体験をさせていただきました。3位という結果にはな

ってしまいましたが、その中で私はたくさんの事を学び、感じる事ができ、私の中でとても意味のある遠征になったと思います。選んで頂いたことを本当に感謝しています。

今回この大会に選ばれたメンバーはインカレに出場できなかったメンバーで集めたメンバーでしたが、私自身はとても良いメンバーが集まっていたのではないかと感じました。他チームの素晴らしいプレイやベンチワークなど普段自チームでやっている時とはまた違った雰囲気を感じる事ができましたし、私たちが普段大切にしていることも発信できたのではないかと思います。また、試合に出ているとか、出ていないとか、学年に関係なく自分の役割を考えられていたと思いますし、

「チームのために」という気持ちで臨んでいたと思います。即席で作ったチームではありましたが、部員同士でコミュニケーションをとったり、ソフトボールについて語ったり、とても充実したものになりました。もっとこのメンバーでソフトボールがしたいと思いましたし、一人一人の役割や、チームのために自分が何をすべきなのかということに関しては特に実感させられたところだと思います。

また、私自身初めて海外のチームと試合をして得たものもたくさんあります。特に、インドやマレーシアにはソフトボールの原点を見せてもらったように感じます。1人のプレイに全員で喜び合い、またミスのカバーし合ってプレイする姿、時には相手チームを応援し賞賛する姿に感銘を受けました。ただ、勝つ。ただ、スキルを上げる。という事だけでなく、ソフトボールを楽しむことやお互いを賞賛し合う事の大切さに改めて気付かされた気がします。それが、ソフトボールの原点であり、お互いが成長できる良い環境だと思います。私達は、「楽しむだけでなく、周りの人を楽しませる」をモットーにこの遠征に臨みましたが、それがインドやマレーシアには出来ていたのかなと思います。日本の代表として海外で試合をさせていただき、とてもいい経験になりました。

私個人的には今後この遠征で学んだことや、感じたことなどを自チームに持ち帰り、活かしてい

こうと考えています。また、今後のソフトボール界を盛り上げていけるような活動に貢献していきたいと考えています。

今回、この第1回アジア大学選手権大会で支えてくださった方々や、出会った各国の選手、日本代表として共に戦った仲間との出会いはこれからも大切にしていきたいと考えています。関わってくださった方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

ソフトボールの原点

関西大学 山 元 麻莉絵

私は今大会の代表選手に選出されてからの日々、常に意識をしていたことがあります。それは、日本代表としての「自覚」です。チームの勝利に貢献するために、練習を積むことはもちろんですが、日本人としての挨拶や礼儀を改めて正して、他国から評価してもらえるようにと強く意識に置いていました。

個人的には国際大会への参加が今大会が初めてで、不安も多くありましたがそれ以上に大きな期待を膨らませながら、台湾へと出発をしました。台湾に着いて一番に思ったことは、湿度が異常に高いということです。事前から、湿度の高さを伝えられてはいたものの、あまりの高湿度に驚きを隠せませんでした。

現地に着いて初めての練習では、日本では慣れない高温多湿の天候状態で、アップのキャッチボールでさえも非常に息苦しかったことを覚えています。しかし、国際大会での環境の変化は承知の上で、うまく対応して自分のプレイをしなければここへ選ばれて来た意味がないと考えました。

大会一日目の初戦の相手はインドでした。0-15の3回コールドで勝つことができました。初戦ということで多少の緊張感もありましたが、試合が始まるとその緊張感もほぐれ楽しんでプレイをすることができました。翌日のマレーシア戦も、4回コールドで勝利しました。

私は、この2戦を振り返り感じたことがあります。それは、インド、マレーシアの2国はどれだけ点差をつけられ負けていたとしても全員が大き

な声を出し決して諦めない姿勢でプレイをしていました。それを見てソフトボールの原点、スポーツの原点を改めて考えさせられました。心からソフトボールを楽しみ勝利を目指す。私たちはまだまだ勝つことに捉われてしまい、本来の楽しさを忘れているのではないかと教えられたようにも感じました。

台湾と韓国には力不足で勝つことができませんでした。その差というものはそれほど大きなものではないと思いましたが、要所できっちり1点を取りにいくという技術面で反省が残りました。結果は3位という悔しい結果となってしまいましたが、今大会の遠征で私は多くのことを吸収し学ぶことができました。このことをただの良い経験に留めるのではなくこれからのソフトボール生活により多く活かしていきたいと思います。

台湾遠征を終えて

関西大学 今 橋 この実

今回の第1回アジア大学選手権大会に参加させていただき、私がこれからもソフトボールを続けていく上で大変貴重な経験になりました。

この海外遠征を通じて出会った他大学の先輩方や、私たちをサポートしてくださったスタッフの方々にはとても感謝しています。遠征前に全員が顔を合わせたのはオリエンテーションと合同練習の3日間だけで、お互いのことをあまり知らない状況でこの遠征がスタートしましたが、先輩方は私を自チームの後輩のように可愛がってくださり、とても優しく接してくださいました。遠征前に2日しか一緒に練習していないメンバーと思えないぐらい、試合では全員が一致団結して戦うことができました。そして、チームメイトを一生懸命応援する姿や、チャンスでヒットを打つことができる勝負強さ、ピンチのときでも表情を変えない冷静さ、結果にこだわる熱い気持ち、周りを見る視野の広さを、先輩方から試合を通じて学ばせていただきました。私自身は持ち味である思い切りの良さを発揮することはできましたが、打席の中での修正力や相手ピッチャーの変化球に対する対応力が足りず、結果を残すことができませんでした。

このような短期決戦では、短期間での修正力が必要であり、また観察力も必要であると感じました。大学のリーグにおいても、一試合一試合結果を残していく上で必要な力であると思います。

スタッフの方々は、練習や試合の後のアフターケアや体調管理など私たち選手のために全力を尽くしてくださいました。その他にも、私たちが知らないところで夜遅くまで動いてくださったスタッフの方々のおかげで、この7日間の海外遠征も、誰一人大きなけがをすることなく健康に過ごすことができました。今、こうしてソフトボールを思い切って楽しめる環境があるのは、私たちを陰で支えてくれている人がいるということを改めて感じることができました。この海外遠征で出会った人たちは、これからも大切にしていきたいと思う人ばかりで、これからもお互いを刺激し合えるような関係でありたいと強く思います。

私が所属している関西大学体育会女子ソフトボール部は創部して7年目の、歴史が浅い部活動です。私は関大女子ソフトボール部のこれからの歴史をつくっていく一人として、今回の経験を活かし、チームを引っ張っていけるような存在になりたいと思います。今は、関大の目標である「一部昇格」に大きく貢献できるよう頑張りたいです。そして3年後には「全国制覇」をも目標に掲げることができるようなチームにしたいです。

この経験から

関西大学 平 木 琴 実

私は今回、第1回アジア大学ソフトボール選手権大会に出場させていただき、素晴らしい経験をする事ができ、そして、大会を通じて様々なことを学ぶことができました。短い期間のなかで17名の選手が集まり、チームとして発足しましたが、関西地区を中心としたチーム編成であったため、普段は敵対し、リーグで戦うチームの選手がほとんどでした。最初は上手くやっていくことができるのだろうかという不安が大きかったのが正直なところですが、しかし、チームの中に入ると、締まった空気がある反面、和気あいあいとした雰囲気もあ

り、練習のなかでさえ、ソフトボールを楽しむことができました。

台湾に渡り、4日間の大会期間の中で、アジアの5ヶ国の大学生が集まり、しのぎを削りました。

私も投手として今回の大会に参加させていただき、初の国際試合での登板を経験しました。他の国の選手は日本の選手とはまた違う、パワーや勢い、戦術などがあり、身をもって体験しました。私自身、マレーシア戦、韓国戦で先発させていただきましたが、韓国戦では、一球の重みを改めて強く感じました。ボール一個分、高さ一個分のミスを相手のバッターは逃すことなく捉え、結果点を許すことができました。これは、調子が悪かった、100パーセントのピッチングができなかったということではなく、ただただ自分自身の力不足、まだまだ国際大会で上手く戦っていけるレベルには及ばないということを感じた瞬間でした。本当に悔しかったです。この経験を自チームに帰ったあとも、この先も忘れず、悩むことがあった時に、思い出して再び奮起できるように、刻んでおこうと思います。

長いようで短かった一週間の中では、ソフトボール以外においてもたくさんの経験をしました。一番印象に残っているのは、他国の選手との国際交流です。私は、高校の時に韓国語を少し勉強していた時期があり、今回の交流の中で、日本人と韓国人の懸け橋になることが出来た時間がありました。自分の言葉が相手に伝わり相手の言葉が自分に伝わる、何気ないことですが、国をまたぐとなると、これほど嬉しいことはありませんでした。

文化の違い、環境の違い、日本から出るだけで違いや不便を感じました。それは、日本で何も不自由なく生活できていることが当たり前ではない国もあるということです。毎日の生活を幸せに過ごしているだけではなく、思い切りソフトボールができることをすべての人や環境に感謝しながら、これからも充実した日々を送れるよう努めたいと思います。

大会を通して学んだこと

関西大学 杉 本 樹 菜

私は第1回アジア大学ソフトボール選手権大会に参加させて頂いて、たくさんのことを学ぶことが出来ました。

まず、普段は敵チームの方々と同じチームとして練習や試合をすることによって、今までとは違う目線からのアドバイスを頂くことができたり、プレイを見たり発言を聞いたりして、普段は聞くことが出来ないことが聞け、新しい知識が増えました。ピッチングでは、いざ本番となると変に力が入ってしまい、力んで思うように投げることが出来ませんでした。ストライクや2ストライクを取った後の球がコースも高さも甘く入ってしまい打たれることが多くありました。カウントによっても変わってくるが、ストライクの後のボールをボール1個分外せるようなコントロールが必要だと強く感じました。そして、チェンジアップもストライクを取りに行くボールと見せるボール、振らせることが出来るボールを使い分けてきちんと投げれることでピッチングの幅も広がると改めて思いました。また、ストライクの高さから上がるライズボールを安定して投げれないと全く使えないと痛感しました。そして何より、ボールを曲げることが出来ませんでした。まだまだやるべき課題がたくさん見つかりました。

また、練習や試合を効率よく行うためのサポートをする選手の方もおられ、毎回グローブをきちんと並べている方や、バットを拭く方、次何をすべきなのか、何をしないといけないのかを先に考え行動出来ている人がたくさんおられました。先のことを考えた行動が全然出来ていないと自分自身感じました。もっと広い視野を持って周りを見て行動することが出来ないといけないと思いました。尊敬すべき部分がたくさんありました。

そのほかにも、現地の方々や他チームの方々と交流する機会があり、知っている英語や中国語、韓国語を使ってジェスチャーを交えながら異文化の方々と会話をすることが出来ました。私はその交流で日本とは違う文化や他国の言葉を教えて頂き、新しいことを知ることが出来ました。しかし、実際に海外に行ってみて英語の必要性をとっても感じました。私は留学をしたいと思っているので今

回の経験でもっと勉強しないといけないと思いました。

私は今回この遠征に参加して経験することが出来たたくさんの事は私の一生の財産です。5大学から集まり同じチームとして行動して学ぶこと、見習うべき所がたくさんありました。それらを知ることができたので次は行動に移せるようにしていきます。そして、期間はとても短かったがこのメンバーで同じチームとしてソフトボールをすることができて良かったです。たくさんの方々に支えて頂いて自分が存在しているということ、常に感謝の気持ちを忘れず生活しないといけないと改めて強く感じました。今回の経験をこれからの生活にしっかり活かしていきます。

ナンバーワン

天理大学 佐々木 菜 那

素直にソフトボールが大好きで楽しむことが大切だと改めて感じることができました。

他の国と試合をして、1つのプレイに対して、すごい感情が伝わってきて、守備では1つのアウトに盛り上がり、打撃では1つのヒットに優勝したかのように盛り上がっている姿を見て、初心に戻ったような気がして、今私はその心の底からソフトボールを楽しむという感情がどこか薄れている気がしました。

試合をしていないチームが、他の試合を見ているとき、勉強をしたり、ナイスプレイが出たら拍手をしたりしていて、日本ではあまり見られない光景だなと思いました。日本にエールを送ってくれるマレーシア人や頑張れとジェスチャーや言葉で伝えてくれる他のチーム、お互いを応援し合えるあの光景は忘れることはないです。国によってソフトボールのスタイルも違う事を初めて知る事が出来ました。

マレーシア人はヒジャブと言われるものを頭に巻いたまま試合をしたり、インド人は日本人がすごく暑いという気候に対し、練習で長袖のジャケット着ていたり、試合ではアップシューズのまま試合をしていたり、韓国人は化粧をしていたり、国によって本当に違うことが分かり、日本とは違

う雰囲気を楽しむことが出来てすごいいい経験になりました。

日本チームに入ってプレイをして、たくさんの方々に選手たちがソフトボールのしやすい環境を作ってくださり支えて頂いたり、みんな責任感が強いところや、目配り気配りがしっかり出来ていたり、道具の管理や手入れに凝っているなど、たくさん感じる事が出来ました。

大会の順位は3位という形で終わってしまい、すごく優勝したかったし、負けた悔しさは忘れることはないと思います。でも何よりもこのチームはナンバーワンです。保護者さんも含め、1番最高のチームです。初めのオリエンテーションから笑いがあり、最後の最後まで笑顔でいられるような場所で、全員でプレイをし、全員が輝いているチームでした。私にとって一生の思い出です。支えて頂いた方々に感謝しています。ありがとうございました。

ソフトボールの魅力

天理大学 和 泉 佳 穂

私は14年間ソフトボールをしてきて、海外での試合は初めてでした。海外のグラウンドでプレイをしたこと、海外のチームと戦ったこと、そして今までライバルとして戦ってきたメンバーとチームメイトとして試合ができたことがとても大きな経験であり刺激となりました。

まず、台湾の気候は日本と比べてとても蒸し暑く体力が消耗されやすいと感じました。慣れるまでは、動きづらく疲れやすかったですが、トレーナー、マネージャーのサポートのおかげで体調を崩すことなく、大きな怪我もなく気候に適応していくことができました。試合のグラウンドは私が想像していた以上に良いグラウンドで、このグラウンドで試合をするのかと思うととてもワクワクしました。

実際に試合をしてみると台湾も韓国も戦略的には日本と変わらないと思いました。しかし、体格がガッチリとしている印象を受けました。大会に参加しているチームの中で、私はマレーシアをみて素晴らしいチームだと感じました。チームメイ

トの成功を自分のことのように喜んだり、自分のことのように応援したり、純粋にソフトボールを楽しんでいました。マレーシアは私たちにソフトボールだけではなく、スポーツそのものの素晴らしさを教えてくれました。インドは靴がスパイクではなくランニングシューズで試合をし、グローブも私たちが体育の授業で使うような物でプレイをしていました。それでも、勝利を目指して気持ちを一つにしていると感じました。私は試合を通して、改めてソフトボールの魅力を感じることができました。

そして、今までライバルとしてやってきたメンバーとチームメイトとしてプレイをしたときに、プレイの技術にも刺激を受け、ソフトボールに対する考え方にも大きな刺激を受けました。プレイをこなしながらも、チームのために行動してくれる下級生をみて視野の広さや行動力を見習いたいと思いました。対戦相手の情報をまとめてくれたものは分かりやすく、強く勝利にこだわっていると感じました。

結果は5チーム中3位で決して良いというものではありませんが、第1回アジア大学ソフトボール選手権大会が無事に終了したことにホッとしていたと同時に、このような経験をさせて頂いたことにとても感謝しています。今回経験させて頂いたことを私の財産にして、さらに向上していけるよう努力していきます。サポートして下さった方々、共に戦った仲間の皆さん本当にありがとうございました。

台湾遠征

天理大学 神 村 瑞 穂

このたび8月22日から28日、台湾へ遠征に行かせていただき私の人生にとってとても刺激の強く心に残る経験をさせて頂きました。遠征に行くにあたって食事の面、気候、文化の面などとても心配していたのですが、食事の面では最初は香辛料の匂いに苦戦し、なかなか食べることができなかったのですがやはり慣れというものはずごく遠征の後半に連れて食事も美味しく食べることができました。気候の面では日本にくらべてとても湿度

が高く初日などはすごく息苦しさを感じていたのですが、こちらの面も後半にかけて体が対応できるようになり日本と同様に練習することができました。やはり町ひとつ歩いて見ても日本と違う点があり驚く面もたくさんありましたが新たな知識が増えとても良い勉強となりました。海外のチームと試合をしてみてやはり日本人との違いなどもとても感じました。試合では悔しい結果に終わってしまったのですが普段ライバルチームのみんながこの台湾遠征で心一つに全力で戦えたことは本当に良かったし素晴らしかったと思います。

優勝したチャイニーズ・タイペイの選手などはやはり体格もしっかりしており国によって食文化なども違う点からきているのではないかと感じました。またどの国の選手もとてもフレンドリーでソフトボールというスポーツを通じて言葉が通じない他の国の人々と仲良く交流できたことは本当に素晴らしいことだと感じました。また私が一番勉強になった点は今回一緒に台湾遠征にいったメンバーの考え方や意識などがとても勉強になりました。私も大学三回生になり、先輩方が引退すれば最高学年になりチームをまとめていく立場になるにあたり、このようないろんなチームのキャプテンや中心選手の姿などを見ることができてとても良い刺激になり、私も変わらなければいけないというきっかけにもなりました。この遠征ではサポートしてくださった方々の力というものを本当にすごく感じ本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

初めは海外で約一週間滞在し試合をすることに不安がいっぱいでした。しかしチームメイトや監督、コーチ、トレーナーさんというたくさんの方々のおかげでとても充実し、楽しく過ごすことができたことを本当に感謝しています。ここで出会えたことは奇跡であり一生の私の宝物です。こんなに素晴らしい経験をさせていた事を絶対無駄にせず日本に持ち帰り新たな成長につなげていきたいと思います。ありがとうございました。

日本人という人財

同志社大学 寺 井 美 咲

私は小学4年生からソフトボールを続けてきま

した。今回の大会は私のソフトボール人生の中で、JAPANという最高のチームの一員として戦うことができる一番大きな輝く舞台でした。ソフトボールの実力も人間としてもまだまだ一流とは言えない私に貴重な体験をさせて下さった多くの方々に、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私は今大会で2つのことを強く感じました。対応力の大切さと日本がいかに恵まれているかということです。

まず、5つの大学から集まった代表チームでは何より対応力が求められると感じました。チームメイトの性格やどのようなプレイをする選手かもわからない状態からスタートし、どれだけ短期間で自分が監督やチームメイトの求めるソフトボールを理解し、実力を発揮できるか。そして、チームの信頼関係を生み出すことができるか。これは、毎日一緒にいる大学チームでのソフトボールとは大きく異なるものであると気が付きました。ただ勝ちたいという一つの目標に向かうだけではなく、チームスポーツだからこそ生まれる、このメンバーで勝つ喜びを感じたいという信頼関係を作り上げることが一番大切で難しいことだと改めて感じました。加えて、環境に対する対応力、対戦相手への対応力は日本でのソフトボールにも共通するものであり、今後も高めていくべきところであると思いました。

次に、初めての国外で文化の違いというものを感じました。そして、日本という国について初めて本気で考えました。もちろん日本で生きる中で、日本の文化は素晴らしいという言葉は何度も耳にしたことがあり、日本の良さは十分に感じているつもりでいました。しかし、日本で当たり前だと思っていたことが海外ではしてはいけないことであり、コミュニケーションが取れたとしても、人の価値観というのは国によっても大きく異なり、だからこそ倍以上に自分で相手を理解しようとすることや自分の考え方を全くゼロにして、吸収しようとする姿勢が必要であると感じました。日本にいるからわかって当然と思っていることは、実は自分しか知らないことであることかもしれない。当たり前ということや全てを理解してくれるなんてことは、人と人の間では決してありえない

ことで、私たちは日本という国の文化というものに甘えているだけなのだと感じました。相手が誰であれ、例え毎日一緒にいるチームの仲間であっても、初めて出会う歳や育った環境が全く違う人であっても、同じように相手目線になり伝えることが、これから広い世界を生きる私たちにとって最も必要とされる能力であり、自分自身が多くの人に理解され、輝くことのできる一番の近道であると考えます。

今回、日本代表としてソフトボールにおける成績は不甲斐ない結果で、とても悔しく、サポートして下さった多くの関係者の方々に申し訳ない気持ちしかありません。しかし、私個人として、とても貴重で二度とない幸せな経験となったことは紛れもない事実です。多くの選手がソフトボールを通じて、日本の誇りを胸に生きてゆける人財になってくれることを願い、私も大きく成長していきたいと思います。

台湾遠征を終えて

同志社大学 稲岡 桃香

今回、初めての海外遠征を経験し、未熟ながら「JAPAN」を背負ってソフトボールができたことに感謝しています。結果としては、不甲斐ないものになって改めて自分の力不足を知りました。そこで学んだのは、監督とのコミュニケーションであったり、戦術の確認であったり、お互いに意思疎通することが大切であると感じました。普段、違う環境でソフトボールをしている敵同士がチームとなって動くということは難しい。だからこそ、もっと会話や要求を互いに行うことがチーム力に繋がるのだと思った。そして、どんな時でも自分のプレイスタイルを貫けるか、自分らしくいれるのか、自分はそこが誰よりも不足していたので反省すべき点です。しかし、この経験は自分の力を知れる以外にも、国際交流で他国のソフトボールを知ることができました。マレーシアはソフトボールを心から楽しくしていて、1人のプレイに全員が大きな声で褒めたり、応援したり、喜び合う姿が新鮮で、日本のソフトボールにはない部分を持っているなと思いました。台湾はスイングスピ

ードが圧倒的に速く、韓国はブンブン振ってきていて、送る場面でも積極的に打っていくことが印象的でした。このようにいつもは日本の中の他大学の特徴を見て、比較していたのが今回は他国と日本を比較するというのが今考えると本当に素晴らしい経験をさせてもらえたと思いました。

改めて、ソフトボールは奥が深いなと思いました。戦術にしても、選手の起用にしても考えれば様々です。しかし、この大会を通して、それ以上にソフトボールの勝負を楽しむことを学ぶことができました。1試合の中でもチャンスはいっぱいあって、そこでの盛り上がりやピンチの時のピッチャーへの声掛け、野手の声掛け、もう一緒にプレイをすることがないメンバーと共にできた時間はかけがえのない時間になりました。ここで得た時間を今後の自チームで生かしていくことに励んでいきます。現地の人々や親、トレーナーさんのサポートがあって、今自分はソフトボールをできていること、そしてここでのたくさんの出会いもソフトボールがあってのものです。感謝の気持ちを忘れず、今後も結果を出すことで恩返ししていきたいと思います。

遠征での収穫

同志社大学 松 下 奈 央

今回、第1回アジア大学ソフトボール選手権大会に選手として参加させて頂き、様々な事を学び収穫することができました。1番に感じた事は、ソフトボールができる有り難さです。このような国際大会を開催し、試合ができる環境を与えて下さり、私自身大きな成長に繋がるものとなりました。初めての国際大会の舞台はすごく緊張しました。色んな形で試合に出場させて頂きましたが、自分自身満足のできる結果ではありませんでした。自分の活躍より、チームが勝つことを1番に考えてプレイすると決め試合に挑みましたが、初めての他国との試合は緊張と次を想定や予測することがとても困難でした。日本のソフトボールは守備が堅く、基本に忠実であり、攻撃はセオリー通りという感じですが、外国のチームではどんどんスイングをし、日本との文化の違いを感じました。

どのような形であれ、日本代表としての自覚と誇りを持ち、勝利しなければならなかったのに、勝てなかったことが本当に悔しいです。相手チームを偵察して対策を練り、自分たちにできることをそれぞれが役割を持って臨んだのですが、悔しい結果となってしまいました。

しかし、ただ国際大会に出場して負けてしまっただけではありません。そこで得るものも沢山ありました。各大学から選抜された選手たちのプレイは本当に勉強になりました。私は大学に入ってから部員数が少ないこともあって、プレイスタイルや考え方が型にはまってしまっていたな、と感じました。色んな大学の選手のプレイや考え方を聞いたりすることで、こんな考え方や攻め方があるのだなと新たな発見をすることができ、自分のものにしようと思えるプレイも沢山ありました。

また、他国のチームでは、インドやマレーシアなどは心からソフトボールを楽しんでいるのを見てすごく感じられました。1人のプレイに全員で喜び、これぞチームプレイだなと考えさせられました。ソフトボールの原点がそこにはありました。スポーツは楽しむものである。と改めて感じました。この気持ちこそが大切だなと感じました。この大会を通してこのようなソフトボールの原点に戻ることができました。

また、監督、コーチ、トレーナー、マネージャーのおかげで私達は試合に万全のコンディションで挑むことができました。特に毎日色んな選手のケアや試合中のアイシングやドリンクなど、休む間もなく動いて下さったトレーナーさんや、段取りをし選手と監督間のパイプになり円滑に進めてくれたマネージャーには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このようにサポートしてくれる人がいることで私たちはソフトボールに打ち込むことができていると改めて感じました。

このようにこの遠征を通じてソフトボール面やそれ以外の面で沢山学ぶことができました。これを自チームに帰って活かし、発信していきたいと感じました。また、試合で負けて得たこと、これは1番今後に活かすべきです。今回のこのような経験は誰もができることではないです。そんな経

験をさせて頂いたことに感謝して、これからもソフトボールに打ち込んでいきたいです。本当に私自身、収穫の多い1週間でした。ありがとうございました。

台湾遠征の感想

同志社大学 金 谷 愛 美

この度、第1回アジア大学ソフトボール選手権に参加させていただくことができ私自身、とてもいい経験となりました。全日本大学選手権と日程が重なっているということで、出場できない学校からの選出で複雑な気持ちでしたが、このような貴重な経験をすることができ関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

いつもは試合相手として戦っていた人たちと同じチームとなり、普段では気づくことの出来ないチーム力の大切さを実感することができました。同じチームで毎日一緒に練習している仲間であれば、どんなことを考えて何をしたいのかが日々の練習でお互いが理解をして当たり前のようにこなしていました。しかし、チームによって戦略が異なっているために、お互いにやりたいことが曖昧なままにできてしまっていたことが多くあり、そこから失敗が積み重なっていつてしまうことを身をもって感じました。改めてチームスポーツにおける、チーム力は勝敗に大きく関わっていて大切なことであると再認識しました。

そして、それと同時に選手同士だけではなく監督さんをはじめスタッフの方々とのコミュニケーションも今まで以上に必要なことであると実感することができました。

また、他国との試合を通してそれぞれの国によって同じスポーツでもプレイスタイルなどは全く違うのだなと思いました。国際的な交流も深めることもでき良かったです。

しかし、良いことだけではなく、肝心な試合では結果を残すことができずに申し訳ない気持ちでいっぱいです。日本代表として派遣された以上、その誇りとプライドをもって結果を残さなければいけません。そしてそれと同時に自分自身の甘さと未熟さを改めて痛感させていただくこと

ができました。この度、アジアの大学で3位に終わってしまったことは大変悔しい結果であります。この悔しさを胸に、これからそれぞれの大学チームにでも日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重体験をさせていただきありがとうございました。

すべてに感謝

日本福祉大学 勝 ちひろ

はじめに、今回、第1回という記念すべき大会に参加させて頂く機会を与えて頂いたこと、日本ソフトボール協会をはじめ関係者各位に心より感謝申し上げます。

海外で試合をする、ということが初めての経験で「日本代表」であるという不安やプレッシャーが大きくありましたが、周りの皆様の支えがあったことで初めての海外遠征が自分にとってより充実した経験となりました。結果は思い通りには行きませんでした。今大会を通して海外選手のプレイ姿勢や、他国を応援する姿、日本の大学ソフトボールだけでは学べないことが学べたのではないかと感じています。

今大会でヘッドコーチ兼グループリーダーの吉末さんが常に口にされていたのは、「日本代表の自覚と誇りを持ち、自分自身が楽しみ、そして周りの関係者、対戦相手、大会に関わる全ての方々をハッピーにさせる」ということでした。とても簡単で単純な事のように思えますが、実際に実行してみようとなると、なかなかうまくはいきませんでした。自分自身がプレイすることで周りを楽しませることが、いかに難しいことかが理解できました。試合に勝つ、相手に勝つということも大切ですが、それ以上に大切な純粋にスポーツを楽しむ、ソフトボールを楽しむということが今の私に欠けていた物だったのではないかと再確認できました。また、挨拶、他者への気遣いなど日本代表の学生であるということも忘れず、積極的に行動することができました。

初めて顔を合わせた方たちとチームを組み、とても短い限られた時間でチームを作り上げ、そして試合をする。終わってみれば本当に一瞬の1ヶ

月と少しの時間でした。関西の大学の方がほとんどの中、愛知県から自分ひとりその輪に入ることが、人見知りと言う事もあり、不安で仕方ありませんでした。しかしチームの皆さんは私にたくさん声をかけて下さいました。そのおかげで私は自然とチームに馴染む事ができました。これが当たり前の事ではないということを忘れず、これからは自分もそういった存在になっていきたいと思いました。チームの皆さんには本当に感謝しています。

最後になりましたが、今回、経験が浅く、トップレベルの選手ではない私たちにこのような機会を与えていただき心から感謝しております。今後も日本のソフトボールの発展を願いますと共に、自分自身もこの経験を通してさらに邁進していけるよう努力していきたいと思っております。

成長機会

関西大学 仲川 知里（マネージャー）

まず、今回の台湾でのこの遠征に携わり、また協力してくださった関係者の方々お1人お1人に感謝申し上げます。第1回となるこの大会に参加するにあたり、誰一人として欠けては成功しなかったと強く感じています。それは大会期間中に感じさせられることが多く、1人1人に与えられた役割を果たすことで組織は成り立つ、事は成功するという事を改めて考えさせられました。

試合においては、今まで同じ大学内での雰囲気作りや、試合への入り方、試合中の着目点しか見えませんでした。今回初めて違う大学のメンバーのベンチワークや練習を見ることができ、勉強になりました。正直、驚かされることが多く、自チームに持ち帰るべきことを多く発見できました。また、他国のチームと対戦することで、学んだことの中に、純粋にソフトボールを楽しむ姿勢、1プレイ1プレイをチーム全員で挑む姿勢があります。これらは、インド・マレーシアと対戦した際

に学んだことです。日々の練習の中で、何を目標として練習するかを考えたとき、それはやはり「勝利」だと思います。その勝利を目指してソフトボールをする中で、技術の向上は必要不可欠です。ですがそこにばかり目がいって、ソフトボールの原点を忘れてはいないか。仲間の1プレイ1プレイに喜びを感じ、称えるということをしているのか。を考え見つめ直すべきだと感じました。

1人1人の役割を果たすという点で、勉強になったのは、試合でのプレイでもそうですが、試合以外での試合に対しての向き合い方を見ることができたことです。試合に出ていない選手が、プレイをしている選手に対して最高のパフォーマンスができるようサポートする姿、また、スタッフたちが試合が円滑に進むように、試合以外で選手になるべく負担をかけないように、試合に集中できるよう心がける姿は、今後大学生活でソフトボール部のマネジメントをする上で自分自身の中に落とししていく必要があるし、また社会に出た際組織に対し自身がもたらす影響の中でこの気持ち・行動は大きな力になると感じました。

今回のこの第1回大会にマネージャーとして同行させていただき、自らの力不足、見つめ直さなければいけない点を感じ、また発見することが出来ました。また良い点として周りに評価された部分は今後もしっかりと伸ばしていかなければならないと感じています。大会結果として残念ながら思うような成績は残すことができず、応援して下さった方々、支えて下さった方々には申し訳ない気持ちです。ですが、この遠征に参加した選手、スタッフ陣はそれぞれに成長のきっかけを掴んで帰国しました。この成長の機会をくださった方々に感謝申し上げると共に、チームが台湾に行っている際、日本でチームを支えて下さっていた方々に、今後ソフトボールを通して感謝を還元できるよう精進して参りたいと思います。



国際大会への対応力と準備

全日本男子ヘッドコーチ 西 村 信 紀（環太平洋大学）

2016年度U19世界男子ジュニア選手権で日本代表チームが35年ぶりとなる世界一に輝きました。私も第2回（1985年）大会の主将として参加した時のことを思い出します。ジュニア大会の翌年より全日本代表チームの一員として1988年～2004年まで5大会連続で世界選手権に出場し、数々の日本男子チームの戦いの歴史を見てきた一人だと思っています。現役時代に感じたことや代表監督として参加して思ったことなど短いですが少し触れてみたいと思います。

2012年に監督として参戦してまず感じたのは、世界の壁は以前に増して更に高くなっていったという事です。中南米クラスのレベルアップに加え各国の投手は確実にレベルアップし、バッティングに関しても120km/h～130km/h中盤のスピードボールに対応できなければゲームになりません。すべての試合を通じて連打ができないためホームランなど一発長打で得点するケースが増えています。現在の日本は投球ルール緩和によりツーステップ的なモーションの投手が主流ですが、飛躍的な球速のアップは得られておらず変化も少なく痛打されるケースを良く見ます。また、リリースポイントが安定しないため以前に比べ四死球の数が増えているのではないかと感じています。球種によって投球動作は異なるためボール（ドロップ・ライズ）の回転を再確認して欲しいと思います。スピードはもちろん必須ですが、出し入れのできるコントロールとボールに切れが無ければ世界では通用し

ません。また、国際試合では20秒ルールが適用されタイマーカウンターが視界に入ってくるため投げ急ぐ投手もいます。日頃からスピーディーなサイン交換を含めた投球リズムを身に付けておくことも大切です。

打者に関しては、外人投手に対する慣れが必要です。日本国内の試合と比較すると球速は5km/h以上速く、日本の投手とは比較にならないくらいボールの切れが良いためタイミングを早めに取りコンパクトに鋭いスイングが出来ないと対応できません。特に日本人は体格的に劣るためアウトサイドへの対応は重要となります。また、日頃から広いゾーンでプレイをしているためか国際試合ではストライクゾーンが狭いので、日本と同じ感覚でワイドに対応しては捉えきれません。海外のトップクラスの打者は観察力も素晴らしく、相手投手の癖を見抜く事にも長けています。打者の対応策として、海外での合宿大会などゲームを通じてスピードに目を慣らす時間が必ず必要となるため強化費と時間の確保が重要です。また、情報収集スタッフも帯同しカメラ・PCなど導入し他国を解析・分析して大会に臨める体制づくりも必要です。

移動時間、時差、気候など様々な要素が影響してくるため最高のパフォーマンスを発揮するにはコンディション作りが重要となります。「経験に勝る物無し」、海外でプレイできる機会があれば必ず貴重な経験が出来ると思うので是非トライしてみてください。

ソフトボール学生に期待されること

全日本女子アシスタントコーチ 木 田 京 子（園田学園女子大学）

2016年度、女子日本代表チームのアシスタントコーチをさせて頂きました。主な活動は日米対抗戦（東京ドーム、シェルコム仙台）、USカップ（アメリカ オクラホマ）、第15回世界女子選手権大会（カナダ サレー）、ジャパンカップ（日本 群馬）での活動を通じて感じた事を大学生のみなさんにお伝えしたいことをまとめたいと思います。

まずははじめに、日本開催の日米対抗は今まで味わったことのない感動を覚えました。東京ドームに3万2千人のソフトボールファンが日本代表と同じユニフォームを着て、観客席を埋めました。主催者側の予想を大きく上回る観客動員数であったと聞いています。この時に感じたことは競技の楽しさ素晴らしさを知る人はこれほど多くいるということです。だから、日本には多くのソフトボールファンがいるからチャンスだと感じました。

大学のソフトボールは私も15年以上関わってきましたが、とても面白いし、アマチュアスポーツの醍醐味ではないかと思っています。これをアピールしなければもったいない。大学ソフトボールの醍醐味を広く知ってもらうチャンスは転がっているのだと感じました。ここ数年、インカレでの注目度を上げるには、さらに良い大会にするには、大学ソフトボールを注目してもらうにはと考えることがよくありましたが、日米対抗を通じて、プレーに集中できるハード面、見せる試合や支える運営等の取り組みをさらに検討できる余地があるのではないかと考えさせられました。私たち指導者や選手の現場でもできることはたくさんある。皆さんで考えてきたいです。

次に世界選手権は2位という結果に終わりました。決勝戦の相手はアメリカでしたが、その代表選手のほとんどが大学生でした。日本代表チームは日本リーグに所属するTOPチーム、一方アメリカチームはプロチームに所属しない選手の代表チームだったのです。本当にアメリカの選手層の厚さに驚きました。特に投手の球速は、105km/hを超す選手ばかりです。野手についても、スピードやパワーは圧倒される選手も多く見られました。アメリカの大学ソフトボールの盛んなことはよく知られていますが、全米大学選手権はテレビやインターネットでの中継やチケットを手に入れるのにも苦労するほど注目度が高いのです。これだけ注目されれば多くの選手がソフトボールを競技し、goodな選手も生まれるでしょう。先にも述べましたが日本もソフトボールのファンは多いことがわかった。あとは大学ソフトボールに関わるみなさんで検討し、醍醐味を拡大することが、今後の日本の大学に求められることでしょう。さらに大学出身者、現役大学選手が、代表選手を担う競技力向上はもちろんのこと、ソフトボール指導者になり選手育成、スポーツ科学等の研究に関わることで、ソフトボールの競技力向上、スポーツへの貢献等、そして日本だけではなく、諸外国での普及活動のために関わる役割に期待されることも多くあるのです。

みなさんのソフトボールへの熱い思いが、今後の世界、そして日本のソフトボール界で一役を担えることは間違いありません。大学ソフトボールで日本のソフトボールを盛り上げていけるように協力し頑張りましょう。

【研究論文】 野球型競技における打動作の熟達差 —投手との間合いをはかる準備動作—

高御堂 良太¹，横山 慶子²，山本 裕二²

¹名古屋大学大学院，²名古屋大学

1. はじめに

私たち人間は様々なスポーツ競技場面において、その競技特有の巧みな動きを見せる。例えば、サッカー選手は自由自在にボールを操りディフェンスを抜き去り、野球の外野手は、フライの落下地点を瞬時に予測し、捕球や送球へと繋げる。これらはスポーツ競技者の長期間に渡る訓練に加えて、ルールや使用する道具、競技場の大きさなど、各スポーツ特有の様々な制約によってもたらされるものであると考えられている。

中でも野球やソフトボール、クリケット等の野球型競技の打動作は一流投手になると、投手のボールリリースから打者のインパクトまで0.4秒以内で到達する高い時間的制約に加えて、様々な変化球にも対応する必要がある。さらに、その中で厳密なインパクト時の時間的（±6msec）、空間的（±1.6cm）要求を満たさなければならぬため(Gray, 2002, Regan, 1997)，多くのスポーツの中でも特に厳しい制約が課され、成功率は2～3割程度と非常に困難な競技であると考えられる。そのため、このような厳しい制約の中でどのようにして熟練の打者は打撃を成功させているのか、熟練者と未熟練者ではどのような点が異なるのか、両者の熟達差を明らかにすることは有意義であると考えられる。この際、多くの研究では投手のボールリリース以前の準備局面において、打者がどのようにして投手に対して自らの動き出しのタイミングを合わせているのかといった、投手の動作やボールに関する視覚情報と打者の準備動作の開始に着目している。

Müllerら(2009, 2014)は野球やクリケット

の打者を対象にボールリリースや、リリース後のボールの軌道など、特定の時点で視覚情報を遮るように設計された、視覚遮断条件下において熟達差を調査し、熟練者は未熟練者に比べ同一時点において投球される球種やコース等、正確な予測が可能であること、また投球されたボール情報のみでなく、投手の投球フォームの情報も効率的に利用し、未熟練者に比べ比較的早期の段階で始動を行っていることを明らかにした。また、Ranganathanら(2007)は2次元映像を使用したバッティングシミュレーターを用いて野球の打者を対象に実験を行い、熟練の打者は投手の投球フォームから投球される球種を予測し、球種ごとにステップ動作の開始時点を調整していると報告している。

これらの先行研究ではいずれも打者の始動のタイミングが熟達によってどう変化するかを見ているものであるが、しかし、実際にはただ単に始動のタイミングが早くなるだけでなく、それに応じて準備動作自体にも変化が生じている可能性がある。これらの例としては、投手のボールリリースの直前で小さくスライドステップを行っていた打者が、始動が早くなるに伴い、脚を大きく上げて軸足に体重を乗せ、投手の投球に備えるといった準備動作に変化するということが考えられる。

そこで、本研究では女子ソフトボールの大学生選手、日本リーグ選手の実際の競技場面での打撃を撮影し、打者毎の準備動作の特徴を表す指標として始動時間、ステップ時間を定義し、分析を行い、大学生から日本リーグへと熟達していく過程の中で、打者の準備動作がどのように変化をしているのかを明ら

かにすることを目的とする。

2. 研究方法

2.1 対象及び手続き

平成28年度春季東海地区大学女子ソフトボールリーグ戦（4月30日～5月3日）に出場した大学生1部リーグ所属の5チーム，2部リーグ所属の4チームと，2016年日本女子ソフトボールリーグ第2節（5月14日，15日），第4節（5月28日，29日），に出場した日本リーグ1部所属9チームの選手を対象に研究を行った。

2台のビデオカメラ（SONY HDR-XR550，SONY HDR-CX360V，いずれも30 fps）を専用のLED同期装置（株式会社DKH，PH-105 LED型光呈示器）を用いて同期させた後，三塁側バックネット後方に設置し，1台は投手の撮影を行い，もう1台は打者の撮影を行った。図1左に実験セットアップの概略図を示す。得られた映像は動画編集ソフト（EDIUS）で読み込み，LED同期装置の情報から2台の映像の同期を行った。撮影に当たっては，名古屋大学総合保健体育科学センター倫理審査委員会の承認を得たのち，各大会主催者の同意を得た上で撮影を行った。

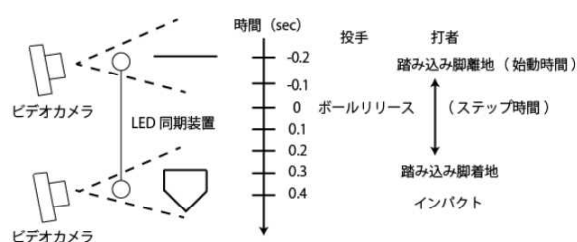


図1. 実験セットアップの概略図（左）と従属変数の定義（右）

2.2 分析方法

得られた打者の映像から，投手のボールリリースに対する踏み込み脚離地時間（負の値の場合，投手のボールリリースより早く動作が生起している），踏み込み足着地時間，イ

ンパクトをそれぞれ求めた。踏み込み脚離地時間を始動時間とし，着地時間から始動時間を引いたものを打者のステップ時間とした（図1右）。各チーム1試合ずつ分析を行い，バントやスラップヒッティングを除いて9球以上の打撃を行っている打者を分析の対象とした（大学生選手2部リーグ21名，1部リーグ15名，計36名，日本リーグ選手45名）。また複数回ステップ動作が確認された打者は，最もインパクトに近い時点で生起した踏み込み足の離地，着地を計測対象とした。

統計的分析としては，まずF検定を用いて始動時間，ステップ時間の各変数の大学生，日本リーグ選手の等分散性を確認したのち，後述のようにいずれも不等分散性を示したので，その後Welchの検定により2群間の平均値の比較を行った。有意水準はいずれの検定においても5%未満を仮定した。

3. 結果

図2に始動時間，ステップ時間のボックスプロットを，図3にそれぞれの特徴量の大学生，日本リーグのヒストグラムを示す。それぞれの変数に対してF検定を行った結果，いずれも有意な結果になった（始動時間： $p=0.03$ ，ステップ時間： $p=0.00$ ）。そのため不等分散性を仮定しWelchのt検定を行ったところ，それぞれの変数の平均値に関して有意な差が認められた（始動時間： $p=0.00$ ， $d=0.86$ ，ステップ時間： $p=0.04$ ， $d=0.42$ ）。また，ボールリリースからインパクトまでの時間間隔は大学生選手が 0.48 ± 0.06 (sec)，日本リーグ選手が 0.42 ± 0.05 (sec) となり，実際に日本リーグ選手は大学生選手に比べ高い時間圧の中で打撃を行っていることが確認できた。

図4は横軸に始動時間，縦軸にステップ時間を取り，大学生選手（×），日本リーグ選手（○）の各選手の平均値をプロットしたものである。図4において，図中に描かれている直線は，投手のボールリリースから打者の手元に到達する時間を0.4秒，打者の踏み込み

脚の着地後、バットスイングに要する時間を0.2秒であると仮定した際の課題の制約上の限界時点を表す直線である。これは遅くともボールリリース後0.2秒までには踏み込み脚の着地を行う必要があることを意味する。

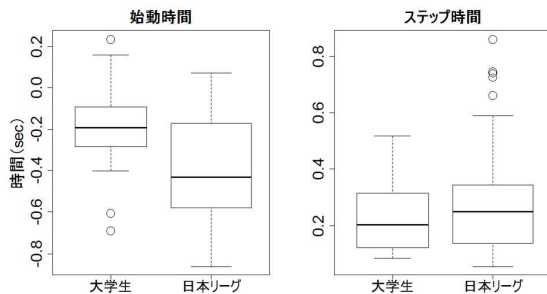


図2. 各動作時間のボックスプロット (左: 始動時間, 右: ステップ時間)

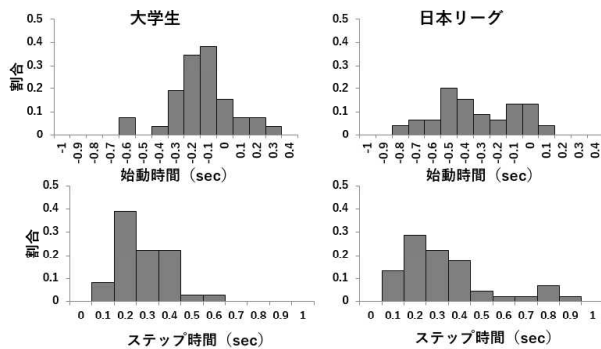


図3. 各動作時間のヒストグラム (上段: 始動時間, 下段: ステップ時間, 左段: 大学生, 右段: 日本リーグ)

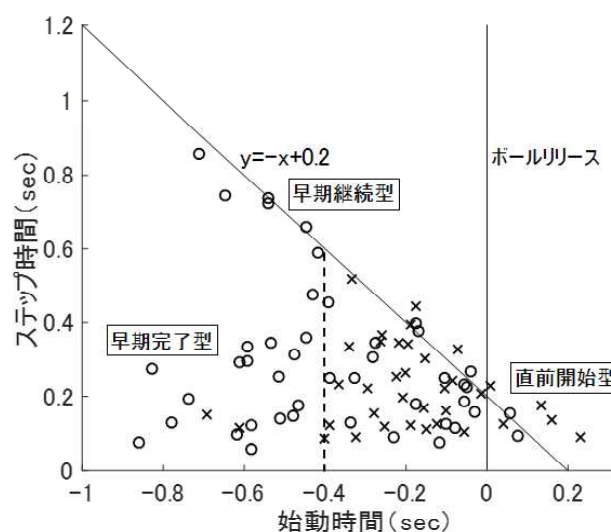


図4. 大学生選手と日本リーグ選手の特徴量のプロット (×: 大学生選手, ○: 日本リーグ選手)

4. 考察

日本リーグ選手は大学生選手に比べ有意に踏み込み足の離地を早期に行い、これはMüllerら (2009, 2014) の研究結果と一致し、女子ソフトボール選手においても、熟練者は未熟練者よりも早期に始動を行っていることが分かった。また、図2のボックスプロット、図3のヒストグラムからも分かるように大学生に比べ日本リーグは選手毎のバラつき、すなわち個人差が大きくなっており、これらのことから、大学から日本リーグへと競技レベルが向上していくにつれ、平均的に始動が早くなると同時に、選手毎の個人差も大きくなっていることも分かる。

ステップ時間に関して、大学生に比べ日本リーグ選手は有意に長く、さらに始動時間と同様に個々のバラつきも大きくなっていった。これは、図3のヒストグラムにおいて、大学生のステップ時間のヒストグラムが0.2秒を中心とした一峰性、日本リーグが二峰性になっていることから、大学生に比べ日本リーグ選手は、脚を比較的長い時間上げ続けるタイプの選手が一定数存在することによるものと考えられる。

図4の特徴量のプロットから、大学生はほとんどの選手が、投手のボールリリースの直前の0.2秒前後で小さなステップを行う選手(直前開始型)が多く、ボールリリースの0.4秒より以前に始動を行いう打者はほとんど確認できなかった。これに対して日本リーグ選手は、大学生と同様にボールリリースの直前で小さなステップを行いう選手に加えて、ボールリリースの0.4秒より以前の比較的早期に始動を行いう選手も多く存在し、そのような選手は早期に始動し、継続して脚を上げ続け、比較的大きな体重移動を利用し、スイング動作を行う選手(早期継続型)や、早期にステップ動作を完了し、その後、踵を上下動させる、肩を背中側に入れる等の動きを入れることによって、早期に踏み込み脚を着地することによってできた、ボールが到達するまでの

間を補う選手（早期完了型）など、図4において、大学生と日本リーグの境界となっているリリース前0.4秒を基準として、大きく分けて3つのタイプに分かれてきている（図5）。

これらの結果をまとめると、まず、大学生から日本リーグへと競技レベルが向上すると、投手のボールリリースから打者の手元まで到達する時間が平均して0.48秒から0.42秒と短くなる。そのため、打者がスイング開始までに利用できる投球されたボールに対する情報が少なくなるため、対戦投手の動作の情報も利用し、早期に始動を行うようになる（図2）。しかし、その際、打者毎に取る方略には個人差が生じ、大きく分けて3つのタイプに準備動作を区分することができる（図5）。

これらの結果から、野球型競技の熟練の打者は、高い時間的制約に対して、熟達の過程の中で、ただ動作の開始時点を早めるのみではなく、課題の制約を満たす範囲内で、打者毎に異なる準備動作を獲得していることが分かる。すなわち、競技レベルの向上に伴う時間的制約を始めとした様々な制約の増大は準備動作を限定する方向ではなく、準備動作の多様化を促進する方向に働いていることが本研究により明らかになった。

本研究から得られる実践的な知見としては、まず、大学生の中でも高い水準にある選手に関しては、高い時間圧の中で打撃練習をすることが有効であると考えられる。それは、投手のリリースまでの動作に関する情報を利用せざるを得なくなり、結果的に準備動作の開始時期が早くなり、自分に適した準備動作の獲得につながるものと考えられる。また、習熟度の低い打者に関しても、ティーバッティングや、ボールマシンでの打撃のみでなく、実際の投手に対しての打撃も行い、投手の動作に対して自らの動作を始動するタイミングを学習させることも、有効な練習方法であると考えられる。指導者は打者の習熟度に応じて、最適な練習環境を設計することが肝要な

のではないだろうか。

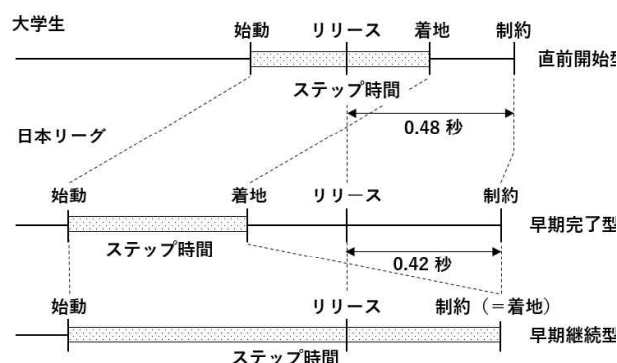


図5. ソフトボール競技者にみられた準備動作の3タイプ

文献

- Gray, R., (2002) Behavior of college baseball players in a virtual batting task, *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*, **5**, 1131-1148.
- Müller, S., Abernethy, B., Reece, J., Rose, M., Eid, M., McBean. R., Hart, T., & Abreu. C., (2009) An in-situ examination of the timing of information pick-up for interception by cricket batsmen of different skill levels, *Psychology of Sport and Exercise*, **10**, 644- 652
- Müller, S., Lalovic, A., Dempsey, A. R., & Rosalie, S. M. (2014) Pick-up of early visual information to guide kinematics and kinematics within a group of highly skilled baseball batters, *Perceptual & Motor Skills*, **2**, 347-362.
- Ranganathan, R., & Carlton, L. G. 2007) Perception-action coupling and anticipatory performance in baseball batting, *Journal of Motor Behavior*, **5**, 369-380.
- Regan, D. (1997) Visual factors in hitting and catching, *Journal of Sports Sciences*, **15**, 533-558.

文部科学大臣杯第51回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成28年8月26日（金）～8月29日（月）

会場：鹿児島県南九州市／知覧平和公園、諏訪運動公園

大会概要

ゲリラ豪雨の臆せず39試合の熱戦を展開

大会記録長：本部 享

「平和の尊さを語り継ぐ町」鹿児島県南九州市知覧平和公園を主会場に、記念すべき第51回全日本大学ソフトボール選手権大会が開催された。今大会は、次の半世紀への前進の願いを込め、従来の出場チーム枠32から拡大して全40チームが参加しての戦いであった。

スコールを思わせるような驟雨に悩まされながらも鹿児島県協会、南薩支部および南九州市協会の周到な準備のもと大会が運営され、3回戦では国士舘大学の池田空生投手が中京大学を相手に無安打無得点試合（許した走者は死球の一人のみ）を達成するなど、「大学日本一」の頂を目指しての熱い戦いが繰り広げられた。

準決勝には第45回大会の覇者・環太平洋大学（岡山）、第42回大会の覇者・国士舘大学（東京）、初めての決勝進出を狙う常葉大学（静岡）と岡山大学（岡山）の4チームが名乗りを上げた。準決勝では、環太平洋大学が岡山勢同士の対決を制し、国士舘大学が常葉大学に完封勝利を収めて決勝に進出した。決勝は、環太平洋大学が国士舘大学との延長10回タイブレーカーに及ぶ「死闘」に6－5のサヨナラ勝ち退け、6年ぶり2回目の優勝を飾った。

大会講評

次の半世紀へ

九州地区常任理事：濱 貴一

今年は鹿児島県南九州市を舞台に、男女各40大学の計80大学が参加しての全日本大学選手権大会が開催されました。開会式もこれまでにない80大学が勢ぞろいし、多くの観客に見守られながら、盛大に行われ、記念大会が幕を開けました。

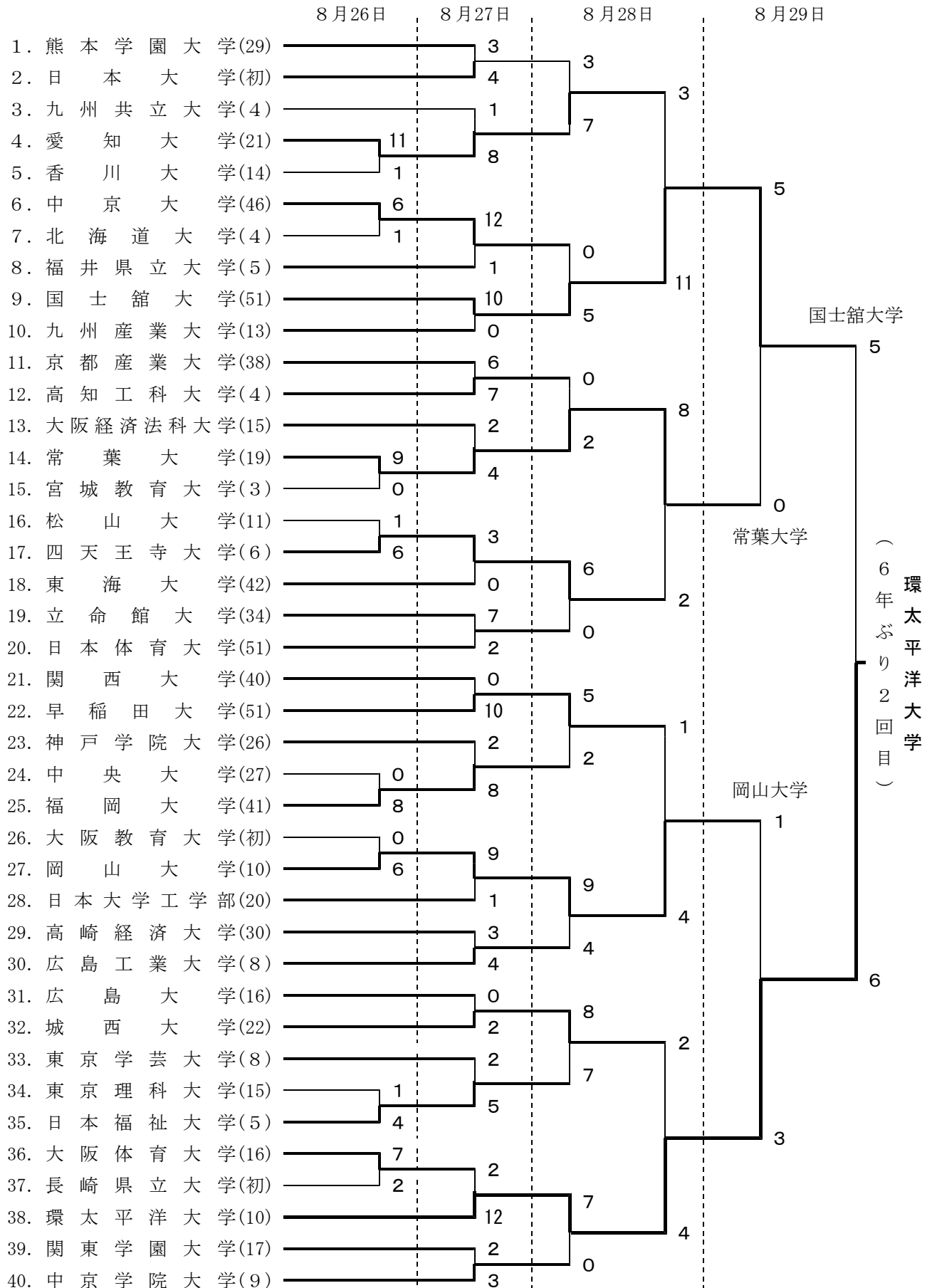
今大会は、初日は午前中に監督会議、開会式、午後より1回戦16試合が行われ、大会は開会式直後から熱戦が繰り広げられました。2回戦では、西日本インカレチャンピオンの広島大学が城西大学に、東日本インカレチャンピオンの日本体育大学が立命館大学に敗れる波乱。3回戦では、その立命館大学も同リーグの四天王寺大学に敗れた。準々決勝でも岡山大学が早稲田大学を破り準決勝進出。その結果ベスト4は、環太平洋大学、岡山大学、常葉大学、国士舘大学と岡山県の大学が2校となりました。岡山大学と常葉大学の健闘は印象に残りました。

決勝戦は、記念大会にふさわしいものとなり、環太平洋大学と国士舘大学との延長10回、3時間31分の大会最長試合時間を12分も塗り替える激戦となりました。最後は環太平洋大学の細川君の中超えサヨナラ打で決着。環太平洋大学が6年ぶり2回目の優勝となり、大学王座に輝きました。

次の半世紀へとつながる記念すべき大会となりました。



文部科学大臣杯第51回全日本大学男子ソフトボール選手権大会



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月26日）1回戦

香川大学 0 0 0 1 : 1
愛知大学 1 3 3 4x : 11

[香] ●原田拓実－西涼太

[愛] ○岩本達明－神谷俊徳

（三）諏訪景太、神谷俊徳

（二）諏訪景太、小島裕弥

北海道大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1
中京大学 0 3 0 0 3 0 x : 6

[北] ●高山徹、引地諒、鳥海創－立花佑

（二）工藤摩周

[中] ○関口幸輝、古橋和也－水本健太

（本）関口幸輝 （三）生田宗範

常葉大学 0 1 1 0 1 0 6 : 9
宮城教育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[常] ○田村幸也－山本和

（本）勝見京介 （三）庄司佳弘、森俊輔

[宮] ●福岡星弥、杉山光哉－奈良和浩、菊地公明

松山大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1
四天王寺大学 1 0 2 0 3 0 x : 6

[松] ●佐伯英和、重見海里－高須賀直人

[四] ○北出将崇－山崎耕作

（二）田之頭大生

中央大学 0 0 0 0 0 : 0
福岡大学 0 5 0 3 x : 8

[中] ●川村卓未、宮川晋之輔－井原奨之

[副] ○梅崎直大、石田悠太－山中洋介

（三）沢村洋、多村周平

（二）山中洋介、伊達雄哉

岡山大学 0 0 0 0 6 0 0 : 6
大阪教育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[岡] ○真壁章博、津野航－三村友祥

（二）十河徹

[大] ●金田史樹、奥田真心、金田史樹－南健太

日本福祉大学 0 0 0 3 0 1 0 : 4
東京理科大学 0 1 0 0 0 0 0 : 1

[日] ○相島宏郁－井上力

[東] ●石崎一輝－森裕章

大阪体育大学 0 2 0 0 5 0 0 : 7
長崎県立大学 1 0 1 0 0 0 0 : 2

[大] ○中尾良樹、三原広太郎－摺臼良哉、高松健太

（三）佐々木宏隆

[長] ●下村尚輝、川原来土－阿比留基

（二）下村尚輝

▼第2日（8月27日）2回戦

日本大学 2 0 2 0 0 0 0 : 4
熊本学園大学 0 0 0 0 0 2 1 : 3

[日] ○草野心平、南翼、草野心平－芝貴臣

（二）堀永証理

[熊] ●江藤紘－小原諒也

（二）江藤紘

愛知大学 0 1 1 2 4 : 8
九州共立大学 0 0 0 0 1 : 1

[愛] ○岩本達明、鈴木俊－神谷俊徳

（二）羽賀敬祐

[九] ●新垣成飛、岩村篤史－野田拓也

福井県立大学 0 0 0 1 : 1
中京大学 7 3 0 2x : 12

[福] ●水口諒、中村虹太－佐古田慎

（三）黍野浩太郎

[中] ○古橋和也－水本健太

（本）杉村優太、古橋和也、七原良平

（三）水本健太、関口幸輝

九州産業大学 0 0 0 0 : 0
国士舘大学 0 3 5 2x : 10

[九] ●金山佳太－鳥山健

[国] ○池田空生、星野嵩幸－服部祐介

（本）河村聡明② （二）池田空生

京都産業大学 0 1 1 1 0 0 3 : 6
高知工科大学 0 0 3 3 0 1 x : 7

[京] ●松岡涼介－杉本幸紀

(本) 松岡涼介、小谷昂希 (二) 小松正弥
[高] ○安堵和博ー藤田浩史
(本) 中原盛宏、長澤海里 (三) 藤田浩史

(三) 日下修児 (二) 真壁章博②、野上幹郎
[日] ●菅野和輝ー込山健太郎
(二) 前川昭平、込山健太郎

常葉大学0010201:4
大阪経済法科大学0002000:2
[常] ○田村幸也ー山本和
(二) 田村幸也、阿部田拓也
[大] 大阪間亮杜ー米田拳
(本) 上田真平

高崎経済大学1000200:3
広島工業大学000400x:4
[高] ●多胡和輝、青柳晴帆ー橋野一哉
[広] ○赤木翔ー渡部翔太

東海大学0000000:0
四天王寺大学001200x:3
[東] ●佐藤拓矢ー御手洗昂季
(二) 杉本和樹
[四] ○北出修茂ー山崎耕作
(二) 森元悠太②、山崎耕作

広島大学0000000:0
城西大学000200x:2
[広] ●庄林希ー小野弘汰
[城] ○宮原簾ー飯田敏弘
(本) 大野利寛

立命館大学0002023:7
日本体育大学0000101:2
[立] ○中原隼生ー田苗遼平
(本) 岸英太②、岡野孝祐
[日] ●児玉聡太、酒井匠、豊本翔貴ー棟田佑哉

日本福祉大学1010201:5
東京学芸大学0020000:2
[日] ○相島宏郁ー井上力
(三) 安武卓哉 (二) 寺澤孟、井上力
[東] ●藤井峻ー池田岳史
(本) 柳森大毅 (三) 間弓義之
(二) 藤井峻

早稲田大学220015:10
関西大学000000:0
[早] ○豊田誉彦、吉田尚央ー山本修平
(二) 鳥岡健、塩沼泰成
[関] ●松田祐汰ー黒田裕太
(二) 川添裕貴

大阪体育大学0101:2
環太平洋大学363x:12
[大] ●三原広太郎、中尾良樹ー高松健太、摺臼良哉
(本) 辻修造
[環] ○先村翼、児玉勝利ー山内貴博、檜田慶介
(本) 谷本祥太、井上知厚② (三) 宇根良祐
(二) 浜本梯、細川卓翁、小見山拓

神戸学院大学0020000:2
福岡大学203021x:8
[福] ●土井涼輔、大元聖人、大垣竜一朗ー芝聖
(本) 芦田翔
[福] ○梅崎直大、石田悠太ー山中洋介
(本) 石田悠太 (二) 難波成旭

関東学院大学0100001:2
中京学院大学200001x:3
[関] ●井草裕太郎ー松浦義明
(三) 井草裕太郎 (二) 矢口航、石綿宏輝
[中] ○松本和也ー鈴木啓史
(本) 高橋拓海

岡山大学33111:9
日本大学工学部00010:1
[岡] ○真壁章博、津野航ー三村友祥

▼第3日(8月28日)3回戦
日本大学0001110:3
愛知大学001204x:7

[日] 南翼、●草野心平－芝貴臣

(二) 堀永柁理

[愛] ○岩本達明－神谷俊徳

(本) 諏訪景太 (三) 橋本貴弘

中京大学 0000000 : 0

国土館大学 000230x : 5

[中] ●関口幸輝－水本健太

[国] ○池田空生－服部祐介

(本) 河村聡明 (二) 横山翔大

※池田投手はインカレ史上13人目のノーヒットノーランを達成

常葉大学 0000002 : 2

高知工科大学 0000000 : 0

[常] ○田村幸也－山本和

(本) 田村幸也 (二) 勝見京介

[高] ●木下稜太－藤田浩史

立命館大学 0000000 : 0

四天王寺大学 002040x : 6

[立] ●中原隼生、高森威吹希－田苗遼平

[四] ○北出修茂－山崎耕作

(二) 田中伸

福岡大学 1000001 : 2

早稲田大学 002012x : 5

[福] ●梅崎直大、石田悠太－山中洋介

(本) 多久島力也 (三) 喜多村周平

[早] ○豊田誉彦－山本修平

(本) 山本修平 (二) 笠井新一朗、山本修平

岡山大学 0023202 : 3

広島工業大学 0010120 : 4

[岡] ○真壁章博、津野航、真壁章博－三村友祥

(本) 真壁章博 (三) 明石高太郎

[広] ●赤木翔一－渡部翔太

(本) 渡部翔太 (三) 増田勇氣 亀本力也

日本福祉大学 012010111 : 7

城西大学 000400112x : 8

[日] ●相島宏郁－井上力

(本) 安武卓哉 (三) 宮原達也、井上弥

(二) 井上弥

[城] ○宮原簾－飯田敏弘

(本) 原圭汰 岡崎智樹 大野利寛

(三) 池田昭一郎 (二) 飯田敏弘、池田昭一郎

環太平洋大学 20500 : 7

中京学院大学 00000 : 0

[環] ○先村翼、大原涼太郎－山内貴博、檜田慶介

(本) 井上知厚、尾本心平

[中] ●松本和也－鈴木啓史

▼第3日(8月28日) 準々決勝戦

愛知大学 00300 : 3

国土館大学 2243x : 11

[愛] ●岩本達明、鈴木俊、岩本達明－神谷俊徳

[国] ○星野嵩幸、中島悠貴－服部祐介

(本) 安田直希 (三) 西田勘汰、横山翔大

(二) 三崎圭剛

常葉大学 0003212 : 8

四天王寺大学 1001000 : 2

[常] ○田村幸也－山本和

(本) 荒木大 (三) 荒木大、阿部田拓也

(二) 勝見京介

[四] ●北出修茂、北出将崇－山崎耕作

岡山大学 0100012 : 4

早稲田大学 0000001 : 1

[岡] ○真壁章博－三村友祥

(三) 野上幹郎

[早] ●豊田誉彦、吉田尚央、杖子量哉－山本修平

(三) 川上卓也 (二) 塩沼泰成

環太平洋大学 2200000 : 4

城西大学 0000002 : 2

[環] ○児玉勝利－山内貴博

(二) 尾本心平

[城] ●宮原簾－飯田敏弘

(本) 大野利寛

▼第4日（8月29日）準決勝戦

常葉大学0000000：0
 国士舘大学010121x：5

〔常〕●田村幸也－山本和

〔国〕○池田空生、星野嵩幸－服部祐介

（本）横山翔大 （三）西田勘汰

【評】国士舘大は2回表、先頭の4番西田が左中間を破る三塁打で出塁。一死後、6番三崎の中前適時打で先取点を挙げると、4回裏にも二死一・二塁から7番後藤が中前適時打を放ち、1点を追加。5回裏には一死一塁から2番横山の中越ツーランで2点。6回裏には二死二塁から代打中島（悠）の三遊間を破る適時打でダメ押しの5点目を加え、勝利を決定づけた。

常葉大は、国士舘大池田、星野の投手リレーの前に散発3安打と打線が沈黙。完封前を喫し、初の決勝へ駒を進めることができなかった。

岡山大学0010000：1
 環太平洋大学0300000x：3

〔岡〕●真壁章博－三村友祥

（二）長畑皓洋

〔環〕○先村翼－山内貴博

【評】環太平洋大は2回裏、四球、盗塁で二塁に進んだ6番三谷を、8番尾本が左前適時打で返し、先制。なお1番宇根、2番浜本の3連打で2点を追加。この回一挙3点を挙げ、試合のペースを握った。

守っては、先発先村が被安打2、奪三振9の力投、3回表に1点を返されはしたものの、最少失点に留め、2度目の優勝に大手をかけた。

岡山大は、3回表に一死二塁から9番中脇の三遊間を破る適時打で一矢を報いたが、環太平洋大先村の前に追加点が奪えず、準決勝敗退。常葉大

と同じく初の決勝進出はならなかった。

▼第4日（8月29日）決勝戦

国士舘大学0000302000：5
 環太平洋大学0001310001x：6

〔国〕池田空生、星野嵩幸、●池田空生－服部祐介

（三）横山翔大② （二）後藤勇大、八角光太郎

〔環〕先村翼、児玉勝利、○先村翼－山内貴博

（本）浜本悌、小見山拓也 （三）山内貴博

（二）山内貴博、宇根良祐、細川卓翁

【評】両チーム無得点のまま迎えた4回裏、環太平洋大は無死一塁から5番山内の左越適時二塁打で1点を先制。

国士舘大も5回裏に二死一・二塁の好機を作り、2番横山、3番八角の長短打で一挙3点を挙げ、逆転に成功した。

環太平洋大はその裏、2番浜本の中越ツーランと5番山内の中越適時三塁打で3点を奪い返し、再びリードすると、6回裏に代打小宮山が右中間にソロ本塁打を叩き込み、5点目を追加。これで勝負は決したかに見えた。

しかし、2点ビハインドの国士舘大は土壇場の7回表、2番横山の2打席連続の三塁打と3番八角の右越適時二塁打で同点に追いつき。両チームの「意地」と「プライド」がぶつかり合う激戦は、延長タイブレーカーへともつれ込むことになった。

8回、9回は互いに得点を挙げられず、10回表も国士舘大は無得点。環太平洋大はその裏、タイブレーカーの走者を二塁に置き、二死となった後、7番細川が初球を鋭く一振り、外野へ放たれた打球は左中間フェンスを直撃する二塁打となり、歓喜のサヨナラゲームで勝利！3時間30分を超える「死闘」にとうとう終止符が打たれ、環太平洋大に6年ぶり2回目の栄冠がもたらされた。

※延長最長試合時間新記録3時間36分（12分更新）

日本一になるまで

環太平洋大学男子ソフトボール部主将 井上知厚

一度でいいから日本一になりたい。そう思いながら環太平洋大学男子ソフトボール部に入部した。

しかしながら3年目を終えての最高成績は大学選手権準優勝。多くの人たちから期待された3年生

時の大学選手権では1回戦で日本体育大学に完敗した。

来年こそはと心に誓うと共に、主将になって日本一のチームを自分の手で作り上げたいと強く思った。主将をして大変だと思ったことは一度もない。新チーム始動は辛抱強く基礎練習や走り込みを行なったが、部員全員が乗り気という感じではなくやらされている練習のようには見えなかった。しかし私はそれでも良いと考えていた。と、いうのも冬季練習は量をこなしていくことが大切であると思ったからだ。そのため量をこなすことに関しては一切手を抜いたつもりはない。

だが、日が経つごとにやらされている練習から部員一人一人が意味のある練習にしていこうという意識や声かけ・行動が出てきたのには少し驚いた。「このチームは本当に頂点を目指せる」と確信したのはその時だったと鮮明に覚えている。そこからノルマの練習にプラスして各自が技術練習を始めた。

世界レベルで戦ってきた西村監督の教えは無茶苦茶ではあったが、追求すればするほど正解であることに気づく。部員自身が少しでもその正解に近づくために各々で考え、真似することは出来ないがそれに近い形へ変化を遂げる。環太平洋大学の伝統ともいえる成長の流れを部員が辿っていくことに喜びを感じた。そのような冬を越し、シーズンがやってくると大学選手権までは早いものだ

った。私が在学した中では一番投手陣が安定していたが、今年もチームは伝統ともいえる超攻撃型。しかもベンチ入りメンバー25人は自信を持って送り出せる部員を選んだ。

西日本大学選手権は打撃に自信があるチームながらも各試合で2～3点しか得点出来ない試合が多く、準決勝では広島大学に思わぬ逆転負けを喫してしまったが、チームは成長途中であった。今まで徹底して行ってきたことを何一つ変えずしっかりと考え直し、今一度チームの方針を確認した。

全日本大学選手権は主将としては勝つことだけ考えて試合に臨んだ。いざ日本一にならない舞台を目の前にすると妙な緊張感があつたが、一・二回戦は仕事をする事ができた。しかし、気合いが空回りしてしまった。だが、そんな中調子を上げていく後輩たちがたくさんいた。自ら考えて練習を行っていた部員達だ。個性的と言えよく聞こえるが自己中心的な彼だからこそ自分のやるべきことが分かっており結果に結びついたのでと思った。

決勝戦の国士舘大学との試合はシーソーゲームとなったが、25人全員の力で勝ちきることができた。欲しかったインカレのタイトル。日本一になった瞬間の喜びは計り知れない程であった。このチームの主将であったことに誇りを感じると共に部員全員に感謝したいと思う。

全日本大学(男子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	28	5	4	1	国際武道大学		1	1	
国士舘大学	4	8	6		都留文科大学		1		
早稲田大学	4	3	7		広島修道大学			4	
中京大学	3	6	7	1	九州東海大学			2	
東海大学	2	5	6		茨城大学			1	
立命館大学	2	2	3	1	愛媛大学			1	
沖縄国際大学	2		2		愛知大学			1	
京都産業大学	1	4	5		大阪体育大学			1	
環太平洋大学	2	1			山梨学院大学			1	
中京学院大学	1	1	1		龍谷大学			1	
琉球大学	1				九州産業大学			1	
福岡大学		4	7	1	熊本学園大学			1	
高崎経済大学		3	1		九州共立大学			1	
同志社大学		3	1		高知工科大学			1	
学習院大学		1	2		岡山大学			1	
神戸学院大学		1	6		常葉大学			1	
関西大学		1	5						

※51回連続出場校：日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学

男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

順位	守備率	位置	氏名	チーム名	打席	打数	安打	得点	打点	犠牲打 バント	フライ	四球	死球	三振	盗塁	残塁	打撃妨害	出塁	打撃率	本塁打	三塁打	二塁打	試合数
1	1.000	2	神谷 俊徳	愛知	12	11	8	4	4	0	0	1	0	0	1	4	0	9	0.727	0	1	0	4
2	1.000	3	田之頭大生	四天王寺	13	10	6	4	1	0	0	2	1	0	1	4	0	9	0.600	0	0	1	4
3	1.000	9	山口 洋平	愛知	14	12	7	4	0	0	0	2	0	1	0	4	0	9	0.583	0	0	0	4
4	1.000	5	井上 泰成	愛知	14	14	8	4	5	0	0	0	0	0	2	4	0	8	0.571	0	0	0	4
4	1.000	6	宇根 良祐	環太平洋	19	14	8	6	2	0	0	4	1	2	1	7	0	13	0.571	0	1	1	5
6	0.500	9	安武 卓哉	日本福祉	13	10	5	2	4	0	0	2	1	1	0	3	0	8	0.500	1	1	0	3
7	1.000	7	田中 伸哉	四天王寺	13	11	5	3	2	1	0	1	0	1	0	4	0	6	0.455	0	0	1	4
8	1.000	7	浜本 悌	環太平洋	17	14	6	3	5	1	0	2	0	2	1	4	0	8	0.429	1	0	1	5
9		DP	三崎 圭剛	国士館	15	12	5	2	5	0	0	1	2	2	0	1	0	8	0.417	0	0	1	5
9		DP	羽賀 敬祐	愛知	13	12	5	2	4	0	0	1	0	0	0	5	0	6	0.417	0	0	1	4
11	1.000	8	横山 翔大	国士館	18	15	6	4	5	0	0	3	0	3	0	5	0	9	0.400	1	3	1	5
11	0.923	5	西田 勘汰	国士館	17	15	6	6	3	0	0	2	0	5	0	4	0	8	0.400	0	2	0	5
11	1.000	5	井上 弥	日本福祉	13	10	4	3	4	1	0	0	2	2	0	3	0	6	0.400	0	1	1	3
14	1.000	8	古井 凌	四天王寺	14	13	5	2	4	0	1	0	0	0	0	2	0	5	0.385	0	0	0	4
15	1.000	6	八角光太郎	国士館	17	14	5	4	3	0	1	2	0	2	2	3	0	7	0.357	0	0	1	5
15	1.000	9	河村 聡明	国士館	17	14	5	4	7	0	0	3	0	5	0	1	0	8	0.357	3	0	0	5
15	1.000	1	田村 幸也	常葉	16	14	5	3	3	0	0	1	1	2	0	4	0	7	0.357	1	0	1	5
15	0.750	8	諏訪 景太	愛知	15	14	5	4	6	0	0	1	0	2	0	2	0	6	0.357	1	1	1	4
15	1.000	9	細川 卓翁	環太平洋	15	14	5	2	3	0	0	1	0	4	0	7	0	6	0.357	0	0	2	5
15	1.000	1	真壁 章博	岡山	18	14	5	4	5	1	0	2	1	1	1	3	0	8	0.357	1	0	2	5

男子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	チーム名	氏名	投球回数	打者	打数	被安打	失点	自責点	犠牲打 バント	犠牲フライ	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投球	打撃妨害	投球数	防御率	勝利数	敗戦数	試合数
1	国士館	池田 空生	24 2/3	92	81	10	5	4	1	0	9	1	40	1	1	0	0	389	1.14	3	1	4
2	早稲田	豊田 誉彦	16	60	56	12	3	3	2	0	1	1	17	1	3	0	0	230	1.31	2	1	3
2	岡山	真壁 章博	26 2/3	102	91	11	5	5	1	0	7	3	27	0	1	0	0	370	1.31	4	1	5
4	広島工業	赤木 翔一	14	72	62	21	12	3	2	0	5	3	9	1	6	0	0	245	1.50	1	1	2
5	環太平洋	先村 翼	22	82	73	11	5	5	1	0	7	1	26	1	2	0	0	370	1.59	4	0	4
6	常葉	田村 幸也	34	134	120	24	9	9	0	0	10	4	37	2	3	0	0	494	1.85	4	1	5
7	四天王寺	北出 修茂	18 2/3	72	69	16	5	5	0	0	1	2	6	0	0	1	0	227	1.88	2	1	3
8	福岡	梅崎 直大	12	47	45	9	5	4	0	0	2	0	16	2	2	0	0	201	2.33	2	1	3
9	城西	宮原 廉	23	98	91	24	11	9	1	0	6	0	36	1	4	0	0	362	2.74	2	1	3
10	日本福祉	相島 宏郁	22	93	84	20	11	9	1	0	4	4	20	4	1	0	0	314	2.86	2	1	3



文部科学大臣杯第51回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成28年8月26日(金)～8月29日(月)

会場：鹿児島県南九州市／知覧平和公園、他

大会概要

園田学園4年ぶり7度目の頂点へ

大会記録長：吉田ケイ子

本年度のインカレ女子は、「薩摩の小京都」といわれる鹿児島県南九州市・知覧平和公園を主会場に開催された。

南九州市は、日本一の生産量を誇るお茶やサツマイモをはじめとする農畜産物を生産する全国屈指の地であり、先の大戦末期には本土最南端の特攻基地があったところでもある。国家危急を救う大義のもと、若くして殉じた特攻隊の遺品や悲惨な傷跡を残す戦跡を通じて、後世に平和の尊さを語り継ぐ地としても知られている。

第51回を数え「記念大会」となった今回は、従来の32チームから出場枠が広げられ、男女それぞれ40チームが参加。大いに盛り上がりを見せた。

大会初日は、開会式が男女合同で焼け付くような炎天下で行われ、その後4球場で各2試合を実施した。夕立に見舞われ30分程度の中断はあったものの、無事終了することができた。2日目は3試合目まで順調に進んでいたが、4試合目があいにくの降雨にたたわれ、1時間あまり中断。2会場で日没サスペンデッドゲームとなってしまった。3日目はどんよりと曇る空模様であったが、幸いにも雨は降らず、無事終了。最終日は夏には珍しく風が強く、時に肌寒くも感じられたが、青空のもと準決勝・決勝が行われ、決勝では園田学園女子大学が1－0で息詰まる投手戦に勝利し、4年ぶり7回目の優勝を成し遂げた。

大会講評

日体園田の東西対決、地元日本文理も健闘

九州地区常任理事：濱 貴一

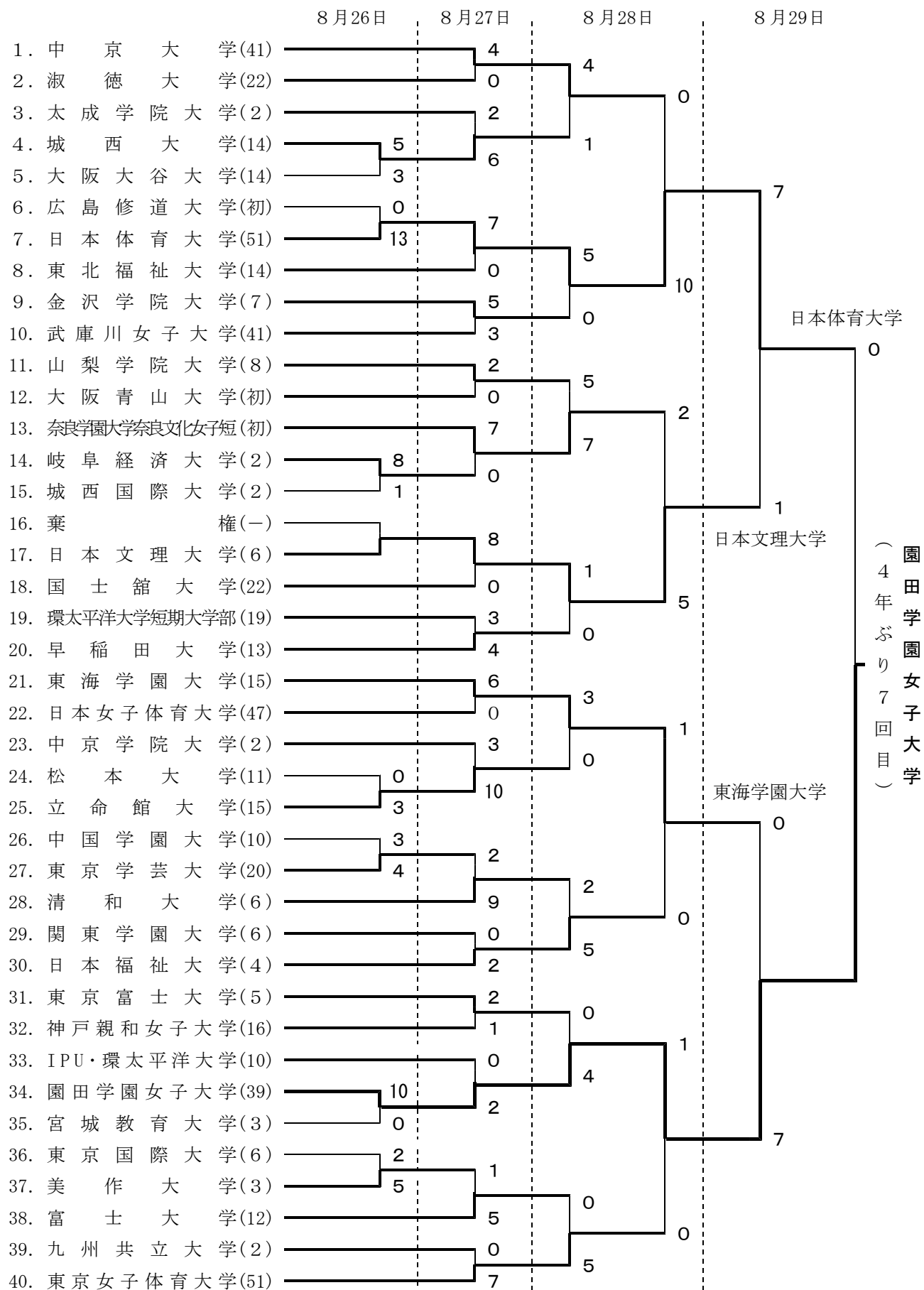
今年は鹿児島県南九州市を舞台に、男女各40大学の計80大学が参加しての全日本大学選手権大会が開催されました。開会式もこれまでにない80大学が勢ぞろいし、多くの観客に見守られながら、盛大に行われ、記念大会が幕を開けました。

今大会は、初日は午前中に監督会議、開会式、午後より1回戦16試合が行われ、大会は開会式直後から熱戦が繰り広げられました。なお、大会2日目の夕方には突然の夕立に見舞われ、2回戦第4試合が2球場で中断を繰り返した後、最終回を残してサスペンデッドゲームとなり、翌第3日の第1試合の前に行われました。

女子においては、男子に比べ完封試合が多く見られ、23試合の完封ゲーム。また3回戦の日本文理大学VS早稲田大学、準決勝の東海学園大学VS日本福祉大学、園田学園女子大学VS東京女子体育大学、そして決勝の園田学園女子大学VS日本体育大学は、すべて1－0の試合が展開されました。本当に緊迫した、観客も息の詰まる試合内容でした。また九州地区代表の日本文理大学は4年生不在と若いチーム編成でしたが、大健闘し第3位と入賞を果たしたのは印象に残りました。

決勝は、ここまで5試合を勝ち抜き、42得点の日本体育大学と、無失点の園田学園女子大学の対戦となりました。最後は園田学園女子大学の先発原奈々選手がこの記念大会の決勝の舞台にふさわしい好投を披露し、園田学園女子大学が4年ぶり7度目の頂点に立ち、女子の大学王座に輝きました。次の半世紀へとつながる記念すべき大会となりました。

文部科学大臣杯第51回全日本大学女子ソフトボール選手権大会



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月26日）1回戦

大阪大谷大学0002100 : 3
城西大学010310x : 5

- [大] ●吉崎菜々海、大西優季－青木千秋
（三）青木千秋 （二）入谷玲生奈、仁科芽惟
[城] ○並木あかね－江口菜摘
（二）大塚彩、蟹沢夏帆

広島修道大学0000 : 0
日本体育大学373x : 13

- [広] ●徳丸せな－中川佳奈子
[日] ○岡村奈々、白倉千沙都、鈴木杏佳、白井
桃佳－宇野有加里、安川裕美
（三）宇野有加里、永友遥、本間睦
（二）松本風香、小阪芙由美、山口唯、
吉松梨乃、安川裕美

岐阜経済大学16100 : 8
城西国際大学00100 : 1

- [岐] 若林恵里奈、○古瀧佳奈－大畑成美
（二塁打）古瀧佳奈、乗松真梨奈、東谷美佑
[城] ●近部知奈美、栗生裕衣－石井麻璃乃、
栗生千裕

松本大学 0000000 : 0
立命館大学020001x : 3

- [松] ●山下ひかり、杉山恭香、山下ひかり－
駒田実優
（二塁打）神戸めぐみ
[立] 本庄遥、○山口希－日吉野乃子
（本）高島有未 （三）竹内夢

東京学芸大学00100102 : 4
中国学園大学00001101 : 3

- [東] 岩瀬仁美、○萩原紀恵－渡部真子
（三）渡部真子、萩原紀恵 （二）萩原紀恵
[中] ●山崎綾華－原田佳美
（三）原田佳美

宮城教育大学0000 : 0
園田学園女子大学712x : 10

- [宮] ●河村瑞希－高橋美沙輝
[園] ○市谷愛美、神崎奈帆－服部洋代、東愛莉
（三）堤加菜子、服部洋代、中村光里、
菌部真理茶 （二）田井亜加音

美作大学0002201 : 5
東京国際大学0000110 : 2

- [美] ○城田真菜－藪日香里
（三）本田紗菜 （二）重竹美乃里
[東] ●相良未来、池信里奈－横山蒼
（二）波多和佳

▼第2日（8月28日）2回戦

中京大学1000030 : 4
淑徳大学0000000 : 0

- [中] ○山本光莉、金丸侑志帆－平川穂波、小寺
真琴
（三）平川穂波 （二）舟橋花保
[淑] ●朝倉莉奈、安齋美琴－小澤陽
（二塁打）小澤陽

太成学院大学0000020 : 2
城西大学022200x : 6

- [太] ●坂本瑛、古賀雛綺、吉田優姫－日野志惟那
[城] ○並木あかね、市沢美佳－江口菜摘
（本）蟹沢夏帆 （二）金子知香、木村愛都実

日本体育大学20005 : 7
東北福祉大学00000 : 0

- [日] ○岡村奈々、山田蓮、大村茜－宇野有加里
（本）宇野有加里 （三）松本風香、吉松梨乃
（二）小阪芙由美、西藤優美
[東] ●伊藤綾香、永谷真衣、工藤遥－佐々木菜緒
（二）佐々木菜緒

金沢学院大学2000012 : 5
武庫川女子大学0010020 : 3

- [金] ○森蔭美夢、藤本華奈。木梨鈴子－上之浦
成美
（三）長岡優花 （二）車亜紀子
[武] 西嶋亜由美、●立目静奈－横野丹音

大阪青山大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
山梨学院大学 0 0 0 0 0 2 x : 2

[大] ●中島智奈都ー長井みなみ

(二) 長井みなみ

[山] ○内藤加菜ー土屋允砂貴

岐 阜 経 済 大 学 0 0 0 0 0 0 : 0
奈良学園大学奈良文化女子短大 5 0 0 0 0 2 x : 7

[岐] ●若林恵里奈、古瀧佳奈、濱口月ー大畑成美

(三) 古瀧佳奈

[奈] ○豊田理沙ー宮原葵

国 士 館 大 学 0 0 0 0 0 : 0
日本文理大学 2 5 1 0 x : 8

[国] ●樋口幸希、小出帆南美ー本田渚沙、
櫛田佳澄

[日] ○阿南恵子、川下真奈ー乙津向茄秋

(三) 甲斐はづき (二) 岸良朱音、浜崎樹里

環太平洋大学短期大学部 0 0 0 0 0 1 2 0 0 : 3
早 稲 田 大 学 0 1 0 0 1 0 1 0 1 x : 4

[環] 吉村藍, 船津真帆、●中村葵ー湯浅浩美

(三) 吉田優月 (二) 藤迫葵、吉田佳世

[早] 常盤紫文、○宮川眞子ー大内佳那

東 海 学 園 大 学 0 0 1 1 2 0 2 : 6
日本女子体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[東] ○木村麻利亜、長瀬りえー棚町佳奈

(本) 白井千普 (二) 白井千普

[日] ●鈴木美帆、遠山楓実佳、竹松星香ー
久保かえで

立 命 館 大 学 3 0 2 0 0 1 : 10
中京学院大学 0 1 0 0 2 0 : 3

[立] ○本庄遥、山口希ー日吉野乃子、日高由菜

(三) 竹内夢② (二) 森田歩②、日吉野乃子

[中] ●稻生真純、柴本知穂ー中村南海

(三) 河井美咲 (二) 河井美咲、林奈央子

東京学芸大学 0 0 0 0 2 : 2
清 和 大 学 1 0 0 6 0 2 x : 9

[東] ●萩原紀恵、岩瀬仁美ー渡部真子

(三) 岩瀬仁美

[清] ○古屋英恵ー瀬尾小夏

(三) 小河原美歩

関東学園大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
日本福祉大学 0 1 0 0 0 1 x : 2

[関] ●磯知里、細井樹ー高田亜李紗

(三) 坂元聖佳

[日] 稲垣葵衣、○石原鮎美ー黒田朋美

神戸親和女子大学 0 0 0 0 1 0 0 : 1
東 京 富 士 大 学 1 0 0 0 0 0 1 x : 2

[神] ●浜西千那美ー上野はるな

(三) 山田夢子

[東] ○江渡祐希ー深沢未花

(三) 西愛美 (二) 小川原結

IPU・環太平洋大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 1 0 0 1 0 0 x : 2

[環] ●山田夏生、吉井朝香ー内田成香

[園] ○原奈々ー栂山奈々

(三) 栂山奈々

美作大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1
富士大学 0 0 1 0 0 4 x : 5

[美] ●城田真菜、貴田妃紗菜、城田真菜ー藪日
香里

[富] ○刈込千波ー相馬里砂

九 州 共 立 大 学 0 0 0 0 0 : 0
東京女子体育大学 1 1 4 1 x : 7

[九] ●渡邊葵美、朝長夢ー假屋海

[東] ○秋元菜穂、萩原あゆみー比護奈保子、
上島紗羽

(本) 清水汐里 (三) 大平あい

▼第3日(8月29日)3回戦

城西大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1
中京大学 0 2 1 1 0 0 x : 4

[城] ●並木あかねー江口菜摘

[中] ○丹羽萌、山本光莉ー平川穂波

(三) 松田愛実

日本体育大学 4 0 0 0 0 0 1 : 5
金沢学院大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[日] ○山田蓮—宇野有加里

(本) 宇野有加里 (二) 山口唯、小阪美由美

[金] ●森蔭美夢、藤本華奈、木梨鈴子—上之浦
成美

奈良学園大学奈良文化女子短大 0 0 0 0 6 0 1 : 7
山梨学院大学 0 0 0 0 2 1 2 : 5

[奈] ○豊田理沙、前川くらら、豊田理沙、
原みなも—宮原葵

[山] ●内藤加菜、板垣明星、佐藤美智、内藤
加菜—土屋充砂貴、渡邊桜、土屋充砂貴
(二) 渡邊桜、立川夏波、森さくら

早稲田大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
日本文理大学 0 0 0 0 1 0 x : 1

[早] ●宮川眞子、常盤紫文—大内佳那

[日] ○阿南恵子—乙津向茄秋
(二) 大城日佳里

東海学園大学 2 1 0 0 0 0 0 : 3
立命館大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[東] ○木村麻利亜—棚町佳奈
(三) 戸村美紅、飯塚紗耶、白井千普
(二) 好川真悠子

[立] ●山口希、本庄遥—日吉野乃子
(三) 松尾ほの華

日本福祉大学 0 0 2 0 1 0 2 : 5
清和大学 0 0 1 0 0 0 1 : 2

[日] ○稲垣葵衣—黒田朋美
(本) 天野佑香 (二) 須川友里加②

[清] ●古屋英恵—瀬尾小夏

園田学園女子大学 0 0 0 2 0 0 2 : 4
東京富士大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[園] ○原田悠—梶山奈々
(本) 梶山奈々 (三) 児嶋優

[東] ●江渡祐希、千葉咲実—深沢未花

東京女子体育大学 0 0 4 0 0 0 1 : 5
富士大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[東] ○秋元菜穂—比護奈保子
(二) 大平あい、比護奈保子

[富] ●刈込千波、草刈里菜—相馬里砂

▼第3日(8月29日) 準々決勝戦

日本体育大学 2 3 1 3 1 : 10
中京大学 0 0 0 0 0 : 0

[日] ○岡村奈々、大村茜—宇野有加里
(三) 松本風香、西藤優美、宇野有加里
(二) 松本風香

[中] ●山本光莉、寺澤小百合、金丸侑志帆—
平川穂波

奈良学園大学奈良文化女子短大 0 0 0 0 2 0 0 : 2
日本文理大学 0 1 2 0 2 0 x : 5

[奈] ●原みなも、前川くらら、豊田理沙—宮原葵
(三) 西畑安美

[日] ○阿南恵子—乙津向茄秋
(三) 甲斐はづき (二) 床次栞奈

東海学園大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1
日本福祉大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[東] ○長瀬りえ、木村麻利亜—棚町佳奈
(二) 吉田彩夏

[日] ●稲垣葵衣—黒田朋美

東京女子体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 0 0 0 0 0 0 1 x : 1

[東] ●秋元菜穂—比護奈保子
[園] ○原奈々—梶山奈々

▼第4日(8月30日) 準決勝戦

日本体育大学 1 2 1 0 2 1 0 : 7
日本文理大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1

[体] ○岡村奈々、山田蓮、大村茜—宇野有加里
(三) 宇野有加里、西藤優美
(二) 松本風香、上村麗、山口唯

[文] ●阿南恵子—乙津向茄秋
(三) 小坂茜

【評】先攻の日体大は初回、1番松本が左翼への
二塁打で出塁、2番竹内が手堅く送り、一死三塁

の好機を作ると、3番西藤の右犠飛で1点を先制。続く2回表にも一死満塁から1番松本の二遊間を抜く適時打で2点を加えた。主導権を握った日体大は、3回表にもワイルドピッチの間に1点を追加。その後も5回表に5番山口の右中間への適時二塁打と6番宇野の中犠飛で2点を加え、6回表にも3番西藤の右中間を破る適時三塁打で1点を挙げるなど、着々と加点。14安打を浴びせる猛攻で7-1と日本文理大を寄せ付けず、決勝へ駒を進めた。

一方、日本文理大は4点を追う3回裏、一死から8番阿南が左前安打で出塁。するとすかさず代走吉山を送り、内野ゴロで二塁へ進み、1番小坂の右越適時三塁打で迎え入れ、1点を返したが、完封を免れるのが精一杯。先発阿南が勢いにおける日体大打線を止めることができず、完敗を喫して準決勝で姿を消した。

園田学園女子大学 0 0 0 0 0 7 : 7
東海学園大学 0 0 0 0 0 0 : 0

〔園〕 原田悠、○原奈々ー柊山奈々

(本) 富本凜子 (二) 服部洋代

〔東〕 ●長瀬りえ、木村麻利亜ー棚町佳奈

(二) 飯塚紗耶

【評】東海学園大・長瀬に5回まで1安打と押さえ込まれていた園田学園女子大は、0-0で迎えた6回表、代打服部が右翼線を抜く二塁打で出塁。さらに1番石川のバント安打、敵失で無死満塁と攻め立てると、ここで先発長瀬に代わった東海学園大の2番手木村が押し出しの死球。幸運ともいえる形で待望の先取点を挙げた。この1点で勢いづいた園田学園女子大は、この後、4番田井の2

点適時打、7番宮本の3点本塁打等でたたみかけ、一挙7点を奪う猛攻。終盤までの息詰まる展開が嘘のように集中打を浴びせ、7-0の6回コールド勝ちを飾り、4年ぶりの決勝進出を決めた。

東海学園大は、初回、5回裏と先頭打者が出塁し、三塁まで進塁。「あと一步」という先制機を作りはしたが、園田学園女子大・原田、原の投手リレーの前に最後まで無得点。無念の6回コールド負けを喫し、準決勝で涙をのんだ。

日本体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 0 1 0 0 0 0 x : 1

〔日〕 ●岡村奈々ー宇野有加里

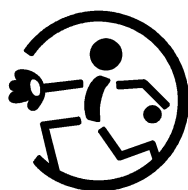
〔園〕 ○原奈々ー柊山奈々

(二) 石川恭子

【評】園田学園女子大は2回裏、6番堤が三遊間を破る安打で出塁。犠打野選の後8番宮本の二遊間を抜く安打で満塁と攻め立て、一死後、1番石川が初球を積極的に打って出るとこれが右前に落とす適時打となって1点を先制。終わってみればこれが両チームを通じての唯一の得点（決勝点）となった。

守ってはエース原が切れのよい速球と巧みな投球術を駆使し、日体打線を完封。わずか2安打に抑え込んで三塁すら踏ませず、4年ぶり7度目の栄冠を勝ち取った。

一方、日体大はエース岡村が8安打されながらも最少失点に抑える力投。打線の援護を期待したいところだったが……。結局最後まで反撃機を見出せず、0-1の惜敗。試合後、主将小坂がグラウンドに座り込み、涙する姿が印象的であった。



2016 の 園 田

園田学園女子大学ソフトボール部主将 田井 亜加音

園田学園女子大学ソフトボール部は、インカレ優勝6回や関西学生女子ソフトボールリーグにおいて、11季連続リーグ優勝を成し遂げるなど常に関西・全国の上位に位置する伝統あるチームです。このような伝統あるチームの主将として使命を受け大変な重責でしたが、自分なりにチームのためにできることをやろうと思い、またチーム全員の目標を確認し全員一致の日本一へ向けてスタートしました。

今年のチームは相手に簡単に進塁・得点をやらない守備と、隙さえあれば先の塁を狙い何番からでもチャンスを作り出し得点できる爆発的な打撃を目標にチーム全員で何が必要で不必要なのか、また日本一に向けてどのような準備が必要などを話し合い、その内容に応じた練習メニューを考え日々の練習に取り組みました。

インカレ出場権をかけた春季リーグでは12季連続優勝することが出来ましたが、日本一を目指すチームとしてはまだまだ準備することがたくさんあると感じる試合になりました。チーム全員で振り返り、インカレまでに強化するところなどを話し合いながら、個人の力、チーム全体の力を強化していきました。

しかし、チームとして一番不安だったことは、木田監督が日本代表チームコーチで長期不在なことでした。以前から覚悟していたことでしたが、いざ現実になると不安との戦いでした。でも、木田監督がチームに戻られるまでに今まで以上に成長して木田監督の帰りを待とうと全員で乗り越えました。また、たくさんの卒業生の方に支えられていい準備が出来ました。

そして、木田監督がチームに戻られ迎えたインカレの前に開催された西日本大学選手権では、2

年ぶりに優勝することが出来ました。インカレへ向け大きな自信になりましたが、得点力の強化という課題がでました。もう一度、どのような準備が必要なのかを確認しインカレまでに万全な準備をしました。チーム全員で話し合いをすることにより練習メニューの意図を一人一人が今まで以上に考え、また練習でのコミュニケーションが増え良い準備が出来き、インカレに臨みました。

そして迎えたインカレ初戦では初回から相手ピッチャーを捉え3回コールドで勝ち進み2回戦以降、少ないチャンスで得点し、粘り強く進塁させない、点を取られない守備で決勝に勝ち進むことが出来ました。4年ぶりの優勝を賭け去年敗戦した日本体育大学との対戦となりました。決勝戦では数少ないチャンスで、1点を取りその1点を全員で粘り強く失点されない攻めの守備で守り抜くことができ、念願の日本一を獲得することができました。

今年のインカレ優勝は大会を終えてみれば、失点0という結果で終えることができ、今まで全員でこの瞬間のために準備してきてその成果が出たと思います。「周りを見れば仲間がいる、一人じゃない全員で戦っているんだ」と、全員がチームに徹し全員が同じ方向を向けたからこそ掴み取ることが出来たと思います。

最後に、私たちに良い環境を用意してくださり優勝へと導いてくださった監督をはじめとするスタッフの方々や、また監督不在の中たくさんのサポートをしてくださいました卒業生の方々、そしていつもどんな時でも応援して下さる保護者の皆様に感謝し、園田学園女子大学ソフトボール部は次なる目標に向かって突き進んでいきたいと思えます。

全日本大学(女子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	18	14	6	1	東海女子大学		1	1	
東京女子体育大学	15	15	8		鈴鹿国際大学		1	1	
園田学園女子大学	7	4	9		九州女子大学			2	
東北福祉大学	3		2		仙台大学			2	
日本女子体育大学	1	5	8		東京富士大学			1	1
大阪成蹊女子短大	1	4	5		関西外国語大学			1	
中京大学	1		11	1	神戸親和女子大学			1	
淑徳大学	1		2		龍谷大学			1	
大阪大谷大学	1		2		愛媛女子短期大学			1	
中京女子大学	1		1		龍谷大学			1	
早稲田大学	1		1		清和大学			1	
東京国際大学	1				福岡大学			1	
武庫川女子大学		2	6		立命館大学			1	
大阪国際大学		2	2		環太平洋大学			1	
東海学園大学		1	2		日本文理大学			1	
大阪体育大学		1	1						

※旧校名分を含む ※第39回の優勝は2校 ※第50回は入賞4校 ※51回連続出場校：日本体育大学・東京女子体育大学

女子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

順位	守備率	位置	氏名	チーム名	打席	打数	安打	得点	打点	犠牲打	フライ	四球	死球	三振	盗塁	残塁	打撃妨害	出塁	打撃率	本塁打	三塁打	二塁打	試合数
1	0.950	4	松本 風香	日本体育	21	19	13	7	2	2	0	0	0	1	2	5	0	13	0.684	0	2	3	6
2	1.000	3	山口 唯	日本体育	19	18	10	5	10	0	1	0	0	1	0	4	0	10	0.556	0	0	3	6
3	1.000	6	石川 恭子	園田学園女子	19	14	7	2	1	0	0	5	0	0	1	8	0	12	0.500	0	0	1	6
4	1.000	9	小阪美由美	日本体育	20	16	7	4	4	1	0	3	0	1	0	3	0	10	0.438	0	0	3	6
5	1.000	5	好川真悠子	東海学園	15	12	5	2	1	2	0	1	0	2	0	3	0	6	0.417	0	0	1	4
5	1.000	8	松瀬 清夏	日本文理	13	12	5	4	2	0	0	1	0	2	0	3	0	6	0.417	0	0	0	4
5	0.800	7	小坂 茜	日本文理	12	12	5	2	1	0	0	0	0	0	1	3	0	5	0.417	0	1	0	4
8	1.000	2	宇野有加里	日本体育	19	17	7	4	8	0	1	1	0	2	0	3	0	8	0.412	2	3	0	6
9	0.800	5	西藤 優美	日本体育	20	15	6	5	5	0	2	2	1	4	0	4	0	9	0.400	0	2	1	6
9	1.000	8	天野 佑香	日本福祉	12	10	4	2	1	1	0	1	0	0	3	4	0	5	0.400	1	0	0	3
11	1.000	4	屋瀬 未奈	園田学園女子	14	13	5	0	2	1	0	0	0	1	0	4	0	5	0.385	0	0	0	6
12		DP	吉松 梨乃	日本体育	13	11	4	2	4	0	0	1	1	2	0	3	0	6	0.364	0	1	1	6
13	1.000	9	飯塚 紗耶	東海学園	14	14	5	4	0	0	0	0	0	2	1	4	0	5	0.357	0	1	1	4
13	1.000	3	田井亜加音	園田学園女子	17	14	5	0	3	0	0	3	0	1	0	5	0	8	0.357	0	0	1	6
15	1.000	7	加福 直子	日本体育	14	9	3	1	0	2	0	3	0	1	0	5	0	6	0.333	0	0	0	6
16	1.000	8	上村 麗	日本体育	17	16	5	3	1	0	0	1	0	3	2	4	0	6	0.313	0	0	1	6
17	1.000	2	栂山 奈々	園田学園女子	16	11	3	2	3	3	0	1	1	2	0	3	0	5	0.273	1	0	0	5
18	1.000	5	児嶋 優	園田学園女子	15	15	4	1	2	0	0	0	0	3	1	1	0	4	0.267	0	1	0	6
19	1.000	8	蟹沢 夏帆	城西	12	12	3	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0.250	1	0	1	3
20	0.923	6	吉田 彩夏	東海学園	14	13	3	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0.231	0	0	1	4

女子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	チーム名	氏名	投球回数	打者	打数	被安打	失点	自責点	犠牲バント	犠牲フライ	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投球	打撃妨害	投球数	防御率	勝利数	敗戦数	試合数
1	園田学園女子	原 悠	11	36	35	4	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	115	0.00	2	0	2
1	園田学園女子	原 奈々	23	83	74	12	0	0	3	0	4	2	16	0	0	0	0	326	0.00	3	0	4
3	東京女子体育	秋元 菜穂	17 1/3	67	63	14	1	1	1	0	3	0	7	0	0	0	0	251	0.40	2	1	3
4	立命館	本庄 遥	12 2/3	49	44	10	1	1	2	0	2	0	8	0	0	0	1	181	0.55	1	0	3
5	日本体育	岡村 奈々	20 1/3	80	74	12	2	2	3	0	3	0	17	0	0	0	0	290	0.69	4	1	5
6	日本福祉	稲垣 葵衣	16	66	57	12	3	2	4	1	1	3	17	0	0	0	0	249	0.88	1	1	3
7	奈良学園大学奈良文化女子短期	豊田 理沙	12 1/3	55	46	15	5	2	3	0	5	1	3	0	0	0	0	219	1.14	2	0	3
8	東海学園	長瀬 りえ	11 1/3	44	42	8	3	2	0	0	2	0	5	0	1	0	0	201	1.24	1	1	3
9	城西	並木あかね	17 2/3	76	72	20	7	4	2	0	2	0	9	0	0	0	0	258	1.58	2	1	3
10	東海学園	木村麻利亜	15 2/3	63	56	7	4	4	1	0	5	1	12	1	0	0	0	230	1.79	2	0	4

記録席 本大会はいわゆる「高反発バット」の使用が禁止されて初めてのインカレであった。そこで、過去3大会における安打の内訳について調べてみた。その結果は表1・表2に示したとおりである。

表1. 男子の安打 ()内は安打に占める割合

大会	打数	単打	二塁打	三塁打	本塁打	安打数	打率
第49回	1615	3 6 7 (73.9)	3 6 (7.2)	3 8 (7.6)	5 6 (11.3)	4 9 7	0.308
第50回	1360	2 4 8 (68.7)	4 5 (12.4)	2 8 (7.8)	4 0 (11.1)	3 6 1	0.265
第51回	1916	3 8 0 (74.1)	5 5 (10.7)	3 5 (6.8)	4 3 (8.4)	5 1 3	0.268

表2. 女子の安打 ()内は安打に占める割合

大会	打数	単打	二塁打	三塁打	本塁打	安打数	打率
第49回	1498	3 1 9 (78.4)	5 5 (13.5)	2 6 (6.4)	7 (1.7)	4 0 7	0.272
第50回	1332	2 8 7 (75.6)	5 3 (13.9)	1 5 (3.9)	2 5 (6.6)	3 8 0	0.285
第51回	1814	3 8 3 (77.4)	5 9 (11.9)	4 4 (8.9)	9 (1.8)	4 9 5	0.273

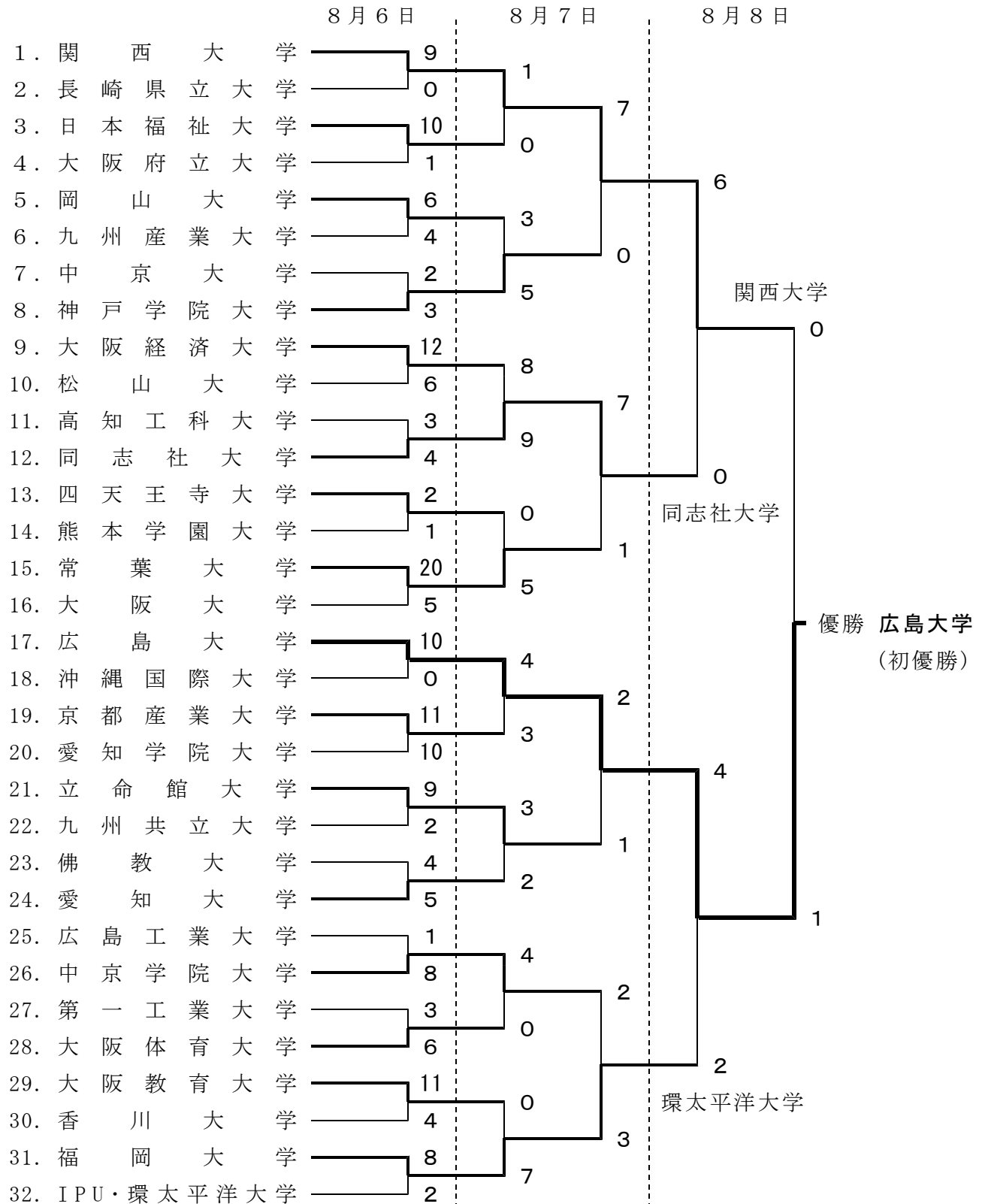
最初に第50回と51回の男女についてみたところ、女子では有意に三塁打が増えて本塁打が減り、男子ではそれが認められなかったので、「やはり」と思われた。しかし、第51回の女子は49回とほとんど相違がなかった。また、男子では3大会とも内訳や打率の有意差は認められなかった。条件が異なるので単純な比較はできないが、バットの性能だけで安打の内訳が変化すると言えないのは、確かなようである。（水谷 博）

第48回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成28年8月5日(金)～8日(月)

会場：三重県熊野市／くまのスタジアム・熊野市野球場

寺谷総合グラウンド・紀南高校グラウンド



第48回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成28年 8 月 5 日(金)～ 8 日(月)

会場：三重県熊野市／山崎運動公園 熊野市総合グラウンド

	8 月 6 日	8 月 7 日	8 月 8 日
1. 東 海 学 園 大 学		7	
2. 武 庫 川 女 子 大 学	2	1	6
3. 美 作 大 学	3		
4. 星 城 大 学	0	4	2
5. 立 命 館 大 学	7		3
6. 大 阪 青 山 大 学		0	東海学園大学 0
7. 日 本 福 祉 大 学		2	
8. 同 志 社 大 学	1	0	
9. 九 州 共 立 大 学	4		1
10. 広 島 修 道 大 学	0	1	大阪大谷大
11. 岐 阜 経 済 大 学	11		9
12. 大 阪 大 谷 大 学		2	
13. 日 本 文 理 大 学		8	優勝
14. 神 戸 親 和 女 子 大 学	2	0	5
15. 環太平洋大学短期大学部	0		日本文理大 0
16. 中 国 学 園 大 学	0	1	
17. 龍 谷 大 学	11		1
18. 奈良学園大学奈良文化女子短			1
19. 中 京 学 院 大 学		0	4
20. 太 成 学 院 大 学	1	10	0
21. IPU・環太平洋大学	2		2
22. 天 理 大 学	0	0	
23. 中 京 大 学	1		1
24. 園 田 学 園 女 子 大 学		3	

園田学園女子大学
(2年ぶり16回目)

▼男子1回戦

長崎県立大学 0 0 0 0 0 : 0
関西大学 0 1 3 0 5x : 9

●下村 尚輝-阿比留 基
○松田 祐汰-黒田 裕太

日本福祉大学 2 1 0 2 5 : 10
大阪府立大学 0 0 0 1 0 : 1

○相島 宏郁-井上 力
●濱口 巧-平山 将樹

九州産業大学 0 0 0 1 0 2 1 : 4
岡山大学 0 1 2 0 3 0 x : 6

●金山 佳太-鳥山 健
○真壁 章博-三村 友洋

中京大学 0 2 0 0 0 0 0 : 2
神戸学院大学 0 0 0 0 0 3 x : 3

●関口 幸輝-水本 健太
○土井 涼輔-芝 聖

大阪経済大学 0 0 7 0 3 0 2 : 12
松山大学 3 0 0 1 0 0 2 : 6

○丹羽 大輝-森内 遼也、岡本 岳也
●佐伯 英和、重見 海里-高須賀直人

高知工科大学 0 0 0 1 1 1 0 : 3
同志社大学 0 0 0 0 2 2 x : 4

●木下 稜太-藤田 浩史
○大濱 航-小林 拓郎

四天王寺大学 0 0 0 2 0 0 0 : 2
熊本学園大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

○北出 修茂-山崎 耕作
●江藤 紘-小原 諒也

常葉大学 0 1 4 8 7 : 20
大阪大学 0 0 0 5 0 : 5

○田村 幸也、比嘉 太祐、田村 幸也-山本 和
●天部 健、藤井 直道-福良 篤司

沖縄国際大学 0 0 0 0 : 0
広島大学 3 7 0 x : 10

●金城 太樹-大湾 貴登
○庄林 希、橋本 卓磨-小野 弘汰

愛知学院大学 0 2 2 0 2 0 4 : 10
京都産業大学 3 0 5 3 0 0 x : 11

●鈴木 誠士-三好 優都
○松岡 涼介-杉本 幸紀

九州共立大学 1 0 0 0 1 0 : 2
立命館大学 1 1 0 0 3 4 : 9

●岩村 篤史-野田 拓也
○中原 隼生-田苗 遼平

佛教大学 1 0 2 0 0 1 0 : 4
愛知大学 0 1 0 1 2 1 x : 5

●木村 嘉志-日和佐 航大

神谷 俊徳、○岩本 達明-山口 洋平、神谷 俊徳

広島工業大学 0 0 0 0 0 : 0
中京学院大学 3 1 2 2 x : 8

●赤木 翔一-渡辺 翔太
○松本 和也、谷口 魁-鈴木 啓史

第一工業大学 0 0 0 0 3 0 0 : 3
大阪体育大学 2 0 2 2 0 0 x : 6

●麻生 大雅、小倉 和貴-桑代 浩太郎
○三原 広太郎、中尾 良樹-高松 健太、摺臼 良哉

香川大学 0 1 3 0 0 : 4
大阪教育大学 3 0 1 5 2x : 11

●原田 拓実、原地 翼-今西 涼太
金田 史樹、○奥田 真心-南 健太

環太平洋大学 0 0 0 0 0 1 0 7 : 8
福岡大学 1 0 0 0 0 0 0 1 : 2

先村 翼、○大原 涼、郎-山内 貴博
梅崎 直大、●石田 悠太、多久島 力也-山中 洋介

▼男子2回戦

日本福祉大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
関西大学 0 0 0 0 1 0 x : 1

●相島 宏郁-井上 力
○松田 祐汰-黒田 裕太

岡山大学 0 1 0 0 0 0 2 : 3
神戸学院大学 0 0 2 0 0 3 x : 5

●真壁 章博-三村 友洋
○中嶋 勇人、土井 涼輔-芝 聖

大阪経済大学 0 0 0 1 4 3 0 : 8
同志社大学 1 0 7 0 0 1 x : 9

丹羽 大輝、藤木 黎弥、●丹羽 大輝-森内 遼也
茶畑 佑介、○大濱 航-小林 拓郎

四天王寺大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
常葉大学 0 1 0 0 0 4 x : 5

●北出 将崇-山崎 耕作
○田村 幸也-山本 和

京都産業大学 2 0 0 0 0 0 1 : 3
広島大学 1 1 1 0 0 0 1x : 4

●松岡 涼介-杉本 幸紀
庄林 希、橋本 卓磨、○庄林 希-小野 弘汰

立命館大学 0 0 1 0 0 2 0 : 3
愛知大学 0 0 1 0 0 1 0 : 2

中原 隼生、高森 威吹希、○中原 隼生-田苗 遼平
●岩本 達明-神谷 俊徳

大阪体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
中京学院大学 1 0 0 0 2 1 x : 4

●中尾 良樹、三原 広太郎-摺臼 良哉、高松 健太
○松本 和也、比嘉 竜哉-鈴木 啓史

大阪教育大学 0 0 0 0 0 : 0
環太平洋大学 2 1 0 4 x : 7

●奥田 真心、金田 史樹－南 健太
○児玉 勝利、糸数 昌太郎－山内 貴博、檜田 慶介

▼男子準々決勝戦

関西大学 2 4 0 1 0 : 7
神戸学院大学 0 0 0 0 0 : 0

○松田 祐汰、高桑 公岐－黒田 裕太
●大垣 竜一朗－芝 聖

同志社大学 0 3 0 0 1 3 0 : 7
常葉大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

○大濱 航－小林 拓郎
●田村 幸也－山本 和

広島大学 0 0 1 0 0 1 0 : 2
立命館大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

○庄林 希－小野 弘汰
●高森 威吹希、中原 隼生－田苗 遼平

環太平洋大学 0 0 0 0 3 0 0 : 3
中京学院大学 0 0 1 0 1 0 0 : 2

○先村 翼、大原 涼太郎－山内 貴博
●松本 和也－鈴木 啓史

▼男子準決勝戦

同志社大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
関西大学 2 3 0 0 1 0 x : 6

●大濱 航－小林 拓郎
○松田 祐汰、高桑 公岐－黒田 裕太

【評】関西大学、先制逃げ切りで決勝へ！

関西大学は初回2番黒田圭人・3番川添裕貴の連続中前安打などで二死満塁とチャンスを掴み6番黒田裕太の二遊間への2点適時打で先制。2回には、左前安打の1番太田亮介を一塁に置いて2番黒田が右越えにツーラン、3番川添も左越えに本塁打を放ち序盤で大きくリードを広げた。投げては、松田祐汰・高桑公岐両投手が同志社大学打線をわずか1安打に抑え2年連続で決勝に駒を進めた。

一方同志社大学は3回戦で見た集中打打が影を潜め、27年ぶりの決勝進出はならなかった。

環太平洋大学 2 0 0 0 0 0 0 : 2
広島大学 0 0 1 0 0 3 x : 4

児玉 勝利、●大原 涼太郎－山内 貴博
○庄林 希－小野 弘汰

【評】広島大学、逆転で決勝へ！

1点ビハインドの終盤6回裏、広島大学は9番門田惇希の一二塁間安打などで二死二塁とすると、3番辻天薫が三遊間適時打を放ち同点、さらに二塁に走者を置いて4番小野弘汰の一二塁間適時打で逆転に成功した。7回表庄林希投手が三人で抑え、初めての決勝へ駒を進めた。

環太平洋大学は初回、3番井上知厚の左越えツーランで先制したが、3・5回のダブルプレーが響き惜しくも敗れた。

▼男子準決勝戦

関西大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
広島大学 0 0 0 0 0 1 x : 1

●松田 祐汰－黒田 裕太
庄林 希、○橋本 卓磨、庄林 希－小野 弘汰

【評】広島大学、大接戦を制し初優勝！！

お互い無得点で迎えた広島大学は6回裏、一死後2番庄林希がセンターへの安打を好走塁で二塁打とし、3番辻天薫のセンター横への適時二塁打で待望の得点を挙げた。投げては庄林・橋本両投手が再三のピンチを切り抜け完封リレーで、初優勝を果たした。

一方関西大学は毎回得点圏に走者を出したがあと一本が出ず、6回には一死満塁と絶好のチャンスを迎えたが併殺で得点できず2年連続優勝はならなかった。

▼女子1回戦

美作大学 3 0 0 0 0 0 0 : 3
武庫川女子大学 0 1 0 1 0 0 0 : 2

○城田 真菜－薮 日香里
●立目 静奈、渡邊 なつみ－横野 丹音

星城大学 0 0 0 0 0 : 0
立命館大学 1 0 1 0 5 x : 7

●山宿 稔梨－榊原 桜
○山口 希－日吉 野乃子

九州共立大学 0 0 0 0 0 1 0 0 3 : 4
同志社大学 0 0 0 0 0 1 0 0 1 : 2

○渡邊 葵美－假屋 海
下小蘭 詩希、●森本 夏未－松下 奈央

岐阜経済大学 0 1 1 2 0 7 : 11
広島修道大学 0 0 0 0 0 0 : 0

○若林 恵里奈、古瀧 佳奈－大畑 成美
●徳丸 せな、竹中 沙綺、徳丸 せな－中川 佳奈子

環太平洋大学短期大学部 0 0 0 0 0 0 0 : 0
神戸親和女子大学 0 0 1 0 0 1 x : 1

●吉松 玲美、中村 葵－吉松 玲奈、湯浅 浩美
○浜西 千那美－上野 はるな

龍谷大学 0 0 3 4 4 : 11
中国学園大学 0 0 0 0 0 : 0

○井戸 渚－服部 泉
●山崎 綾華－原田 佳美

太成学院大学 1 0 0 0 0 0 0 : 1
IPU・環太平洋大学 0 1 0 1 0 0 x : 2

●吉田優姫、坂本 瑛、吉田優姫－福島梨紗、日野志惟那
○竹原 由菜、仲村渠 愛美－山根 美優

天理大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
中京大学 0 0 0 0 0 0 1 x : 1

前川 夏海、佐々木葉那、神野まどか、●佐々木 菜一

遠藤 綾乃

山本 光莉、寺澤 小百合、○丹羽 萌一平川 穂波

▼女子2回戦

東海学園大学 0 0 2 3 1 0 1 : 7

美作大学 0 0 0 0 1 0 0 : 1

竹田 早希、○木村 麻利亜、山田 玲菜一棚町 佳奈

●城田 真菜一藪 日香里

立命館大学 0 1 0 0 1 1 1 : 4

大阪青山大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

○山口 希一日吉 野乃子

●中島智奈都、中尾 百伽、川添 恵、友藤 紗恵一

長井みなみ

日本福祉大学 0 0 0 0 0 0 2 : 0

九州共立大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

石原 鮎美、○稲垣 葵衣一志知 真奈美、黒田 朋美

●渡邊 葵美一假屋 海

岐阜経済大学 0 0 0 1 0 0 0 0 : 1

大阪大谷大学 0 0 1 0 0 0 0 1x : 2

●若林 恵里奈一大畑 成美

○吉崎 菜々海一青木 千秋

神戸親和女子大学 0 0 0 0 0 : 0

日本文理大学 0 7 0 1 x : 8

●浜西 千那美一上野 はるな

○阿南 恵子、川下 真奈一乙津 向茄秋

龍谷大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

奈良文化女子短大 0 0 0 0 0 0 0 : 0

○井戸 渚、尾崎 沙知一服部 泉

●豊田 理沙一宮原 葵

中京学院大学 0 0 0 0 : 0

IPU・環太平洋大学 0 5 0 5x : 10

●稲生 真純、柴本 知穂一中村 風沙

○竹原 由菜、神藤 都一内田 成香

中京大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

園田学園女子大学 0 0 0 3 0 0 x : 3

●金丸侑志帆、野村 真由、丹羽 萌一、山本 光莉一

小寺 真琴、平川 穂波

○原 奈々、市谷 愛美一柊山 奈々

▼女子準々決勝戦

立命館大学 0 0 0 0 0 3 0 : 3

東海学園大学 0 0 5 0 1 0 x : 6

●本庄 遥一日吉 野乃子

○長瀬 りえ、木村 麻利亜一棚町 佳奈

大阪大谷大学 1 5 0 2 1 : 9

日本福祉大学 0 0 0 0 0 : 0

○吉崎 菜々海、大西 優季、藤田 憂妃一青木 千秋

●稲垣 葵衣、勝 ちひろ、松崎 恭子一黒田 朋美、

大森 早稀

龍谷大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1

日本文理大学 0 0 0 0 2 3 x : 5

井戸 渚、●緒方 雛乃、安井 愛一服部 泉

○阿南 恵子一（捕手）乙津 向茄秋

園田学園女子大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1

IPU・環太平洋大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

原田 悠、○原 奈々一柊山 奈々

●山田 夏生一内田 成香

▼女子準決勝戦

大阪大谷大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1

東海学園大学 0 1 0 0 1 0 x : 2

吉崎 菜々海、●大西 優季一青木 千秋

木村 麻利亜、○長瀬 りえ一棚町 佳奈

【評】接戦を制し東海学園大学、決勝へ！

1-1の同点で迎えた5回裏、東海学園大学は8番棚町佳奈が左中間二塁打で出塁すると9番浦口菜々のバントで三進し1番飯塚紗那の左犠飛で生還、勝ち越し点を挙げ、5回から登板の2番手長瀬りえ投手が3回無失点4奪三振の好投で決勝戦に進出した。

一方、大阪大谷大学は4回3番仁科芽惟・4番入谷玲生奈の連続安打などで追いついたが相手の好守備に阻まれ惜しくも敗れた。

園田学園女子大学 1 0 0 0 0 0 1 : 2

日本文理大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

○原田 悠、市谷 愛美、原 奈々一柊山 奈々

●阿南 恵子一乙津 向茄秋

【評】3投手の完封リレーで園田学園大学、決勝へ！

園田学園大学は初回、二死一二塁から5番児嶋優の中前適時打で先制し、先発原田悠投手が5回まで被安打1毎回三者凡退の好投、6回から市谷愛実一原奈々投手の継投で最少失点差を守り切り5年連続決勝に進出した。

日本文理大学は2点を追う7回4番岸良朱音・5番乙津向茄秋の連続安打でチャンスを掴んだがあと一歩及ばず涙を飲んだ。

東海学園大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

園田学園女子大学 1 0 0 0 3 0 x : 4

●森 萌香、長瀬 りえ一棚町 佳奈

○原 奈々一柊山 奈々

【評】園田、4試合連続完封で2年ぶり15回目の優勝！

園田学園女子大学は初回一死三塁から3番堤加菜子の犠飛で先制。5回にも一死二三塁から3番堤がライト線に2点適時二塁打を放ち、さらに盗塁後4番田井亜加音の内野安打で追加点を挙げ、投げては原奈々投手が被安打5・6奪三振の完封で優勝を手にした。

東海学園大学は4回5番川野琴巳の右前安打などで一死一三塁のチャンスを作ったがあと一本が出ず2年連続優勝はならなかった。

なお最優秀選手賞には4試合3勝奪三振21、防御率0.00の園田学園女子大学・原奈々投手が受賞した。

第31回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成28年8月5日(金)～8月8(月)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民運動園 他

	6 日	7 日	8 日	
1. 日本体育大学		9		
2. 城西大学	15	2	8	
3. 慶應義塾大学	0			
4. 桜美林大学	6	1	9	
5. 福島大学	7		0	
6. 国際武道大学	3	9		
7. 立教大学	10			日本体育大学 1
8. 東京大学		3		
9. 明治大学	6	5	0	
10. 日本大学工学部	3			5
11. 長岡大学	0	13	21	早稲田大学
12. 早稲田大学	26			
13. 明星大学		0		
14. 高崎経済大学		13		
15. 盛岡大学	1	6	1	
16. 文教大学	10			日本大学 0
17. 東京理科大学	6	6	7	
18. 日本大学	7			
19. 東京学芸大学		4		
20. 東京都市大学	0	5		6
21. 東海大学	10		1	
22. 埼玉大学	1	4		
23. 学習院大学	4		6	
24. 関東学園大学	6	1		
25. 中央大学	9	5		
26. 国士舘大学		7		

優勝 国士舘大学 (21年ぶり4回目)

▼男子1回戦

慶應義塾大学 0 0 0 0 : 8
城西大学 8 3 4 x : 15

●佐藤 慶一、呉 隆司、片山 純太
宮原 廉、○大野 利寛、飯田 敏弘、渡辺 暢

桜美林大学 0 3 1 1 0 0 1 : 6
福島大学 0 1 0 1 0 2 3x : 7

●佐藤 大海、依田 譲
土屋 直人、○北原 優希、小原 広夢、大竹丈一郎

国際武道大学 1 0 0 0 2 0 : 3
立教大学 3 0 1 2 1 3x : 10

●福崎 史也、篠崎 勇希、熊谷 伊吹
○佐々木涼輔、中条 圭汰、後藤 清紀

明治大学 0 0 0 0 0 1 5 : 6
日本大学工学部 0 2 1 0 0 0 0 : 3

佐藤 嶺、○前田 直輝、岸森 俊樹
●菅野 和輝、込山健太郎

早稲田大学 15 2 3 6 : 26
長岡大学 0 0 0 0 : 0

松木 俊皓、○杖子 量哉、吉田 尚央、
山本 修平
●坂田 和輝、池田 雄大、笹川 敏行、
尾島 聡

立教大学 0 6 0 4 : 10
盛岡大学 0 1 0 0 : 1

※選手熱中症のためコールドゲーム

東京理科大学 0 0 0 4 2 0 0 : 6
日本大学 0 2 0 1 0 3 1x : 7

●石崎 一輝、大江 雄登、森 裕章
草野 心平、南 翼、○草野 心平、芝 貴臣

東京都市大学 0 0 0 0 : 0
東海大学 2 0 7 1x : 10

●井口 幸汰、江幡 有紀、井口 幸汰、佐藤 仁法
○佐藤 拓矢、御手洗昂季、吉江 元希

学習院大学 0 3 0 0 0 0 1 : 4
埼玉大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

○板垣 慎吾、古河 健太、前田 亮
●松平 幹太、花田 有生、高橋 隼人

中央大学 2 0 0 5 0 2 0 : 9
関東学園大学 1 0 0 5 0 0 0 : 6

宮川晋之輔、○川村 卓未、芝 多聞、井原 奨之
土屋 克司、●高橋 尚貴、松浦 義明

▼男子2回戦

城西大学 0 0 2 0 0 : 2
日本体育大学 4 5 0 0 x : 9

●宮原 廉、及川 耕司、飯田 敏弘
○児玉 聡太、酒井 匠、棟田 佑哉、上田 郁也

福島大学 0 0 1 0 0 : 1
立教大学 8 1 0 0 x : 9

●土屋 直人、丹治 陽平、土屋 直人、大竹丈一郎
○佐々木涼輔、中条 圭汰、後藤 清紀

東京大学 0 1 1 0 0 0 1 : 3
明治大学 0 0 3 0 2 0 x : 5

●森岡 純平、今川 直人、山上陽一郎

○前田 直輝、岸森 俊樹

明星大学 0 0 0 0 : 0
早稲田大学 9 0 4 x : 13

●岡本 瑞己、中村 勝輝、大野 嵩道
○豊田 誉彦、杖子 量哉、実重 僚右、山本 修平

文教大学 0 0 4 2 0 0 : 6
高崎経済大学 3 3 2 0 1 4x : 13

●武藤 光佑、飯島 和輝、高橋 一真
○多胡 和輝、青柳 晴帆、橋野 一哉

東京学芸大学 0 1 1 2 0 0 0 : 4
日本大学 0 3 1 0 0 2 x : 6

福岡 真司、●柳森 大毅、池田 岳史
○草野 心平、南 翼、芝 貴臣、高橋 航大

東海大学 0 0 0 3 0 1 0 1 : 5
学習院大学 0 1 0 0 0 3 0 0 : 4

○佐藤 拓矢、御手洗昂季
板垣 慎吾、●古河 健太、前田 亮

中央大学 1 0 0 0 0 0 0 : 1
国士舘大学 0 2 0 2 2 1 x : 7

●川村 卓未、井原 奨之
○星野 嵩幸、中島 優人、服部 祐介

▼男子準々決勝戦

日本体育大学 0 1 4 2 1 : 8
立教大学 0 0 0 0 0 : 0

○豊本 翔貴、開 康司、杉山 希高、上田 郁也
●佐々木涼輔、檜木 諒、佐々木涼輔、後藤 清紀

早稲田大学 7 3 7 4 : 21
明治大学 0 0 0 0 : 0

○松木 俊皓、吉田 尚央、山本 修平、実重 僚右
●佐藤 嶺、井谷 竜弘、岸森 俊樹、岸森 俊樹、杉本 恭朗

日本大学 0 3 0 0 3 1 0 : 7
高崎経済大学 0 1 0 0 0 0 0 : 1

○南 翼、芝 貴臣
●青柳 晴帆、多胡 和輝、橋野 一哉

東海大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
国士舘大学 0 0 0 0 1 4 x : 5

●佐藤 拓矢、御手洗昂季
○池田 空生、服部 祐介

▼男子準決勝戦

日本体育大学 2 0 5 0 0 0 2 : 9
早稲田大学 0 0 0 1 0 0 4 : 5

○酒井 匠、棟田 佑哉
●松木 俊皓、豊田 誉彦、山本 修平

日本大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
国士舘大学 0 0 2 1 2 1 x : 6

●草野 心平、南 翼、芝 貴臣
○中島 悠貴、服部 祐介

▼男子決勝戦

国士舘大学 3 0 0 0 3 0 0 : 6
日本体育大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1

○池田 空生、服部 祐介
●開 康司、豊本 翔貴、児玉 聡太、棟田 佑哉

第31回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成28年8月5日(金)～8日(月)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク 他

	6 日	7 日	8 日	
1. 東京富士大学		1		
2. 松本大学	0	2	3	
3. 東京女子体育大学	2	1	0	
4. 宮城教育大学	1	1	1	
5. 日本女子体育大学	8	2		
6. 学習院大学	1	6		
7. 清和大学	6	5		
8. 東京国際大学		4	0	
9. 淑徳大学	7	0	10	
10. 東京学芸大学	1	30		
11. 桜美林大学	1	5		
12. 埼玉大学	5	8		
13. 日本体育大学		0		
14. 順天堂大学		13		
15. 関東学園大学	13	0		
16. 中央大学	0	7		
17. 東北福祉大学	7	3		
18. 金沢学院大学	0	6		
19. 城西大学	10	9		
20. 慶應義塾大学	0	2		
21. 東海大学	0	6		
22. 国士舘大学	7	0		
23. 富士大学	0	5		
24. 早稲田大学	1	1		
25. 仙台大学	0	0		
25. 城西国際大学	7	1		
27. 山梨学院大学				

優勝 日本体育大学（2年ぶり16回目）

▼女子1回戦

松本大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
東京女子体育大学 2 0 0 0 0 0 x : 2

●山下ひかりー駒田 実優
○秋元 菜穂ー比護奈保子

宮城教育大学 0 0 0 1 0 : 1
日本女子体育大学 0 5 0 0 3x : 8

●河村 瑞希ー高橋美沙輝
○鈴木美帆、田中真帆、水村美里、中島佑子ー久保かで

清和大学 0 2 0 1 1 0 2 : 6
学習院大学 0 1 0 0 0 0 0 : 1

○古屋 英恵ー瀬尾 小夏
●山田真望子ー西野由希子

淑徳大学 0 2 5 0 0 0 0 : 7
東京学芸大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1

○安齊 美琴、島村 翠、朝倉 莉奈ー菊池優理愛、小澤 陽
●岩瀬 仁美、萩原 紀恵ー渡部 真子

埼玉大学 0 0 0 0 0 3 2 : 5
桜美林大学 0 0 0 0 1 0 0 : 1

○長谷川実咲ー小林 由佳
●黒川 美貴、渡辺あすかー小野 真歩

関東学園大学 0 3 3 7 : 10
中央大学 0 0 0 0 : 0

○磯 知里、細井 樹ー高田亜李紗
●木村 祥子ー伊藤 真由

金沢学院大学 0 0 0 0 0 0 : 0
東北福祉大学 1 4 1 0 0 1x : 7

●木梨 鈴子、藤本 華奈、森蔭 美夢ー上之浦成美
○伊藤 綾香、永谷 真衣ー佐々木菜緒

慶應義塾大学 0 0 0 0 : 0
城西大学 1 4 2 3x : 10

●大久保 藍、湯川明日香ー加藤 純奈
○市沢 美佳、岡 美月ー江口 菜摘

東海大学 0 0 0 0 0 : 0
国士舘大学 0 0 0 4 3x : 7

●高橋 千夏、今村 沙希、内田 涼香、中村 豊穂ー
岩清水奏実、露木 智加
○樋口 幸希ー本田 渚沙

早稲田大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1
富士大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

○常盤 紫文ー大内 佳那
●鈴木 成実、草苺 里菜ー相馬 里砂

城西国際大学 1 0 0 2 1 3 : 7
仙台大学 0 0 0 0 0 0 : 0

○粟生 裕衣、近部知奈美ー石井麻璃乃、間宮未沙稀
●千崎 智子ー阿部 美里

▼女子2回戦

東京富士大学 1 0 0 0 0 0 0 0 : 1
東京女子大体育大学 0 0 0 0 0 0 1 1x : 2

●江渡 祐希ー深沢 未花
○秋元 菜穂ー比護奈保子

日本女子体育大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1
清和大学 1 0 0 0 0 0 1x : 2

鈴木 美帆、●中島 佑子ー久保かえで
○古屋 英恵ー瀬尾 小夏

淑徳大学 0 0 4 0 0 0 0 : 4
東京国際大学 0 0 0 3 1 0 1x : 5

●安齊 美琴ー菊池優理愛
相良 未来、○池信 里奈ー横山 蒼、大塚あすか

埼玉大学 0 0 0 0 : 0
日本体育大学 14 2 14x : 30

●長谷川実咲ー小林 由佳
○白井 桃佳、白倉千沙都ー宇野有加里、安川 裕美

関東学園大学 2 0 0 2 1 2 1 : 8
順天堂大学 1 0 0 0 1 3 0 : 5

磯 知里、○細井 樹、井田 千春ー高田亜李紗
●荒巻 佑香、郡司 優花ー岩松 遥希

城西大学 0 1 0 1 2 0 2 : 6
東北福祉大学 0 0 1 0 0 0 2 : 3

○並木あかねー江口 菜摘
●伊藤 綾香、工藤 遥一佐々木菜緒

早稲田大学 2 0 0 0 0 0 1 3 : 6
国士舘大学 0 0 0 0 3 0 0 0 : 3

宮川 真子、○常盤 紫文ー大内 佳那
●樋口 幸希、五十地なつー本田 渚沙

城西国際大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
山梨学院大学 0 0 0 1 0 0 x : 1

●近部知奈美ー石井麻璃乃
○内藤 加菜ー土屋允砂貴

▼女子準々決勝戦

東京女子体育大学 0 0 0 0 0 0 0 3 : 3
清和大学 0 0 0 0 0 0 0 1 : 1

○萩原あゆみー上島 紗羽
●古屋 英恵ー瀬尾 小夏

日本体育大学 2 4 0 0 4 : 10
東京国際大学 0 0 0 0 0 : 0

○山田 蓮、大村 茜、岡村 奈々ー宇野有加里
●相良 未来、池信 里奈ー大塚あすか

関東学園大学 0 0 0 0 0 : 0
城西大学 1 1 2 5 x : 9

●磯 知里、細井 樹、井田 千春ー高田亜李紗
○市沢 美佳、岡 美月ー江口 菜摘

早稲田大学 0 0 0 0 0 2 0 : 2
山梨学院大学 2 1 2 0 0 0 x : 5

●常盤 紫文、宮川 真子、廣瀬夏季ー大内佳那、加藤千陽
○佐藤 美智、板垣 明星ー土屋允砂貴

▼女子準決勝戦

日本体育大学 0 1 0 0 0 0 0 : 1
東京女子体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

○岡村 奈々ー宇野有加里
●秋元 菜穂ー比護奈保子

山梨学院大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1
城西大学 0 0 0 0 4 0 x : 4

●佐藤 美智、板垣 明星、内藤 加菜ー土屋允砂貴
○並木あかねー江口 菜摘

▼女子決勝戦

日本体育大学 1 0 0 3 0 2 0 : 6
城西大学 0 1 1 0 1 0 0 : 3

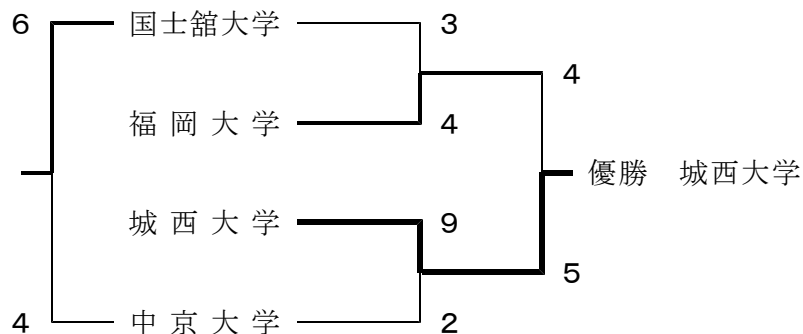
山田 蓮、大村 茜、○岡村 奈々ー宇野有加里
●岡 美月、市沢 美佳ー江口 菜摘

第19回 春季ソフトボール大会（ちゅーばーリーグ）

会期：平成28年3月12日（土）・13日（日）

会場：沖縄県読谷村／運動広場・多目的広場

順位決定Aブロック



決勝B	龍 谷	京 産	熊 学	順位
龍 谷		● 0 - 11	● 2 - 9	3
京都産業	○ 11 - 0		● 3 - 5	2
熊本学園	○ 9 - 2	○ 5 - 3		1

決勝C	沖 国	国 武	日 大	順位
沖縄国際		● 3 - 6	● 3 - 5	3
国際武道	○ 6 - 3		○ 5 - 2	1
日 本	○ 5 - 3	● 2 - 5		2

最終結果

優 勝：城西大学

準優勝：福岡大学

3 位：国土舘大学

4 位：中京大学

5 位：熊本学園大学

6 位：京都産業大学

7 位：龍谷大学

8 位：国際武道大学

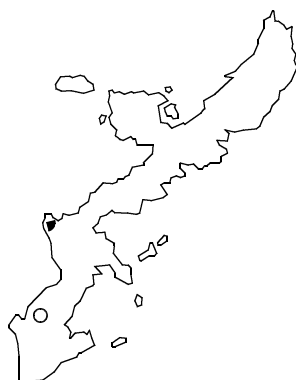
9 位：日本大学

10 位：沖縄国際大学

最優秀選手賞：宮原廉（城西大学）

優秀選手賞：石田悠太（福岡大学）

打撃賞：池田昭一郎（城西大学）



第15回 大学（女子）ソフトボール東海オープン

会期：平成28年 3 月16日（水）・17日（木）

会場：愛知県安城市／安城総合運動公園ソフトボール場

予選リーグ戦（第1・2日）

Aグループ	関 学	中 京	日福B	中 院	勝	分	敗	失点率	順位
関 東 学 園		● 4－9	● 1－5	● 2－9	0	0	3	－	4
中 京	○ 9－4		○ 3－1	○ 7－0	3	0	0	－	1
日本福祉B	○ 5－1	● 1－3		○ 8－5	2	0	1	－	2
中 京 学 院	○ 9－2	● 0－7	● 5－8		1	0	2	－	3

Bグループ	東 学	至学館	同志社	日福A	勝	分	敗	失点率	順位
東 海 学 園		● 0－2	● 1－3	● 1－9	0	0	3	－	3
至 学 館	○ 2－0		● 1－6	● 0－7	1	0	2	－	2
同 志 社	○ 3－1	○ 6－1		● 0－7	2	0	1	－	－
日本福祉A	○ 9－1	○ 7－0	○ 7－0		3	0	0	－	1

※同志社大学は第2日を棄権

順位決定戦（第2日）

優勝決定戦：Aグループ1位：中 京 大 学 1－2 Bグループ1位：日本福祉大学A

※日本福祉大学は2年ぶり2回目の優勝

3位決定戦：Aグループ2位：日本福祉大学B 8－1 Bグループ2位：至 学 館 大 学

5位決定戦：Aグループ3位：中京学院大学 0－7 Bグループ3位：東海学園大学

※関東学園大学は順位決定戦を棄権

第15回 大学(男子)ソフトボール東海オープン

会期：平成28年3月22日(火)・23日(水)

会場：愛知県安城市総合運動公園ソフトボール場

予選リーグ戦（第1日）

Aグループ	関 西	日 福	関 学	順位
関 西		○ 10－0	○ 6－1	1
日本福祉	● 0－10		○ 6－3	2
関東学園	● 1－6	● 3－6		3

Cグループ	中 院	東 海	愛 知	順位
中京学院		○ 7－2	● 1－8	2
東 海	● 2－7		● 0－10	3
愛 知	○ 8－1	○ 10－0		1

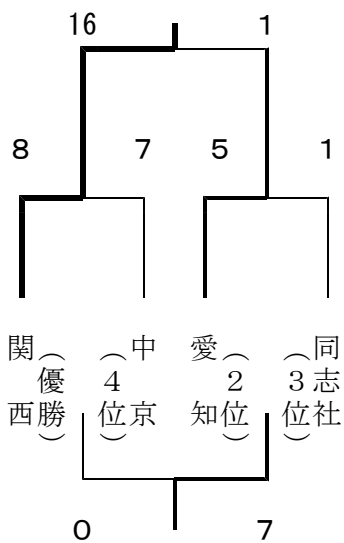
Bグループ	国士舘	中 京	高 経	順位
国 士 舘		● 2－4	○ 9－2	2
中 京	○ 4－2		○ 9－0	1
高崎経済	● 2－9	● 0－9		3

Dグループ	中 央	同志社	常 葉	順位
中 央		● 1－10	● 3－8	3
同 志 社	○ 10－1		△ 4－4	1
常 葉	○ 8－3	△ 4－4		2

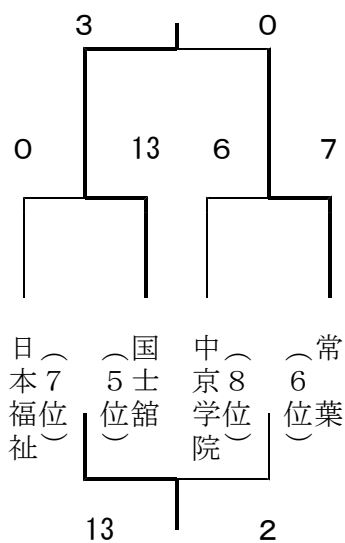
※1～2位は失点率による。

順位決定戦（第2日）

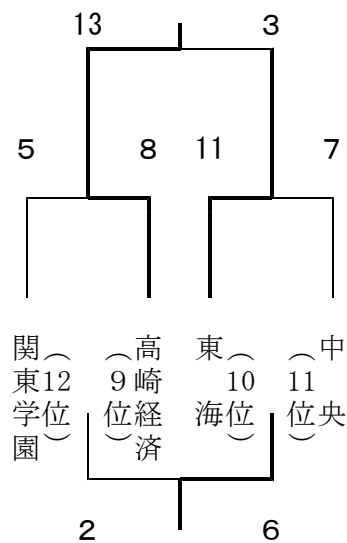
1～4位決定戦



5～8位決定戦



9～12位決定戦



※関西大学は初優勝

第18回 千葉オープン・チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

会期：平成28年3月29日(火)・30日(水)

会場：千葉県野田市／東京理科大学ソフトボール場

【予選Aブロック】

学習院大学	5		
東京理科大学	3	2	
日本体育大学	17		日本体育大学
文教大学	0	9	

3位決定戦

東京理科大学	18	
文教大学	0	

【予選Bブロック】

専修大学	16		
茨城大学	6	0	
東北大学	0		国士舘大学
国士舘大学	7	9	

3位決定戦

茨城大学	5	
東北大学	4	

【予選Cブロック】

千葉大学	12		
慶應義塾大学	7	4	
東京学芸大学	7		抽選 東京学芸大学
東京大学	2	4	

3位決定戦

慶應義塾大学	4	
東京大学	7	

【決勝第Aブロック】

千葉大学	4		
日本体育大学	3	7	
東京学芸大学	4		優勝 千葉大学
国士舘大学	1	3	

3位決定戦

日本体育大学	3	
国士舘大学	5	

【決勝第Bブロック】

専修大学	7		
学習院大学	3	2	
東京大学	1		東京理科大学
東京理科大学	12	8	

3位決定戦

東京大学	3	
学習院大学	2	

【決勝第Cブロック】

文教大学	7		
茨城大学	3	4	
慶應義塾大学	10		慶應義塾大学
東北大学	6	5	

3位決定戦

茨城大学	2	
東北大学	2	抽選 東北大学

第17回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成28年4月16日(土)～17日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

横川LEAG	都留文	関 学	千 葉	東 海	順
都留文科		● 0-18	● 5-6	● 0-12	4
関東学園	○ 18-0		○ 3-1	○ 4-1	1
千 葉	○ 6-5	● 1-3		● 5-9	3
東 海	○ 12-0	● 1-4	○ 9-5		2

碓氷LEAG	信 州	松井田	城 西	高 経	順
信 州		○ 8-0	△ 3-3	○ 1-0	1
松井田 選 抜	● 0-8		● 7-8	○ 7-3	3
城 西	△ 3-3	○ 8-7		● 3-4	2
高崎経済	● 0-1	● 3-7	○ 4-3		4

※1～2位、3～4位は大会規定による。

順位決定戦

- ◇1～2位：関東学園大学5-3信州大学 ◇3～4位：東海大学9-8城西大学
 ◆5～6位：千葉大学6-3松井田選抜 ◆7～8位：都留文科大学10-11高崎経済大学

【女子】

BLEAG	新島A	松 本	東 海	文 教	順
新島学園 短期大A		● 2-15	● 1-7	● 1-5	4
松 本	○ 15-2		○ 1-0	○ 11-1	1
東 海	○ 7-1	● 0-1		● 2-4	3
文 教	○ 5-1	● 1-11	○ 4-2		2

DLEAG	新島B	東 福	関 学	富 士	順
新島学園 短期大B		● 0-11	● 0-15	● 1-4	4
東北福祉	○ 11-0		○ 6-1	● 4-5	2
関東学園	○ 15-0	● 1-6		● 0-3	3
富 士	○ 4-1	○ 5-4	○ 3-0		1

順位決定戦

- ◇1～2位：松本大学0-0富士大学 ◇3～4位：文教大学0-10東北福祉大学
 ◆5～6位：投下大学1-4関東学園大学 ◆7～8位：新島短期大A1-5新島短期大B

【最終結果】（男子／女子）

優勝：関東学園大学／松本大学
 準優勝：信州大学／富士大学
 第3位：投下大学／東北福祉大学
 第4位：城西大学／文教大学

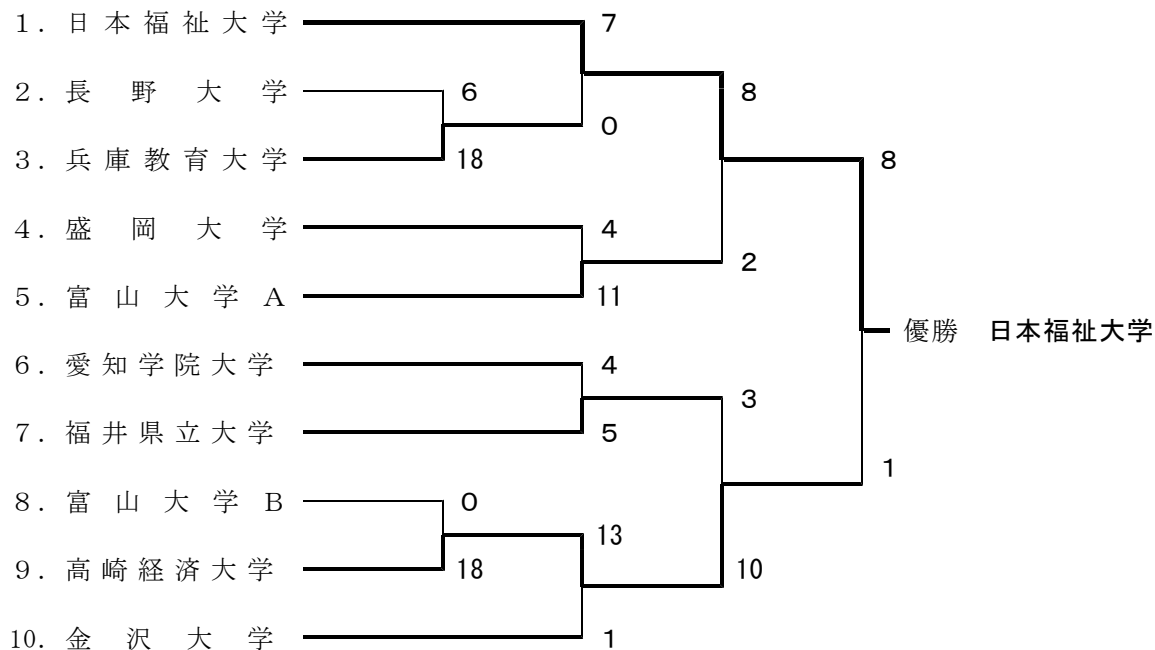
第5位：千葉大学／関東学園大学
 第6位：松井田選抜／東海大学
 第7位：高崎経済大学／新島短期大B
 第8位：都留文科大学／新島短期大A

第13回 北信越大学オープンソフトボール大会

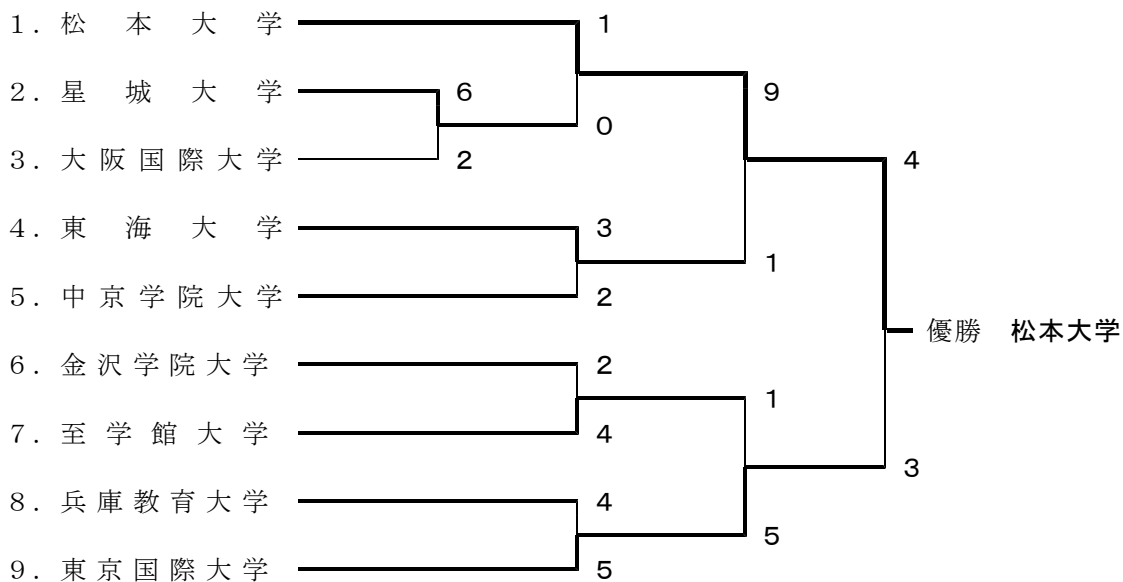
会期：平成28年7月9日(土)・10日(日)

会場：長野県千曲市／万葉の里野球場 他

【男子】



【女子】



第8回 HAKUBA CUP大学女子ソフトボール大会

会期：平成28年8月17日(水)～19日(金)

会場：長野県白馬村／村営北部グラウンド 他

予選リーグ戦

Aリーグ	東富士A	岐阜経済	大阪国際	順位
東京富士A		○6-3	○3-0	1
岐阜経済	●3-6		○8-1	2
大阪国際	●0-3	●1-8		3

Bリーグ	日本福祉	仙 台	武庫川	順位
日本福祉		○10-7	○8-1	1
仙 台	●7-10		●0-8	3
武庫川	●1-8	○8-0		2

Cリーグ	神戸親和	星 城	東富士B	順位
神戸親和		●0-8	●0-1	3
星 城	○8-0		●0-2	2
東京富士B	○1-0	○2-0		1

Dリーグ	大阪体育	淑 徳	松 本	順位
大阪体育		○5-4	●0-10	3
淑 徳	●4-5		○12-5	1
松 本	○10-0	●5-12		2

※1～3位は失点率による。

大阪体育大学失点率 $14 \div 9 \times 7 = 10.89$ 淑徳大学失点率 $10 \div 12 \times 7 = 5.83$ 松本大学失点率 $12 \div 12 \times 7 = 7.00$

Eリーグ	金沢学院	至 学 館	新島短大	順位
金沢学院		○7-2	○6-5	1
至 学 館	●2-7		●3-4	3
新島学園短	●5-6	○4-3		2

順位決定リーグ線戦

(同勝ち点の順位は全試合の失点率による。)

1位リーグ	東富士A	日本福祉	東富士B	淑 徳	金沢学院	勝	敗	勝点	失点率	順位
東京富士A		○3-0	●2-3	○2-0	○5-1	4	1	8	1.04	優勝
日 本 福 祉	●0-3		●1-5	○10-5	○6-3	2	2	4	4.31	4位
東京富士B	○3-2	○5-1		○6-0	●3-6	4	1	8	2.25	2位
淑 徳	●0-2	●5-10	●0-6		●0-7	0	4	0	-	5位
金 沢 学 院	●1-5	●3-6	○6-3	○7-0		2	2	4	4.08	3位

2位リーグ	岐阜経済	武庫川	星 城	松 本	新島学園	勝	敗	勝点	失点率	順位
岐 阜 経 済		●3-4	○10-0	△1-1	○8-3	3	1	5	-	7位
武 庫 川	○4-3		●1-2	●1-2	○9-2	2	2	4	-	8位
星 城	●0-10	○2-1		●0-5	●1-2	1	3	2	5.48	9位
松 本	▲1-1	○2-1	○5-0		○5-1	3	1	6	-	6位
新島学園短	●2-9	●3-8	○2-1	●1-5		1	3	2	6.71	10位

3位リーグ	大阪国際	仙 台	神戸親和	大阪体育	至 学 館	勝	敗	勝点	失点率	順位
大 阪 国 際		○5-4	○4-1	○1-0	○5-3	4	0	8	-	11位
仙 台	●4-5		●1-13	●3-16	●2-4	0	4	0	-	15位
神 戸 親 和	●1-4	○13-1		○6-1	●0-7	2	2	4	4.14	14位
大 阪 体 育	●0-1	○16-3	●1-6		○3-0	2	2	4	2.69	12位
至 学 館	●3-5	○4-2	○7-0	●0-3		2	2	4	2.80	13位

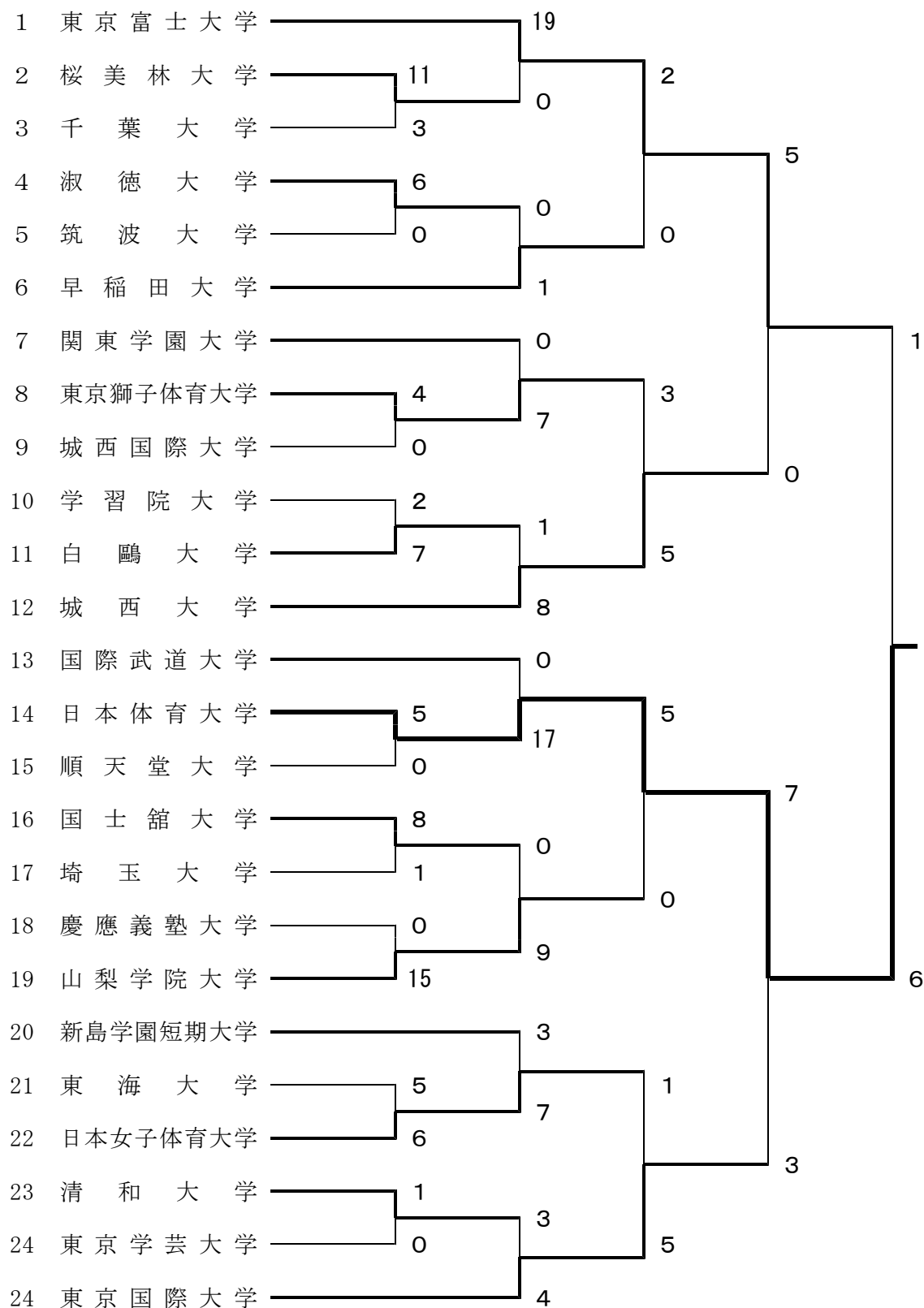
※最優秀選手賞：千葉 咲実（東京富士大学）

第47回 関東大学男女ソフトボール選手権大会

会期：平成28年10月29日(土)～31日(月)

会場：神奈川県泰野市／カルチャーパーク野球場・中井中央公園野球場他

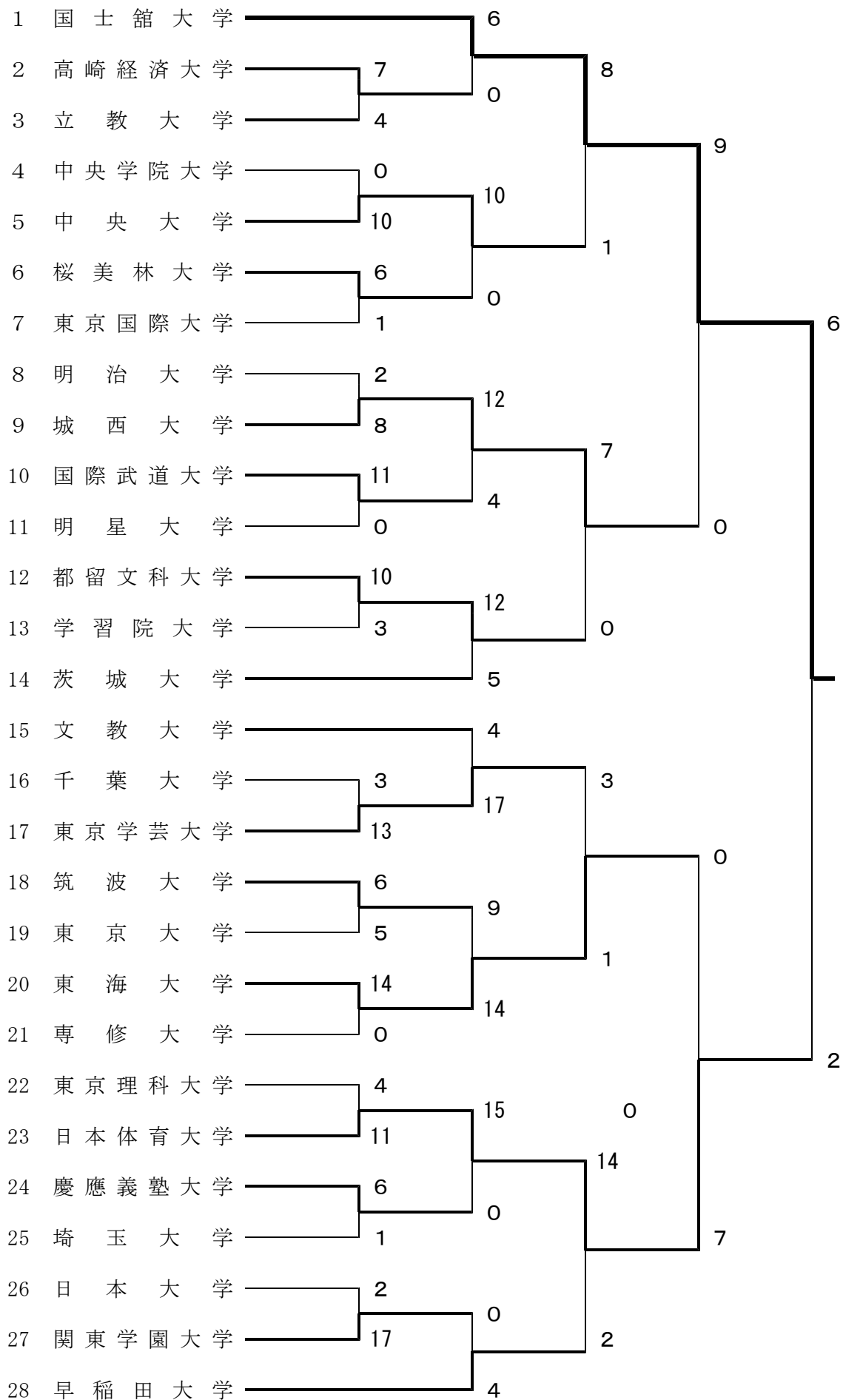
【女子】



(5年ぶり17回目)

日本体育大学
優勝

【男子】



(2年連続14回目)
優勝
国士舘大学

藤原初男杯 第8回全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場、多目的広場

会期：平成28年11月20日（日）

開始時刻		第1日(11月19日)	第2日(11月20日)
ソフト ボ ー ル 場	9:00	大阪国際大学 × 東海学園大学	東京富士大学0-0中京大学
	11:00	園田学園女子大学 × 星城大学	城西大学1-4Dream Citrine
	13:00	NECフットフォームズ × 大阪大谷大学	中京学院大学4-2松本大学 (1勝1敗) (1勝1敗)
	15:00	東海理化 × 環太平洋大学	日本福祉大学0-6富士大学 (0勝2敗) (1勝1敗)
多 目 的 A 球 場	9:00	NECフットフォームズ × 東京富士大学	中京学院大学5-4大阪国際大学
	11:00	東海理化 × 城西大学	日本福祉大学3-7園田学園女子大学
	13:00	松本大学 × 東海学園大学	環太平洋大学3-1Dream Citrine (2勝0敗) (1勝1敗)
	15:00	富士大学 × 星城大学	大阪大谷大学2-4中京大学 (0勝2敗) (1勝1分)
多 目 的 B 球 場	9:00	大阪大谷大学 × 中京学院大学	NECフットフォームズ 8-1松本大学
	11:00	環太平洋大学 × 日本福祉大学	東海理化4-0富士大学
	13:00	中京大学 × 大阪国際大学	東京富士大学3-4東海学園大学 (1分1敗) (2勝0敗)
	15:00	Dream Citrine × 園田学園女子大学	城西大学10-4星城大学 (1勝1敗) (0勝2敗)
多 目 的 C 球 場	9:00	中京大学 × 松本大学	大阪大谷大学1-3東海学園大学
	11:00	Dream Citrine × 富士大学	環太平洋大学9-7星城大学
	13:00	東京富士大学 × 中京学院大学	NECフットフォームズ 3-0大阪国際大学 (1勝1敗) (0勝2敗)
	15:00	城西大学 × 日本福祉大学	東海理化1-2園田学園女子大学 (1勝1敗) (2勝0敗)

※第1日が雨天中止のため、順位は決定せず。

【北海道東北地区】

平成28度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（男子）

会期：平成28年4月23日・24日・30日、5月1日

会場：宮城県柴田町／阿武隈川運動場、岩手県一関市／一関総合運動公園

チーム	北海道	弘 前	八戸工	盛 岡	東 北	宮 教	仙 台	福 島	日大工	勝	負	順
北 海 道		*	*	*	*	○ 14-5	*	*	*	1	0	8
弘 前	*		*	*	○ 7-6	● 7-18	*	*	● 0-19	1	2	7
八戸工業	*	*		● 8-23	*	*	*	*	*	0	1	9
盛 岡	*	*	○ 23-8		● 15-16	*	○ 11-4	● 5-10	*	2	2	4
東 北	*	● 6-7	*	○ 16-15		● 15-25	○ 7-6	● 4-6	● 4-9	2	4	3
宮城教育	● 5-14	○ 18-7	*	*	○ 25-15		*	○ 13-10	● 11-12	3	2	2
仙 台	*	*	*	● 4-11	● 6-7	*		○ 9-3	● 3-13	1	3	6
福 島	*	*	*	○ 10-5	○ 6-4	● 10-13	● 3-9		*	2	2	5
日大工学	*	○ 19-6	*	*	○ 9-4	○ 12-11	○ 13-3	*		4	0	1

※5月1日は雨天のため全試合中止。そのためシード権の獲得は、4試合以上のチームを対象とした。順位付は、勝ち数が同じ場合は、総得点の多い順、総失点の少ない順とした。

平成28年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（女子）

会期：平成28年4月30日・5月1日

会場：宮城県東松島市鷹来の森運動公園

予選リーグ戦

1 部	東北福祉	富 士	宮城教育	順位
東北福祉		○3-0	○13-0	1
富 士	●0-3		○7-0	2
宮城教育	●0-13	●0-7		3

2 部	仙 台	弘 前	盛 岡	順位
仙 台		○28-1	○7-2	1
弘 前	●1-28		○4-3	2
盛 岡	●2-7	●3-4		3

順位決定戦

- 1・2位決定戦：東北福祉×富士 雨天のため中止
 3・4位決定戦：宮城教育 7－14 仙 台
 5・6位決定戦：弘 前 8－1 盛 岡

最終順位

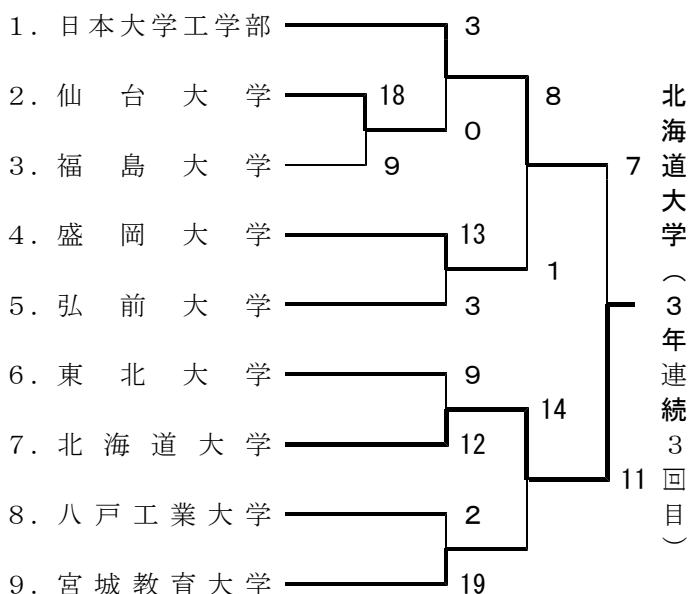
- 1位：東北福祉大学 4位：宮城教育大学
 2位：富士大学 5位：弘前大学
 3位：仙台大学 6位：盛岡大学

第37回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
 兼、第51回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

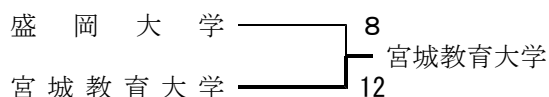
会期：平成28年 5月14日(土)・15日(日)

会場：宮城県東松島市／鷹木の森運動公園

【男子】

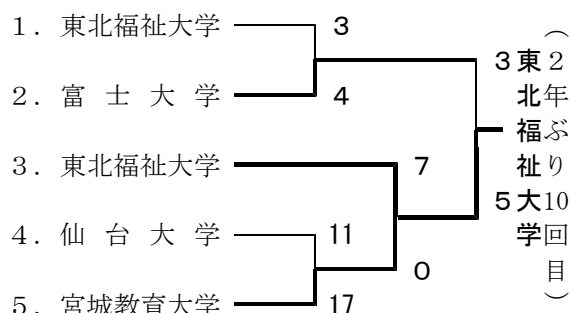


第3代表決定戦



※男子インカレ出場：北海道大学(3年連続4回目)、日本大学工学部(2年連続20回目)、宮城教育大学(2年ぶり2回目)

【女子】



※女子インカレ出場：東北福祉大学(14年連続14回目)
 富士大学(6年連続11回目)
 宮城教育大学(17年ぶり2回目)



平成28年度北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会（男子）

会期：平成28年10月8日（土）・9日（日）

会場：岩手県八幡平市八幡平市松尾総合運動公園多目的広場

Aブロック	北海道	日大工	宮教	盛岡	順位
北海道		○12－5	○10－0		
日大工	●5－12				
宮教	●0－10			○12－5	
盛岡			●5－12		

Bブロック	弘前	八戸工	東北	福島	順位
弘前			●2－13		
八戸工			●2－15	●0－29	
東北	○13－2	○15－2			
福島		○29－0			

10月8日（土）は雨天のため、9日（日）のみ実施。したがって、順位なし。

平成28年度北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会（女子）

会期：平成28年10月24日（土）・25日（日）

会場：宮城県蔵王町総合運動公園多目的グラウンド

予選リーグ戦

予選A	東北福祉	富士	宮城教育	順位
東北福祉		●1－2	○8－1	2
富士	○2－1		○31－2	1
宮城教育	●1－8	●2－31		3

予選B	仙台	盛岡	弘前	順位
仙台		○7－0	○12－0	1
盛岡	●0－7		○8－2	2
弘前	●0－12	●2－8		3

順位決定戦

東北福祉大学	3－1	富士大学	1位：東北福祉大学	2位：富士大学
仙台前大学	7－6	宮城教育大学	3位：仙台大学	4位：宮城教育大学
盛岡大学	10－5	弘前大学	5位：盛岡大学	6位：弘前大学

【関東地区】 第11回 関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成28年 5 月 3 日(火)・4 日(水)・5 日(木)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園軟式野球場 他

I 部リーグ

チーム	国際武道	城 西	東 海	東京理科	高崎経済	関東学園	勝	分	敗	順 位
国際武道		● 2 - 3	○ 5 - 3	● 0 - 7	○ 8 - 1	○ 5 - 4	3	0	2	3 位
城 西	○ 3 - 2		○ 7 - 0	○ 5 - 3	○ 10 - 4	○ 9 - 1	5	0	0	優勝
東 海	● 3 - 5	● 0 - 7		● 0 - 5	○ 6 - 3	○ 8 - 1	2	0	3	4 位
東京理科	○ 7 - 0	● 3 - 5	○ 5 - 0		○ 12 - 6	△ 0 - 0	3	1	1	2 位
高崎経済	● 1 - 8	● 4 - 10	● 3 - 6	● 6 - 12		● 5 - 6	0	0	5	6 位
関東学園	● 4 - 5	● 1 - 9	● 1 - 8	△ 0 - 0	○ 6 - 5		1	1	3	5 位

II 部リーグ

チーム	千 葉	文 教	東京国際	筑 波	埼 玉	文 教	勝	分	敗	順 位
千 葉		● 4 - 5	○ 3 - 1	○ 10 - 3	○ 17 - 4	○ 10 - 0	4	0	1	1 位
文 教	○ 5 - 4		○ 10 - 0	○ 12 - 11	● 4 - 5	△ 9 - 9	3	1	1	2 位
東京国際	● 1 - 3	● 0 - 10		● 8 - 16	○ 8 - 4	○ 13 - 1	2	0	3	4 位
筑 波	● 3 - 10	● 11 - 12	○ 16 - 8		△ 8 - 8	○ 10 - 3	2	1	2	3 位
埼 玉	● 4 - 17	○ 5 - 4	● 4 - 8	△ 8 - 8		● 0 - 7	1	1	3	6 位
茨 城	● 0 - 10	△ 9 - 9	● 1 - 13	● 3 - 10	○ 7 - 0		1	1	3	5 位

III 部リーグ

チーム	都留文科	日大生資	日大生産	中央学院	勝	分	敗	順 位
都留文科		● 6 - 8 ○ 13 - 4	● 9 - 12 ○ 9 - 7	○ 34 - 5 ○ 19 - 3	4	0	2	1 位
日大生資	● 3 - 11 ● 4 - 13		○ 16 - 5 ● 7 - 8	○ 17 - 8 ○ 14 - 10	3	0	3	3 位
日大生産	○ 12 - 9 ● 7 - 9	● 6 - 9 ○ 8 - 7		○ 10 - 8 ● 6 - 7	3	0	3	2 位
中央学院	● 5 - 34 ● 3 - 10	○ 13 - 12 ● 10 - 14	● 8 - 10 ○ 7 - 6		2	0	4	4 位

※2～3位は大会規定による。当該チームの勝ち点、全試合の得失点差が同点のため、全試合の失点数により決定した。

I 部 II 部入替戦 高崎経済大学(I 部 6 位) 5 - 6 千葉大学(II 部 1 位) ※千葉大学は I 部昇格

II 部 III 部入替戦 埼玉大学(II 部 6 位) 21 - 14 都留文科大学(III 部 1 位) ※埼玉大学は II 部残留

第11回 関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成28年5月3日(火)・4日(水)・5日(木)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク、鶴ヶ島市／運動公園 他

Ⅰ部リーグ

チーム	山梨学院	城西	東京国際	関東学園	東海	淑徳	勝	分	敗	順位
山梨学院	-	○4-3	○12-1	○10-2	○10-2	●1-2	4	0	1	優勝
城西	●3-4	-	○4-1	○1-0	○5-4	○6-1	4	0	1	2位
東京国際	●1-12	●1-4	-	○11-0	●3-7	○4-2	2	0	3	4位
関東学園	●2-10	●0-1	●0-11	-	●3-6	●5-6	0	0	5	6位
東海	●2-10	●4-5	○7-3	○6-3	-	○6-2	3	0	2	3位
淑徳	○2-1	●1-6	●2-4	○6-5	●2-6	-	2	0	3	5位

Ⅱ部リーグ

チーム	清和	文教	城西国際	新島学園	国際武道	順天堂	勝	分	敗	順位
清和	-	●5-11	●1-3	○9-0	○5-2	○6-0	3	0	2	3位
文教	○11-5	-	●1-8	●1-2	○2-1	○14-2	3	0	2	2位
城西国際	○3-1	○8-1	-	○4-0	○6-0	○5-4	5	0	0	1位
新島学園	●0-9	○2-1	●0-4	-	○4-3	●2-7	2	0	3	5位
国際武道	●2-5	●1-2	●0-6	●3-4	-	●1-4	0	0	5	6位
順天堂	●0-6	●2-14	●4-5	○7-2	○4-1	-	2	0	3	4位

Ⅲ部リーグ

チーム	千葉	筑波	白鷗	茨城	日大生資	埼玉	勝	分	敗	順位
千葉	-	●2-4	○8-7	○7-0	○13-3	○14-0	4	0	1	2位
筑波	○4-2	-	△4-4	○7-0	○17-2	○26-0	4	1	0	1位
白鷗	●7-8	△4-4	-	○7-0	○30-0	○11-0	3	1	1	3位
茨城	●0-7	●0-7	●0-7	-	●0-7	●0-7	0	0	5	6位
日大生資	●3-13	●2-17	●0-30	○7-0	-	○8-4	2	0	3	4位
埼玉	●0-14	●0-26	●0-11	○7-0	●4-8	-	2	0	3	5位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦 関東学園大学(Ⅰ部6位) 6-4 城西国際大学(Ⅱ部1位) ※城西国際大学はⅠ部残留

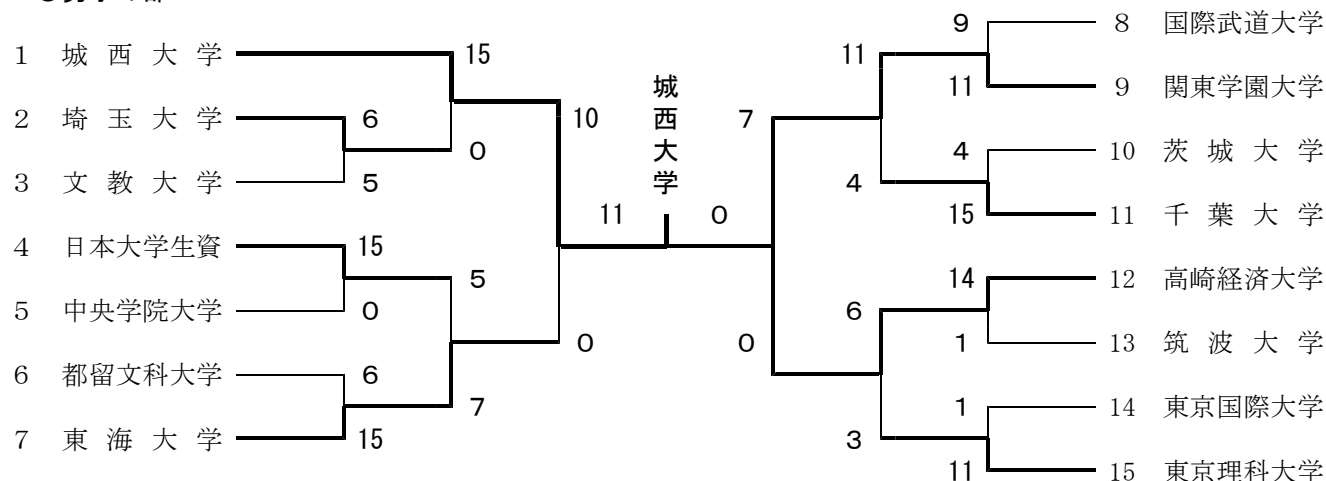
Ⅱ部Ⅲ部入替戦 国際武道大学(Ⅱ部6位) 6-4 筑波大学(Ⅲ部1位) ※国際武道大学はⅡ部残留

第24回 関東学生ソフトボール選手権大会
兼 第51回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

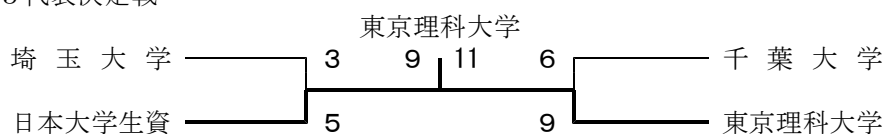
会期：平成28年5月21日(土)・22日(日)

会場：神奈川県相模原市／昭和橋スポーツ広場

●男子の部



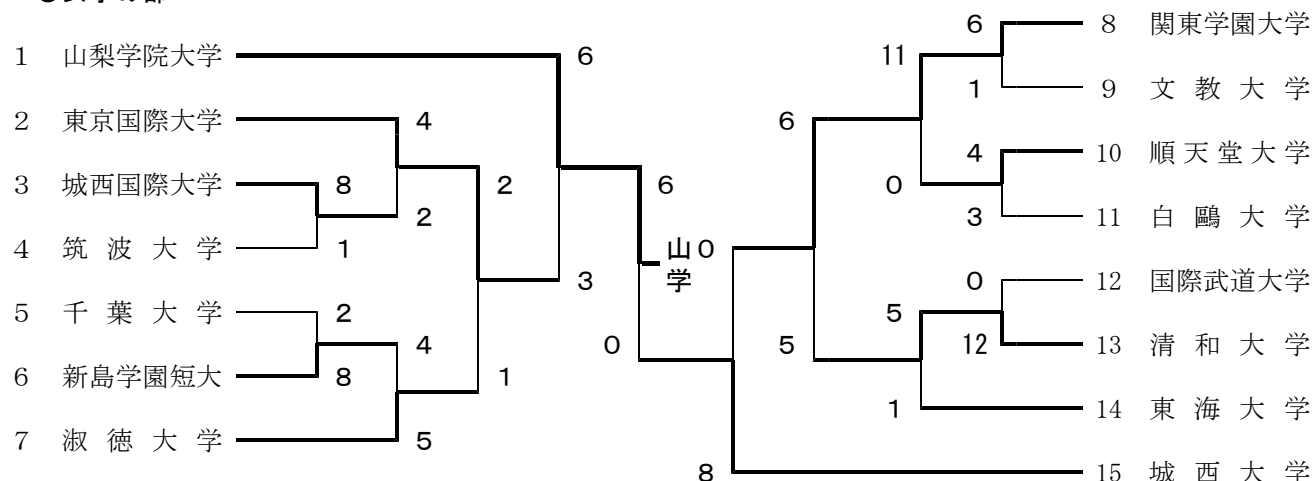
第5代表決定戦



インカレ出場権獲得校

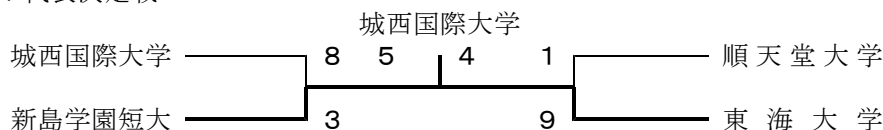
城西大学（2年連続5回目の優勝、4年連続22回目）、高崎経済大学（3年連続30回目）、
関東学園大学（16年連続22回目）東京理科大学（6年ぶり15回目）

●女子の部



3位決定戦 東京国際大学 0-4 関東学園大学

第7代表決定戦



インカレ出場権獲得校

山梨学院大学（2年連続5回目の優勝、8年連続8回目）、城西大学（14年連続14回目）、
清和大学（8年ぶり6回目）、東京国際大学（6年連続6回目）、淑徳大学（4年ぶり22回目）、
関東学園大学（5年連続6回目）、城西国際大学（8年ぶり2回目）

第16回 関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成28年10月8日(土)・9日(日)・10日(月)

会場：群馬県藤岡市／烏川緑地スポーツ広場

I 部リーグ

チーム	城 西	国際武道	千 葉	東 海	東京理科	関東学園	勝	分	敗	順 位
城 西		○11－8	○3－0	○5－2	●4－7	○17－8	4	0	1	2位
国際武道	●8－11		○7－3	●1－14	●3－9	●9－10	1	0	4	5位
千 葉	●0－3	●3－7		●7－10	●3－5	●7－8	0	0	5	6位
東 海	●2－5	○14－1	○10－7		○5－3	●6－7	3	0	2	4位
東京理科	○7－4	○9－3	○5－3	●3－5		○4－1	4	0	1	優勝
関東学園	●8－17	○10－9	○8－7	○7－6	●1－4		3	0	2	3位

※1～2位、3～4位は当該チームの対戦の得失点差による。

II 部リーグ

チーム	高崎経済	筑 波	埼 玉	東京国際	文 教	茨 城	勝	分	敗	順 位
高崎経済		○9－5	○18－0	○15－2	○7－0	○11－0	5	0	0	1位
筑 波	●5－9		○9－4	●7－9	●1－2	○6－0	2	0	3	4位
埼 玉	●0－18	●4－9		○2－1	●5－6	●7－8	1	0	4	6位
東京国際	●2－15	○9－7	●1－2		○6－4	○6－2	3	0	2	2位
文 教	●0－7	○2－1	○6－5	●4－6		○6－2	3	0	2	3位
茨 城	●0－11	●0－8	○8－7	●2－6	●2－6		1	0	4	5位

※2～3位、5～6位は当該チームの直接対戦の結果による。

III 部リーグ

チーム	都留文科	日大生資	芝浦工業	中央学院	日大生産	山梨学院	勝	分	敗	順 位
都留文科		○10－2	○23－1	○15－6	○7－2	○20－1	5	0	0	1位
日大生資	●2－10		○16－1	○6－4	○12－9	○16－4	4	0	1	2位
芝浦工業	●1－23	●1－16		●7－10	●3－10	●8－9	0	0	5	6位
中央学院	●6－15	●4－6	○10－7		●2－14	○14－9	2	0	3	4位
日大生産	●2－7	●9－12	○10－3	○14－2		○10－7	3	0	2	3位
山梨学院	●1－20	●4－16	○9－8	●9－14	●7－10		1	0	4	5位

入替戦

I 部～II 部 千 葉 大 学 (I 部 6 位) 2－8 高崎経済大学 (II 部 1 位) ※高崎経済大学は I 部昇格

II 部～III 部 埼 玉 大 学 (II 部 6 位) 5－9 都留文科大学 (III 部 1 位) ※都留文科大学は II 部昇格

第16回 関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成28年10月8日(土)・9日(日)・10日(月)

会場：毛呂山町／大類ソフトボールパーク・東松山市／駒形公園ソフトボール場 他

I 部リーグ

チーム	山梨学院	城 西	東 海	東京国際	淑 徳	関東学園	勝	分	敗	順 位
山梨学院		○3-0	○2-1	○8-1	○7-0	○7-0	5	0	0	優勝
城 西	●0-3		○8-0	●0-2	○2-0	○8-3	3	0	2	3位
東 海	●1-2	●0-8		●1-8	●0-4	○12-7	1	0	4	5位
東京国際	●1-8	○2-0	○8-1		●0-1	○9-1	3	0	2	2位
淑 徳	●0-7	●0-2	○4-0	○1-0		○12-0	3	0	2	4位
関東学園	●0-7	●3-8	●7-12	●1-9	●0-12		0	0	5	6位

※2位～4位の順位はリーグ戦規定による。

II 部リーグ

チーム	城西国際	文 教	清 和	順 天 堂	新島学園	国際武道	勝	分	敗	順 位
城西国際		○3-0	○3-0	△4-4	●2-3	○13-3	3	1	1	2位
文 教	●0-3		●1-6	●0-5	○2-0	○15-0	2	0	3	5位
清 和	●0-3	○6-1		○6-3	●3-4	○12-0	3	0	2	3位
順 天 堂	△4-4	○5-0	●3-6		●4-6	○5-2	2	1	2	4位
新島学園	○3-2	●0-2	○4-3	○6-4		○27-3	4	0	1	1位
国際武道	●3-13	●0-15	●0-12	●2-5	●3-27		0	0	5	6位

III 部リーグ

チーム	筑 波	千 葉	白 鷗	日大生資	埼 玉	茨 城	勝	分	敗	順 位
筑 波		●4-5	●2-5	○14-2	○21-2	○8-2	3	0	2	3位
千 葉	○5-4		○9-4	○25-6	○9-0	○4-1	5	0	0	1位
白 鷗	○5-2	●4-9		○30-3	○21-0	○12-2	4	0	1	2位
日大生資	●2-14	●6-25	●3-30		●7-11	●7-10	0	0	5	6位
埼 玉	●2-21	●0-9	●0-21	○11-7		○21-6	2	0	3	4位
茨 城	●2-8	●1-4	●2-12	○10-7	●6-21		1	0	4	5位

入替戦 10月17日 鶴ヶ島市／運動公園メイングラウンド

I 部II 部入替戦 関東学園大学(I 部6位) 1-4 新島学園短大(II 部1位) ※新島学園短大はI 部昇格

II 部III 部入替戦 国際武道大学(II 部6位) 14-13 千 葉 大 学(III 部1位) ※国際武道大学はII 部残留

【北信越地区】

第23回 北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会 (兼、文部科学大臣杯第51回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会 期：平成28年 5 月28日(土)・29日(日)

会 場：福井県おおい町／プレーパーク大飯・名田庄総合運動場

【男子】

予選リーグ戦

予選A	金 沢	県 立	富 山	勝	敗	順
金 沢		○ 17-13	○ 12-10	2	0	1
福井県立	● 13-17		○ 12-6	1	1	2
富 山	● 10-12	● 6-12		0	2	3

予選B	長 岡	福 井	信 州	勝	敗	順
長 岡		○ 18-6	● 1-16	1	1	2
福 井	● 6-18		● 0-15	0	2	3
信 州	○ 16-1	○ 15-0		2	0	1

順位決定戦

1. 金 沢 大 学	24			
2. 長 岡 大 学	13	6		
3. 福井県立大学	8		優勝 信州大学	
4. 信 州 大 学	9		7	

※インカレ出場校：福井県立大学（代替出場、2年ぶり5回目）

【女子】

リーグ戦	金 沢	信 州	金沢学院	松 本	富 山	勝	分	敗	順 位
金 沢		● 0-31	● 0-51	● 0-20	● 1-20	0	0	4	5 位
信 州	○ 31-0		● 0-11	● 0-7	○ 34-0	2	0	2	3 位
金沢学院	○ 51-0	○ 11-0		● 0-4	○ 16-0	3	0	1	2 位
松 本	○ 20-0	○ 7-0	○ 4-0		○ 16-1	4	0	1	優勝
富 山	○ 20-1	● 0-34	● 0-16	● 1-16		1	0	3	4 位

※インカレ出場権獲得校：松本大学（11年連続11回目）、金沢学院大学（7年連続7回目）

第23回 北信越大学男女新人ソフトボール選手権大会

会期：平成28年10月15日(土)・16日(日)

会場：福井県越前町／越前町町営グラウンド 他

【男子】

予選A	福 県	富 山	長 岡	勝	敗	順
福井県立		○ 8－7	○ 19－4	2	0	1
富 山	● 7－8		○ 9－4	1	1	2
長 岡	● 4－19	● 4－9		0	2	3

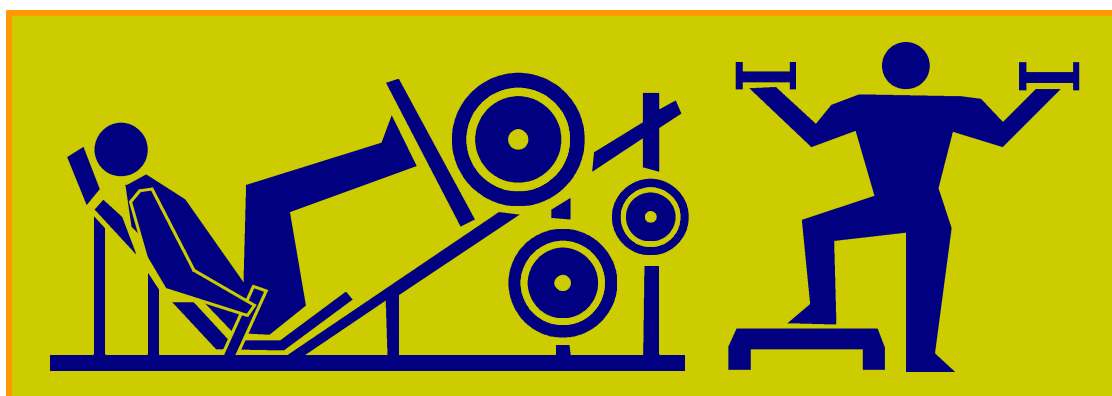
予選B	金 沢	信 州	福 井	勝	敗	順
金 沢		● 1－8	● 1－16	0	2	3
信 州	○ 8－1		○ 9－2	2	0	1
福 井	○ 16－1	● 2－9		1	1	2

決勝トーナメント

福井県立大学	10			
福 井 大 学	0	12		
富 山 大 学	0		優勝 福井県立大学	
信 州 大 学	2		11	

【女子】

チーム	金 沢	信 州	金沢学院	松 本	富 山	勝	分	敗	勝ち点	順位
金 沢		● 0－31	● 0－51	● 0－20	● 1－20	0	0	4	0	5位
信 州	○ 31－0		● 0－11	● 0－7	○ 34－0	2	0	2	4	3位
金沢学院	○ 51－0	○ 11－0		● 0－4	○ 16－0	3	0	1	6	2位
松 本	○ 20－0	○ 7－0	○ 4－0		○ 16－1	4	0	0	8	優勝
富 山	○ 20－1	● 0－34	● 0－16	● 1－16		1	0	3	2	4位



【東京地区】 平成28年度 第48回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成28年4月10日～5月3日

会場：国士舘大学・早稲田大学 他

男子1部

チーム	国士舘	日本体育	中央	早稲田	日本	東京学芸	勝	分	敗	順位
国士舘		○11-1	○7-4	●1-2	○5-0	○14-0	4	0	1	1位
日本体育	●1-11		○7-4	○3-2	○14-0	○11-3	4	0	1	3位
中央	●4-7	●4-7		●0-8	○5-4	○9-5	2	0	3	4位
早稲田	○2-1	●2-3	○8-0		○9-1	○10-5	4	0	1	2位
日本	●0-5	●0-14	●4-5	●1-9		●1-8	0	0	5	6位
東京学芸	●0-14	●3-11	●5-9	●5-10	○8-1		1	0	4	5位

男子2部

チーム	慶應義塾	専修	明治	学習院	桜美林	東京	勝	分	敗	順位
慶應義塾		○14-3	●0-6	●3-12	○8-6	●3-6	2	0	3	5位
専修	●3-14		●0-12	○7-2	○12-7	○8-5	3	0	2	2位
明治	○6-0	○12-0		●3-5	○5-3	○5-1	4	0	1	1位
学習院	○12-3	●2-7	○5-3		○4-2	●4-6	3	0	2	3位
桜美林	●6-8	●7-12	●3-5	●2-4		○9-7	1	0	4	6位
東京	○6-3	●5-8	●1-5	○6-4	●7-9		2	0	3	4位

男子3部 Aセクション

チーム	東京都市	東京農業	文教湘南	帝京	大東文化	勝	分	敗	順位
東京都市		●6-11	○11-10	●7-24	●4-9	1	0	3	3位
東京農業	○11-6		●4-21	●0-19	●0-12	1	0	3	4位
文教湘南	●10-11	○21-4		●4-23	●7-18	1	0	3	5位
帝京	○24-7	○19-0	○23-4		○12-8	4	0	0	1位
大東文化	○9-4	○12-0	○18-7	●8-12		3	0	1	2位

男子3部 Bセクション

チーム	立教	成蹊	東洋	明星	勝	分	敗	順位
立教		○8-1	○7-1	○10-3	3	0	0	1位
成蹊	●1-8		●0-7	●7-18	0	0	3	4位
東洋	●1-7	○7-0		○7-6	2	0	1	2位
明星	●3-10	○18-7	●6-7		1	0	2	3位

男子3部ABセレクション優勝決定戦：帝京大学 4－7 立教大学

男子入れ替え戦

1部－2部 日本大学（1部6位） 8－1 明治大学（2部1位） 日本大学は1部残留

2部－3部 桜美林大学（2部6位） 3－4 立教大学（3部1位） 立教大学は2部昇格

女子1部

チーム	日本体育	早稲田	東京富士	東女体	国士舘	日女体	勝	分	敗	順位
日本体育		○5－4	○2－1	○7－6	○7－0	○7－0	5	0	0	1位
早稲田	●4－5		●1－8	●1－4	○8－1	○1－0	2	0	3	4位
東京富士	●1－2	○8－1		●2－3	○8－2	○7－0	3	0	2	3位
東女体	●6－7	○4－1	○3－2		○9－2	○8－2	4	0	1	2位
国士舘	●0－7	●1－8	●2－8	●2－9		●1－2	0	0	5	6位
日女体	●0－7	●0－1	●0－7	●2－8	○2－1		1	0	4	5位

女子2部

チーム	学習院	東京学芸	中央	専修	慶應義塾	桜美林	勝	分	敗	順位
学習院		●6－14	●2－9	○7－0	●1－2	○6－4	2	0	3	4位
東京学芸	○14－6		○7－5	○10－3	○3－1	○8－0	5	0	0	1位
中央	○9－2	●5－7		○13－2	○4－2	○8－0	4	0	1	2位
専修	●0－7	●3－10	●2－13		●2－17	●6－8	0	0	5	6位
慶應義塾	○2－1	●1－3	●2－4	○17－2		○11－2	3	0	2	3位
桜美林	●4－6	●0－8	●0－8	○8－6	●2－11		1	0	4	5位

女子3部

チーム	東洋	日本	文教湘南	明治	成蹊	実践女子	勝	分	敗	順位
東洋		●0－6	○7－1	○8－2	○18－3	○26－0	4	0	1	2位
日本	○6－0		○15－3	○9－7	○8－0	○9－1	5	0	0	1位
文教湘南	●1－7	●3－15		●1－8	●1－2	○8－1	1	0	4	6位
明治	●2－8	●7－9	○8－1		●11－12	●6－7	1	0	4	5位
成蹊	●3－18	●0－8	○2－1	○12－11		●4－13	2	0	3	4位
実践女子	●0－26	●1－9	●1－8	○7－6	○13－4		2	0	3	3位

※勝敗が同じ場合の順位決定は、各リーグ戦とも失点率による。

女子入れ替え戦

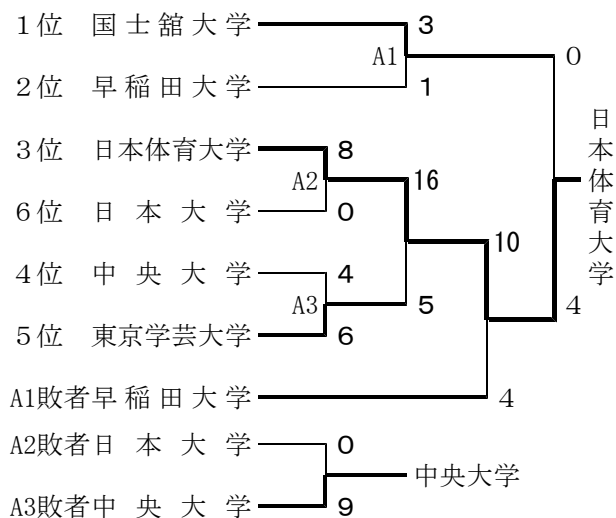
1部－2部 日本女子体育大学（1部6位） 7－3 東京学芸大学（2部1位） 日本女子体育大学は1部残留

2部－3部 専修大学（2部6位） 8－21 日本大学（3部1位） 日本大学は2部昇格

第51回全日本大学選手権大会出場枠決定特別ページシステム

男子1部

会期：平成28年5月1日(日)・3日(火)
会場：早稲田大学

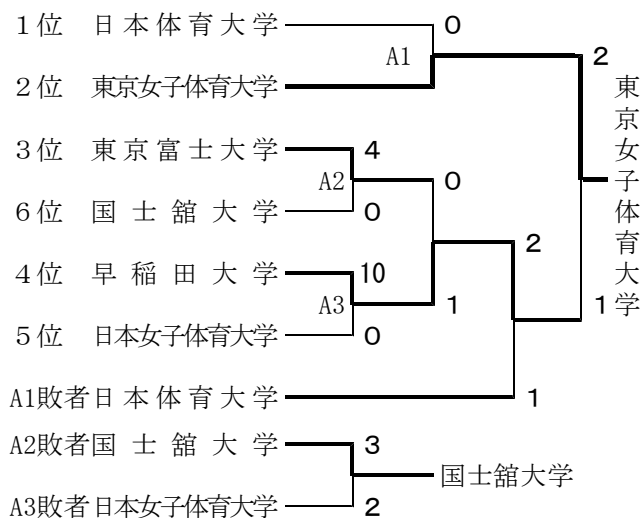


春季リーグ戦男子1部最終成績

優勝：日本体育大学
準優勝：国士舘大学
3位：早稲田大学
4位：東京学芸大学
5位：中央大学
6位：日本大学

女子1部

会期：平成28年5月3日(火)・4日(水)
会場：東京富士大学



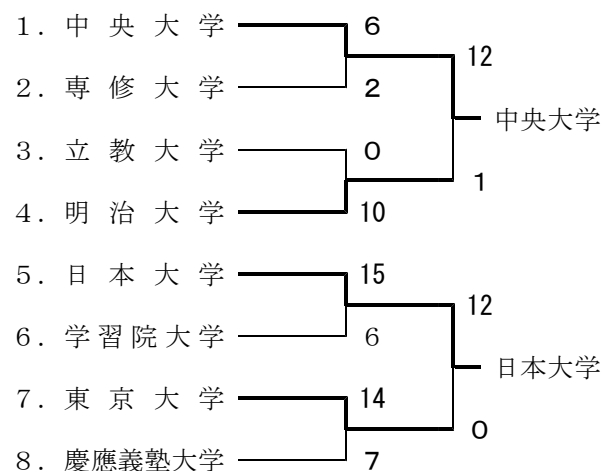
春季リーグ戦女子1部最終成績

優勝：東京女子体育大学
準優勝：早稲田大学
3位：日本体育大学
4位：東京富士大学
5位：国士舘大学
6位：日本女子体育大学

全日本大学選手権大会東京都第2次予選

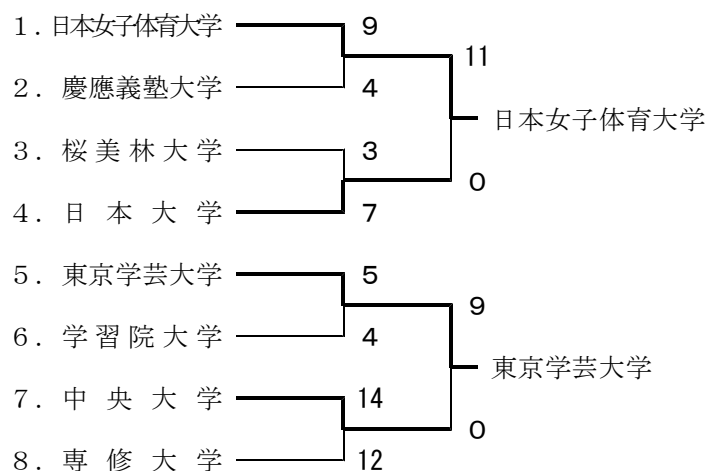
男子

会期：平成28年5月7日(土)
会場：東京理科大学野田キャンパス
／あきる野小和田グラウンド



女子

会期：平成28年5月7日(土)・8日(日)
会場：東京富士大学日高グラウンド
／あきる野小和田グラウンド



第51回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：国士舘大学(51年連続51回目)、早稲田大学(51年連続501目)、日本体育大学(51年連続51回目)、中央大学(5年連続27回目)、東京学芸大学(3年連続8回目)、日本大学(13年ぶり3回目)

女子：日本体育大学(51年連続51回目)、東京富士大学(5年連続5回目)、東京女子体育大学(51年連続51回目)、早稲田大学(12年連続13回目)、国士舘大学(6年連続22回目)、日本女子体育大学(4年連続47回目)、東京学芸大学(4年ぶり20回目)

平成28年度第48回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成28年9月24日～10月9日

会場：国士舘大学・早稲田大学・東京富士大学 他

男子1部

チーム	日本体育	国士舘	早稲田	東京学芸	中央	日本	勝	分	敗	順位
日本体育		● 8-12	● 0-7	○ 17-0	○ 13-2	○ 8-0	3	0	2	3位
国士舘	○ 12-8		○ 9-2	○ 12-0	○ 10-4	○ 12-0	5	0	0	1位
早稲田	○ 7-0	● 2-9		○ 7-6	○ 7-2	○ 5-4	4	0	1	2位
東京学芸	● 0-17	● 0-12	● 6-7		● 2-7	● 9-3	1	0	4	5位
中央	● 0-13	● 4-10	● 2-7	○ 7-2		○ 9-8	1	0	4	4位
日本	● 0-8	● 0-12	● 4-5	● 3-9	● 8-9		0	0	5	6位

男子2部

チーム	明治	専修	学習院	東京	慶應義塾	立教	勝	分	敗	順位
明治		○ 5-0	○ 10-5	○ 5-1	● 7-8	○ 10-2	4	0	1	2位
専修	● 0-5		○ 11-6	● 3-4	○ 15-3	○ 6-5	3	0	2	3位
学習院	● 5-10	● 6-11		○ 8-4	● 3-6	● 6-7	1	0	4	6位
東京	● 1-5	○ 4-3	● 4-8		● 5-8	○ 5-4	2	0	3	4位
慶應義塾	○ 8-7	● 3-15	○ 6-3	○ 8-5		○ 9-1	4	0	1	1位
立教	● 2-10	● 5-6	○ 7-6	● 4-5	● 1-9		1	0	4	5位

男子3部 Aセクション

チーム	帝京	東洋	東京都市	成蹊	文教湘南	勝	分	敗	順位
帝京		● 3-10	● 1-11	○ 5-2	● 5-13	1	0	3	5位
東洋	○ 10-3		○ 5-3	○ 13-11	○ 7-0	4	0	0	1位
東京都市	○ 11-1	● 3-5		● 5-7	● 4-10	1	0	3	3位
成蹊	● 2-5	● 11-13	○ 7-5		● 4-14	1	0	3	4位
文教湘南	○ 13-5	● 0-7	○ 10-4	○ 14-4		3	0	1	2位

男子3部 Bセクション

チーム	桜美林	大東文化	明星	東京農業	勝	分	敗	順位
桜美林		○7-1	○4-3	○7-0	3	0	0	1位
大東文化	●1-7		●1-9	○7-5	1	0	2	3位
明星	●3-4	○9-1		○16-2	2	0	1	2位
東京農業	●0-7	●5-7	●2-16		0	0	3	4位

男子3部ABセクション優勝決定戦 東洋大学 10-6 桜美林大学

男子入れ替え戦 1部-2部 日本大学(6位) 7-0 慶應義塾大学(1位) 日本大学は1部残留
2部-3部 学習院大学(6位) 6-8 東洋大学(1位) 東洋大学は2部昇格

女子1部

チーム	東女体	早稲田	日本体育	東京富士	国士舘	日女体	勝	分	敗	順位
東女体		○2-0	●0-3	●1-2	○1-0	●0-2	2	0	3	4位
早稲田	●0-2		●0-7	●0-1	●0-2	○8-1	1	0	4	6位
日本体育	○3-0	○7-0		●0-5	○6-2	○8-1	4	0	1	2位
東京富士	○2-1	○1-0	○5-0		○6-0	○6-0	5	0	0	1位
国士舘	●0-1	○2-0	●2-6	●0-6		●1-2	1	0	4	5位
日女体	○2-0	●1-8	●1-8	●0-6	○2-1		2	0	3	3位

女子2部

チーム	東京学芸	中央	慶應義塾	学習院	桜美林	日本	勝	分	敗	順位
東京学芸		●4-8	○6-5	○3-2	○12-2	○7-0	4	0	1	2位
中央	○8-4		○7-5	○9-3	○10-1	○12-5	5	0	0	1位
慶應義塾	●5-6	●5-7		●4-8	○10-1	○6-0	2	0	3	4位
学習院	●2-3	●3-9	○8-4		○5-2	○7-0	3	0	2	3位
桜美林	●2-12	●1-10	●1-10	●2-5		○11-10	1	0	4	5位
日本	●0-7	●5-12	●0-6	●0-7	●10-11		0	0	5	6位

女子3部

チーム	専修	東洋	実践女子	成蹊	明治	文教湘南	勝	分	敗	順位
専修		●3-14	●4-5	○11-9	△4-4	○6-1	2	1	2	3位
東洋	○14-3		○17-0	○15-7	●8-10	○7-5	4	0	1	2位
実践女子	○5-4	●0-17		●7-24	●2-8	○11-3	2	0	3	5位
成蹊	●9-11	●7-15	○24-7		●4-7	○10-9	2	0	3	4位
明治	△4-4	○10-8	○8-2	○7-4		○8-7	4	1	0	1位
文教湘南	●1-6	●5-7	●3-11	●9-10	●7-8		0	0	5	6位

※勝敗が同じ場合の順位
の決定は各リーグ
戦とも失点率による

女子入れ替え戦

1部－2部 日本女子体育大学(6位) 10－0 中央(1位) 日本女子体育大学は1部残留

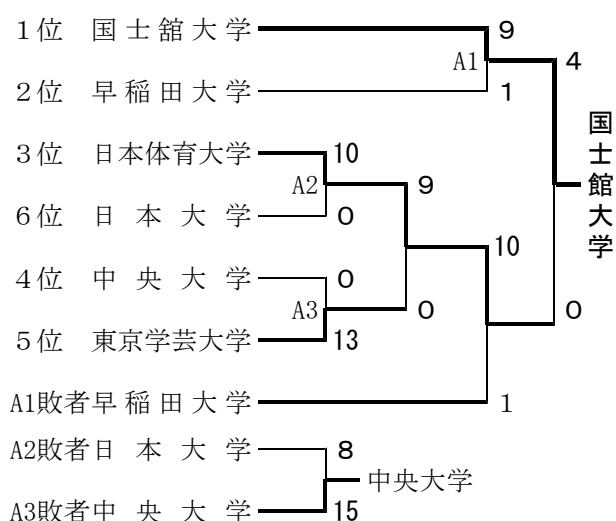
2部－3部 日本大学(6位) 10－8 明治大学(1位) 日本大学は2部残留

東京都大学ソフトボール連盟第48回秋季リーグ戦 特別ページシステム順位決定戦

男子1部

会場：早稲田大学

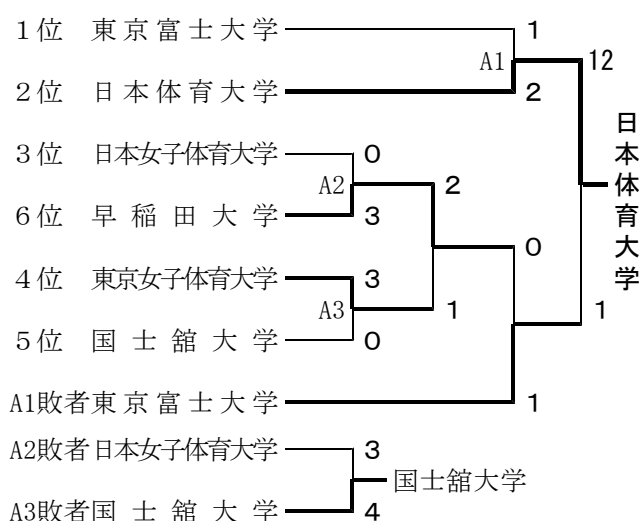
会期：平成28年10月23日(日)・11月5日(土)



女子1部

会場：東京富士大学／太田スタジアム

会期：平成28年10月23日(日)・11月5日(土)

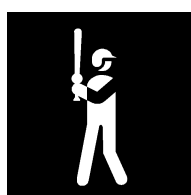


秋季リーグ戦男子1部最終成績

優勝：国士舘大学
準優勝：日本体育大学
3位：早稲田大学
4位：東京学芸大学
5位：中央大学
6位：日本大学

秋季リーグ戦女子1部最終成績

優勝：日本体育大学
準優勝：東京富士大学
3位：早稲田大学
4位：東京女子体育大学
5位：国士舘大学
6位：日本女子体育大学



中京テレビ杯

平成28年度春季第78回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第51回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第48回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成28年5月5・7・8・14日

会場：愛知県刈谷市／亀城公園運動場・双葉グラウンド（7日は豊田市運動公園）

I 部リーグ戦

チーム	中京学院	中 京	日本福祉	常 葉	愛 知	愛知学院	勝	敗	分	順位
中京学院		● 0－1	● 3－8	○ 4－1	○ 3－0	○ 4－2	2	3	0	3位
中 京	○ 1－0		○ 16－2	○ 4－3	● 6－7	○ 10－1	4	1	0	優勝
日本福祉	○ 8－3	● 2－16		○ 10－3	△ 6－6	○ 19－3	3	1	1	2位
常 葉	● 1－4	● 3－4	● 3－10		○ 11－1	○ 9－2	2	3	0	5位
愛 知	● 0－3	○ 7－6	△ 6－6	● 1－11		○ 9－8	2	2	1	4位
愛知学院	● 2－4	● 1－10	● 3－19	● 2－9	● 8－9		0	6	0	6位

※3～5位は当該チーム間の失点率による。

II 部リーグ戦

予選A g	南 山	中 部	静 岡	東海学園	名古屋商	勝	分	敗	順位
南 山		● 2－9	○ 14－5	○ 16－0	○ 20－3	3	0	1	2位
中 部	○ 9－2		○ 9－1	○ 15－0	○ 24－2	4	0	0	1位
静 岡	● 5－14	● 1－9		● 2－10	○ 16－10	1	0	3	4位
東海学園	● 0－16	● 0－15	○ 10－2		● 8－16	1	0	3	3位
名古屋商	● 3－20	● 2－24	● 10－16	○ 16－8		1	0	3	5位

※3～5位は当該チーム間の失点率による。

予選B g	名 城	岐阜聖徳	名 古 屋	愛知教育	勝	分	敗	順位
名 城		● 8－12	● 7－10	○ 9－8	1	0	2	4位
岐阜聖徳	○ 12－8		○ 9－2	● 6－7	2	0	1	2位
名 古 屋	○ 10－7	● 2－9		● 5－15	1	0	2	3位
愛知教育	● 8－9	○ 7－6	○ 15－5		2	0	1	1位

※1～2位、3～4位は当該チーム間の失点率による。

順位決定予備戦

岐阜聖徳学園大学(予選B 2位) 4－3 南 山 大 学(予選A 2位)

名古屋大学(予選B 3位) 13-6 東海学園大学(予選A 3位)

名城大学(予選B 4位) 8-3 静岡大学(予選A 4位)

順位決定戦

1位決定戦: 愛知教育大学(予選B 1位) 6-5 中部大学(予選A 1位)

2・3位決定戦: 中部大学(1位決定戦敗者) 7-5 岐阜聖徳学園大学(予備戦勝者)

4・5位決定戦: 名古屋大学(予備戦勝者) 11-5 南山大学(予備戦敗者)

6・7位決定戦: 名城大学(予備戦勝者) 13-6 東海学園大学(予備戦敗者)

8・9位決定戦: 静岡大学(予備戦敗者) 15-4 名古屋商科大学(予選A 5位)

I部×II部入れ替え戦

常葉大学(5位) 8-3 中部大学(2位)

愛知学院大学(6位) 8-5 愛知教育大学(1位)

※常葉大学・愛知学院大学I部残留

代表

第13回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第51回インカレ最終予選):

中京大学・中京学院大学・日本福祉大学・

愛知大学・常葉大学・愛知学院大学

愛知教育大学・中部大学・岐阜聖徳学園大学

第48回西日本大学ソフトボール選手権大会:

中京大学・中京学院大学・日本福祉大学・

愛知大学・常葉大学・愛知学院大学

個人表彰選手

●I部リーグ戦

最優秀選手賞: 佐野 悠真(中京大学)

首位打者賞: 福島 直弥(愛知学院大学)

記録 5割3分8厘

打点賞: 井上 明(日本福祉大学)

記録 10

本塁打賞: 該当者なし

盗塁賞: 青野慎一郎(中京大学)

記録 6

最優秀防御率賞: 松本 和也(中京学院大学)

記録 1.37

ベストテン:

投手 松本 和也(中京大学)

捕手 水本 健太(中京大学)

一塁手: 佐野 悠真(中京大学)

二塁手: 山口 徹(常葉大学)

三塁手: 井上 弥(日本福祉大学)

遊撃手: 福島 直弥(愛知学院大学)

外野手: 近藤 大嗣(中京大学)

外野手: 前岡 隆杜(中京学院大学)

外野手: 井上 明(日本福祉大学)

DP・FP: 乾 翔太(常葉大学)

●II部リーグ戦

優秀選手賞: 山本 優也(愛知教育大学)

ベストプレイヤー賞

愛知教育大学: 板倉 央宜

中部大学: 佐々木 優

岐阜聖徳学園大学: 林 竜佑

名古屋大学: 西村健太郎

南山大学: 齋藤 圭汰

名城大学: 山田 健人

静岡大学: 佐野 光

名古屋商科大学: 河口 和司

●I部・II部共通

ベストマネジメント賞: 小林 加奈(愛知学院大学)

ベストマーケティング賞: 山田 真由(愛知大学)

ベストスコアラー賞: 新川 智子(中京大学)

講評 春のリーグ戦は雨に悩まされましたが、刈谷連盟の英断により予備日までに全日程を終了することができました。御礼申し上げます。

I部・II部とも全勝チームがなく、混戦となりましたが、終わってみれば順当な結果だったと思います。ただ、投打ともにやや物足りなさを感じました。スピードとパワーが男子ソフトの魅力ですが、いずれも昨年に比べれば見劣りしました。インカレでベスト8の半分を占めた力を復活させてください。(東海学連事務局長: 水谷 博)

中京テレビ杯 平成28年度春季第67回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦
 ー兼、第51回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー
 ー兼、第48回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成28年4月10・16・17・30日、5月1・3・5日

会場：愛知県東海市／新宝緑地運動公園、豊田市／運動公園ソフトボール場

I 部リーグ戦結果

チーム	東海学園	鈴 鹿	中 京	日本福祉	岐阜経済	中京学院	勝分敗	失点率	順
東海学園		○2-0 ○7-0	○2-0 ●2-5	○7-0 ○3-0	○3-1 ○1-0	○7-0 ○8-0	9 0 1	0.69	優勝
鈴 鹿	●0-2 ●0-7		●1-4 ●0-7	●0-4 ●0-7	●4-13 ●0-7	○3-1 ●0-7	1 0 9	-	-
中 京	●0-2 ○5-2	○4-1 ○7-0		○6-4 △7-7	○6-1 ○7-0	○3-1 ○11-0	8 1 1	2.41	2位
日本福祉	●0-7 ●0-3	○4-0 ○7-0	●4-6 △7-7		○6-0 ○4-2	○8-2 ○8-1	6 1 3	3.77	3位
岐阜経済	●1-3 ●0-1	○13-4 ○7-0	●1-6 ●0-7	●0-6 ●2-4		●5-7 ●0-1	2 0 8	4.79	5位
中京学院	●0-7 ●0-8	●1-3 ○7-0	●1-3 ●0-11	●2-8 ●1-8	○7-5 ○1-0		3 0 7	7.05	4位

※鈴鹿大学は2次リーグを棄権

II 部リーグ戦結果

〔予選リーグ〕

A	至学館	愛 教	静 岡	中 部	順
至学館		○ 4-3	○ 8-0	○ 12-0	1位
愛知教育	● 3-4		○ 10-3	○ 17-2	2位
静岡	● 0-8	● 3-10		● 2-4	4位
中部学院	● 0-12	● 2-17	○ 4-2		3位

A	聖 徳	常 葉	名古屋	星 城	順
岐阜聖徳		● 3-8	○ 4-3	○ 2-0	2位
常葉	○ 3-8		○ 16-3	● 7-10	3位
名古屋	● 3-4	● 3-16		● 0-2	4位
星城	● 0-2	○ 10-7	○ 2-0		1位

※1～3位は失点率による。

〔順位決定リーグ〕

上位	至学館	星 城	愛 教	聖 徳	順
至学館		△ 4-4	○ 11-6	○ 3-1	2位
星城	△ 4-4		○ 3-2	○ 4-0	1位
愛知教育	● 6-11	● 2-3		○ 4-0	3位
岐阜聖徳	● 1-3	● 0-4	● 0-4		4位

※1～2位は失点率による。

下位	中 部	常 葉	静 岡	名古屋	順
中部学院		● 1-29	○ 3-10	● 3-11	6位
常葉	○ 29-1		○ 16-0	○ 10-3	5位
静岡	● 10-3	● 0-16		● 4-8	7位
名古屋	○ 11-3	● 3-10	○ 8-4		8位

※名古屋大学は一時移籍制度を利用したため最下位

I 部×II 部入れ替え戦

岐阜経済大学(5位)6-0 至学館大学(2位)

※岐阜経済大学一部残留

鈴鹿大学は2次リーグを棄権したため自動降格、
星城大学は1部自動昇格

代表

第13回東海地域大学選手権大会(第51回インカレ
最終予選):

東海学園大学・中京大学・日本福祉大学・
中京学院大学・岐阜経済大学・星城大学・
至学館大学・岐阜聖徳学園大学・愛知教育大学
第487回西日本大学ソフトボール選手権大会:
東海学園大学・中京大学・日本福祉大学・
岐阜経済大学・中京学院大学・星城大学

個人表彰選手

●I 部リーグ戦

最優秀選手賞:木村麻利亜(東海学園大学)

首位打者賞:吉田 彩夏(東海学園大学)
佐藤 嘉穂(中京大学)

記録5割0分0厘

打点賞:天野 佑香(日本福祉大学)

記録12

本塁打点賞:該当者なし

盗塁賞:該当者なし

最優秀防御率賞:木村麻利亜(東海学園大学)

記録0.24

ベストテン:

投手:木村麻利亜(東海学園大学)

捕手:平川 穂波(中京大学)

一塁手:白井 千普(東海学園大学)

二塁手:好川真悠子(東海学園大学)

三塁手:高山美蓉子(中京大学)

遊撃手:大崎 小夏(日本福祉大学)

外野手:吉田 彩夏(東海学園大学)

外野手:佐藤 果歩(中京大学)

外野手:天野 佑香(日本福祉大学)

DPPF:若林恵里奈(岐阜経済大学)

●II 部リーグ戦

優秀選手賞:中村 さき(星城大学)

ベストプレイヤー賞:

星城大学:山宿 稔梨

至学館大学:山根 萌花

愛知教育大学:喜多 里美

岐阜聖徳学園大学:清水あかり

常葉大学:小川せりな

中部学院大学:赤塚 理沙

静岡大学:田宮 杏奈

名古屋大学:今井ひとみ

●I 部・II 部共通

MIP賞:長瀬 りえ(東海学園大学)

天野 佑香(日本福祉大学)

ベストマネジメント賞:稲生 真純(中京学院大学)

ベストマーケティング賞:高橋 夏海(至学館大学)

ベストスコアラー賞:宮城 志帆(常葉大学)

講評

今大会、4月10・16・17日の三日間は、愛知県東海市協会のご尽力のもと、新法緑地公園で、4月30日、5月1・3・5日の四日間は、同県豊田市協会のご尽力のもと、豊田市運動公園においてII部・入れ替え戦も含めた全39試合が行われた。昨年に引き続き、多大なるご協力とご尽力をいただいたことに感謝申し上げます。

今大会は、前季全勝優勝の東海学園大が春季10試合制初の全勝優勝を成し遂げられるのかに注目が集まった。しかし、ライバルの中京大に最終戦で敗れ、全勝の夢は途絶えた。その中京大は、日本福祉大に引き分けたため準優勝。東海学園大が3季連続の優勝を飾った。三位には日本福祉大、続いて中京学院大、岐阜経済大が入った。なお、移籍制度を利用して参加していた鈴鹿大は途中棄権となった。II部では、今大会から加入した星城大が快進撃を続け優勝しI部昇格を果たした。II部二位となった至学館大は、岐阜経済大との入れ替え戦に敗れ、I部返り咲きとはならなかった。

最後になりましたが、協賛・後援いただきました各社に感謝申し上げます。特に、リーグ戦の冠をいただいた中京テレビ放送様からご後援のみならず、番組での取り上げ、閉会式でのプレゼンター、そして最終日I部2試合のインターネット放送など並々ならぬご尽力をいただいたことに厚く感謝申し上げます。(理事長 二瓶 雄樹)

第13回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

一兼、第51回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会一

会期：5月21日(土)、22日(日)

会場：愛知県東海市新宝緑地運動公園野球場(男子)・多目的グラウンド(女子)

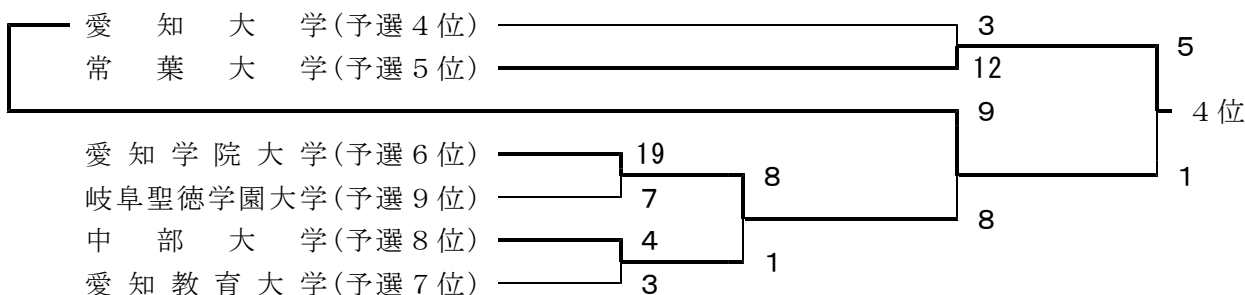
●男子上位順位決定リーグ戦

チー ム	中 京	日本福祉	中京学院	勝	分	敗	順位
中 京 大 学		○ 9－6	● 2－7	1	0	1	1
日本福祉大学	● 6－9		○ 5－2	1	0	1	1
中京学院大学	○ 7－2	● 2－5		1	0	1	1

※ 3 校同率優勝

※3校同率優勝

●男子下位順位決定トーナメント戦



●男子全日本大学選手権大会代表

第1代表：中京学院大学(12年連続13回目)

第4代表：常葉大学(5年連続19回目)

第2代表：日本福祉大学(2年連続4回目)

第5代表：愛知大学(4年ぶり21回目)

第3代表：中京大学(5年連続27回目)

※第1～3代表は失点率によって決定

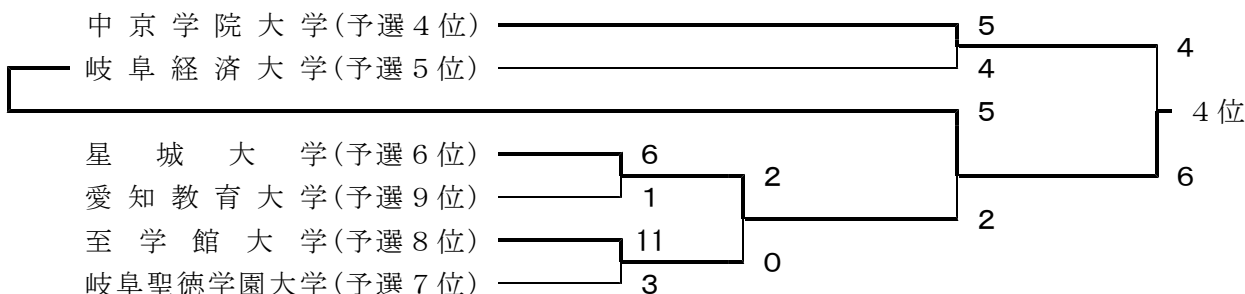
●女子上位順位決定リーグ戦

チー ム	東海学園	中 京	日本福祉	勝	分	敗	順位
東海学園大学		○ 1 - 0	● 4 - 5	1	0	1	1
中 京 大 学	● 0 - 1		○ 4 - 0	1	0	1	1
日本福祉大学	○ 5 - 4	● 0 - 4		1	0	1	1

※ 3 校同率優勝

※3校同率優勝

●女子下位順位決定トーナメント戦



●女子全日本大学選手権大会代表

第1代表：中京大学(32年連続41回目)

第4代表：岐阜経済大学(2年ぶり2回目)

第2代表：東海学園大学(9年連続14回目)

第5代表：中京学院大学(14年ぶり2回目)

第3代表：日本福祉大学(2年連続4回目)

※第1～3代表は失点率によって決定

中京テレビ杯

平成28年度秋季第79回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成28年10月10・15・22・23日

会場：静岡県静岡市／三保貝島グラウンド・富士川緑地公園グラウンド

I 部リーグ戦

チーム	中 京	日本福祉	中京学院	愛 知	常 葉	愛知学院	勝	分	敗	順 位
中 京		○13-0	○2-1	○8-1	○5-1	○4-3	5	0	0	優勝
日本福祉	●0-13		●2-4	●3-9	○0-3	○9-3	2	0	3	3位
中京学院	●1-2	○4-2		●4-5	●1-3	●5-6	1	0	4	6位
愛 知	●1-5	○9-3	○5-4		○12-4	●5-7	3	0	2	2位
常 葉	●1-5	●3-0	○3-1	●4-12		○14-2	2	0	3	4位
愛知学院	●3-4	●3-9	○6-5	○7-5	●2-14		2	0	3	5位

※3位～5位は直接対戦の結果による。

II 部リーグ戦

予選A	愛知教育	名 古 屋	南 山	静 岡	名 商	勝	分	敗	順位
愛知教育		○16-1	●2-3	○7-0	○12-7	3	0	1	2位
名 古 屋	●1-16		●5-14	●2-9	○14-6	1	0	3	4位
南 山	○3-2	○14-5		○6-1	○23-5	4	0	0	1位
静 岡	●0-7	○9-2	●1-6		○19-11	2	0	2	3位
名古屋商	●7-12	●6-14	●5-23	●11-19		0	0	4	5位

予選B	中 部	岐阜聖徳	名 城	東海学園	勝	分	敗	順位
中 部		●7-14	●3-6	○13-3	1	0	2	3位
岐阜聖徳	○14-7		●1-4	○25-0	2	0	1	2位
名 城	○6-3	○4-1		○5-2	3	0	0	1位
東海学園	●3-13	●0-25	●2-5		0	0	3	4位

順位決定予備戦

岐阜聖徳学園大学(予選B 2位) 10-3 愛知教育大学(予選A 2位)

中 部 大 学(予選B 3位) 7-10 静 岡 大 学(予選A 3位)

名 古 屋 大 学(予選A 4位) 11-1 東海学園大学(予選B 4位)

順位決定戦

1 位 決 定 戦：南 山 大 学(予選A 1位) 10-3 名 城 大 学(予選B 1位)

2～3位決定戦：名城大学(1位決定戦敗者) 1-13 岐阜聖徳学園大学(予備戦勝者)
4～5位決定戦：静岡大学(予備戦勝者) 5-6 愛知教育大学(予備戦敗者)
6～7位決定戦：名古屋大学(予備戦勝者) 1-9 中部大学(予備戦敗者)
8～9位決定戦：東海学園大学(予備戦敗者) 4-14 名古屋商科大学(予選A 5位)

I・II部入れ替え戦

愛知学院大学(I部5位) 13-6 岐阜聖徳学園大学(II部2位) ※愛知学院大学はI部に残留
中京学院大学(I部6位) 7-4 南山大学(II部1位) ※中京学院大学はI部に残留

個人表彰選手

最優秀選手賞：関口 幸輝(中京大学)
I部首位打者賞：羽賀 敬祐(愛知大学)
記録：6割4分3厘
I部打点賞：羽賀 敬祐(愛知大学)
橋本 貴弘(愛知大学)
金城 春紀(中京学院大学)
記録：7

本塁打賞：該当者なし

盗塁賞：該当者なし

I部最優秀防御率賞：関口 幸輝(中京大学)
記録：1.17

II部優秀選手賞：平野 直弥(南山大学)
ベストマネジメント賞：岩井 美樹(南山大学)
ベストマーケティング賞：鈴木 美咲(中京大学)
ベストスコアラー賞：小林 加奈(愛知学院大学)

I部ベストテン

投手：関口 幸輝(中京大学)
捕手：杉村 優太(中京大学)
一塁手：古橋 和也(中京大学)
二塁手：吉田 直人(中京学院大学)
三塁手：森 俊輔(常葉大学)
遊撃手：橋本 貴弘(愛知大学)
外野手：諏訪 景太(愛知大学)
外野手：寺坂 歩(常葉大学)
外野手：井上 和俊(愛知学院大学)
DPFP：井上 力(日本福祉大学)

II部ベストプレイヤー賞

南山大学：三田村大輝
岐阜聖徳学園大学：塚本 隼平
名城大学：高田 悠平

愛知教育大学：丹下 洸介
静岡大学：加藤 秀明
中部大学：高瀬 穰
名古屋大学：渡辺 元気
名古屋商科大学：牧村 凌治
東海学園大学：林 昂輝

講評 今季のリーグ戦は、いきなり初日と2日目を流して雨にたたられたものとなった。しかし、清水協会の球場確保や整備などの献身的なご尽力により、予備日に加えてさらに1日の日程を設定していただいて無事終了することができた。清水協会をはじめとして関係各位にまずもって御礼申し上げます。

I部リーグ戦は、この夏のインカレで好成績を収めた常葉大学と愛知大学を軸に、実力校の中京大学と中京学院大学がどのような戦いを見せ、それらに日本福祉大学と愛知学院大学がどう絡むかが注目されていた。しかし、3日間を終わって、中京大学が全勝で早々と優勝を決め、他の5校はすべてが2勝3敗に並ぶ可能性のあるという意外な展開であった。最終結果は、I部昇格以来初の入れ替え戦へ回った中京学院大学が6位、上位2校を倒した愛知学院大学が5位などという混戦であった。この結果から課題を追求して欲しい。

II部リーグ戦は、半数以上の試合が10得点以上という大味な試合が多く、各チームの投手力の弱さを露呈した。投手力の強化はもとより特に内野手の機敏な動きと連携プレイの向上を望みたい。

入れ替え戦は2試合ともI部校が残留を決め、久々に入れ替えがなくてI部・II部の力の差が開いたように思われた。(事務局長 水谷 博)

中京テレビ杯

平成28年度秋季第68回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成28年9月24・25日、10月1・2日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

I 部リーグ戦

チーム	東海学園	中 京	日本福祉	中京学院	岐阜経済	星 城	勝	分	敗	順 位
東海学園		● 0 - 2	○ 3 - 2	○ 10 - 0	○ 2 - 1	○ 9 - 1	4	0	1	2 位
中 京	○ 2 - 0		○ 9 - 0	○ 7 - 0	○ 2 - 1	○ 5 - 2	5	0	0	優勝
日本福祉	● 2 - 3	● 0 - 9		○ 2 - 0	○ 7 - 1	○ 8 - 0	3	0	2	3 位
中京学院	● 0 - 10	● 0 - 7	● 0 - 2		● 3 - 10	○ 2 - 1	1	0	4	5 位
岐阜経済	● 1 - 2	● 1 - 2	● 1 - 7	○ 10 - 3		○ 10 - 3	2	0	3	4 位
星 城	● 1 - 9	● 2 - 5	● 0 - 8	● 1 - 2	● 3 - 10		0	0	5	6 位

II 部リーグ戦

A	至 学 館	常 葉	中部学院	名 古 屋	勝	分	敗	失点率	順位
至 学 館		○ 9 - 8	○ 16 - 0	○ 14 - 0	3	0	0	-	1 位
常 葉	● 8 - 9		○ 10 - 0	○ 11 - 0	2	0	1	-	2 位
中部学院	● 0 - 16	● 0 - 10		● 2 - 9	0	0	3	-	4 位
名 古 屋	● 0 - 14	● 0 - 11	○ 9 - 2		1	0	2	-	3 位

B	岐阜聖徳	愛知教育	中部学院	勝	分	敗	失点率	順位
岐阜聖徳		△ 10 - 10	○ 9 - 2	1	1	0	6.00	2 位
愛知教育	△ 10 - 10		○ 10 - 0	1	1	0	5.00	1 位
静 岡	● 2 - 9	● 0 - 10		0	0	2	-	3 位

※ 1 位～2 位は失点率による。

II 部順位決定予備戦 常葉大学 10 - 3 岐阜聖徳学園大学 名古屋大学 5 - 3 静岡大学

II 部順位決定戦 1 位 決 定 戦 至学館大学 4 - 3 愛知教育大学

2 ～ 3 位決定戦 常葉大学 11 - 0 愛知教育大学

4 ～ 5 位決定戦 岐阜聖徳学園大学 2 - 0 名古屋大学

6 ～ 7 位決定戦 静岡大学 3 - 1 中部学院大学

I ・ II 部入れ替え戦

中京学院大学 (I 部 5 位) 12 - 5 常葉大学 (II 部 2 位) ※中京学院大は I 部残留、常葉大も II 部残留

星城大学 (I 部 6 位) 6 - 3 至学館大学 (II 部 1 位) ※星城大は I 部残留、至学館大も II 部残留

個人表彰選手

最優秀選手賞：金丸侑志帆（中京大）

I部首位打者賞：多賀 楓（岐阜経済大）
記録5割7分1厘

I部打点賞：多賀 楓（岐阜経済大）
記録6

I部本塁打点賞：該当者なし

I部盗塁賞：杉本 梨緒（中京大）
記録4

I部最優秀防御率賞：金丸侑志帆（中京大）
記録0.00

II部優秀選手賞：藤井 杏奈（至学館大）

MIP賞：稲垣 蒼衣（日本福祉大）
東谷 美佑（岐阜経済大）

ベストマネジメント賞：石川 瑞樹（日本福祉大）

ベストマーケティング賞：野呂あかり（名古屋大）

ベストスコアラー賞：谷口 智夏（中部学院大）

I部ベスト10：

投手 金丸侑志帆（中京大）

捕手 黒田 朋美（日本福祉大）

一塁手 白井 千普（東海学園大）

二塁手 杉本 梨緒（中京大）

三塁手 小島 新菜（東海学園大）

遊撃手 吉田 彩夏（東海学園大）

外野手 中谷日向子（日本福祉大）

外野手 多賀 楓（岐阜経済大）

外野手 乗松真梨奈（岐阜経済大）

DPPF 小寺 真琴（中京大）

二部ベストプレイヤー賞：

至学館大学：高橋 夏美

常葉大学：小川せりな

岐阜聖徳学園大学：山口 実希

愛知教育大学：金本 優衣

名古屋大学：今井 瞳

静岡大学：古郡美希奈

中部学院大学：高岡 実侑

講評 9月24・25日、10月1・2日の4日間、愛知県高浜市連盟の皆様のご尽力により、初日の雨の遅れを期間内で運営していただき、滞りなく全日程が終了したことに深く感謝申し上げます。

また最終日には、中京テレビ様のご尽力により本リーグ戦3度目となるインターネット中継が行われました。このような素晴らしい環境に見合う素晴らしい試合が展開できるよう、リーグ全体としてレベルアップに邁進して参ります。

今回のI部リーグ戦では、東海学園大の4季連続優勝なるか、またそれを阻止するチームが現れるかに注目が集まった。最終日、大方の予想通り全勝同士で東海学園大と中京大が優勝をかけた一戦に臨んだ。東海学園大は、計3名の投手陣をつぎ込み粘り強い守備で再三のピンチをくぐり抜けたが、終盤につかまり2失点。一方、中京大の先発：金丸侑志帆はエラーやフォアボールでランナーを出すものの要所を締め、一安打完封。中京大が4季ぶり37回目の優勝を飾った。三位には、上位以外に取りこぼさなかった日本福祉大が入った。東海学園大戦では、惜しい試合を落としたが、優勝した中京大戦ではコールドゲームとなるなど、安定した強さを示せなかった。四位には、実力のある岐阜経済大が入った。小人数での出場となったが、その弱みを経験という強みに変え日に日に力をつけた。上位とも接戦を演じただけに、来春新たな戦力と共に巻き返しに期待したい。五位には中京学院大、六位には星城大が入った。両チーム同士の対戦では、星城大が1点リードして迎えた最終回、2アウトからエラーと中京学院大のしぶとい攻撃に耐えきれず2失点。星城大が台風目のことにも注目されたが、初参戦の一部での5敗。若いチームのさらなる飛躍に繋がることに期待したい。II部では、至学館大が粘り強さをみせ2試合の逆転勝ちでII部優勝。その勢いのまま一部昇格となるかと思われたが、入れ替え戦の星城大戦に敗れて古豪復活の足掛かりとはならなかった。II部2位となった常葉大も、持ち前の明るさと勢いで入れ替え戦に挑んだが、中京学院大の前に敗戦。来季の本リーグ戦では、近年掲げている「競争力の激化」と「リーグ全体の底上げ」をより一層図っていかなければならない。そのための、厳しい冬と伊吹の春を切に願うばかりである。（理事長 二瓶 雄樹）

【近畿地区】

平成28年度 第48回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成28年4月16日～5月29日

会場：大阪府泉南市／サザンスタジアム・なみはやグランド、大阪市／柴島グランド

1部リーグ戦

チーム	関西	京都産業	神戸学院	立命館	同志社	大阪教育	勝	分	敗	順位
関西		○ 9 - 2	○ 5 - 0	● 0 - 1	△ 5 - 5	○ 9 - 0	3	1	1	1位
京都産業	● 2 - 9		○ 4 - 2	○ 1 - 0	● 3 - 4	○ 7 - 3	3	0	2	2位
神戸学院	● 0 - 5	● 2 - 4		○ 6 - 0	○ 2 - 0	○ 7 - 6	3	0	2	3位
立命館	○ 1 - 0	● 0 - 1	● 0 - 6		○ 6 - 1	○ 4 - 1	3	0	2	4位
同志社	△ 5 - 5	○ 4 - 3	● 0 - 2	● 1 - 6		● 1 - 6	1	1	3	5位
大阪教育	● 0 - 9	● 3 - 7	● 6 - 7	● 1 - 4	○ 6 - 1		1	0	4	6位

☆関西大学は4季連続19回目の優勝！★大阪教育大学は2部に自動降格 ※2位～4位は該当チーム間勝ち点規定により決定

1部リーグ戦

2部A	佛教	大阪	大阪経済	関西学院	龍谷	勝	分	敗	点	順位
佛教		○ 4 - 3	○ 6 - 5	● 5 - 8	○ 3 - 1	3	0	1	9	1位
大阪	● 3 - 4		○ 3 - 1	○ 6 - 5	● 1 - 11	2	0	2	6	2位
大阪経済	● 5 - 6	● 1 - 3		○ 4 - 3	○ 11 - 0	2	0	2	6	3位
関西学院	○ 8 - 5	● 5 - 6	● 3 - 4		○ 12 - 7	2	0	2	6	4位
龍谷	● 1 - 3	○ 11 - 1	● 0 - 11	● 7 - 12		1	0	3	3	5位

2部B	四天王寺	大阪体育	大阪府立	兵庫教育	京都	勝	分	敗	点	順位
四天王寺		○ 3 - 0	○ 7 - 6	○ 10 - 0	○ 8 - 3	4	0	0	12	1位
大阪体育	● 0 - 3		○ 6 - 1	○ 9 - 0	○ 5 - 3	3	0	1	9	2位
大阪府立	● 6 - 7	● 1 - 6		○ 10 - 0	○ 14 - 1	2	0	2	6	3位
兵庫教育	● 0 - 10	● 0 - 9	● 0 - 10		○ 18 - 1	1	0	3	3	4位
京都	● 3 - 8	● 3 - 5	● 1 - 14	● 1 - 18		0	0	4	0	5位

◎2部ブロック決勝 佛教大学0 - 4 四天王寺大学 ☆四天王寺大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 京都学園大学3 - 8 龍谷大学 ★京都大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

3部A	近 畿	大阪工業	兵庫県立	和 歌 山	勝	分	敗	点	順 位
近 畿		○12-2	○13-4	●4-7	2	0	1	6	1位
大阪工業	●2-12		○8-7	○3-1	2	0	1	6	2位
兵庫県立	●4-13	●7-8		○20-0	1	0	2	3	3位
和 歌 山	○7-4	●1-3	●0-20		1	0	2	3	4位

※1位～2位、3位～4位は、ともに該当チーム間勝ち点規定により決定

3部B	大阪経法	甲 南	流通科学	京都学園	勝	分	敗	点	順 位
大阪経法		○13-8	○8-2	*	2	0	0	6	1位
甲 南	●8-13		○17-8	*	1	0	1	3	2位
流通科学	●2-8	●8-17		*	0	0	2	0	3位
京都学園	*	*	*		*	*	*	*	4位

3部C	神 戸	奈良教育	大阪市立	摂 南	勝	分	敗	点	順 位
神 戸		△3-3	○7-0	○10-0	2	1	0	7	1位
奈良教育	△3-3		○7-0	○6-0	2	1	0	7	2位
大阪市立	●0-7	●0-7		○10-9	1	0	2	3	3位
摂 南	●0-10	●0-6	●9-10		0	0	3	0	4位

※1位～2位は該当チーム間勝ち点規定により決定

◎3部ブロック決勝 近畿大学0-4大阪経済法科大学 大阪経済法科大学0-10神戸大学
近畿大学0-5神戸大学 ☆神戸大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 同志社大学9-6佛教大学 ☆同志社大学は1部残留

2部・3部 龍谷大学6-11大阪経済法科大学 ☆大阪経済法科大は2部昇格、龍谷大は3部降格

◇西日本インカレ出場チーム（リーグ戦結果の上位10大学）

関西大学、京都産業大学、神戸学院大学、立命館大学、同志社大学、大阪教育大学、
四天王寺大学、佛教大学、大阪体育大学、大阪大学

◇全日本インカレ出場チーム（1部1・2位、及びインカレ予選により決定）

関西大学、京都産業大学、神戸学院大学、立命館大学、大阪教育大学、四天王寺大学、
大阪体育大学、大阪経済法科大学

【総評】

松田投手を中心に攻守で頭一つ抜けている関西大学が、全勝こそ逃したものの安定した試合運びで、4季連続の優勝を果たした。2位争いは最後

までもつれたが、最終的には3チーム間での対戦成績で京都産業大学が準優勝となった。一方、リーグ加盟以来、3部から順調に勝ち上がって昨秋リーグで念願の1部昇格を果たした大阪教育大学

であったが、残念ながら今季最下位で自動降格となり、2シーズンの1部となった。またの盛り返しに期待したい。

また、2部はAブロックでは佛教大学が、Bブロックは四天王寺大学がそれぞれ接戦を制して、ブロック決勝にコマを進めた。決勝では、四天王寺大学が力の差を感じさせる試合で1部への振り返りを果たした。四天王寺は2部では頭一つ抜けているものの、1部では破れて降格というパターンをここ数シーズン繰り返している。次の秋には是非とも1部定着をねらってほしい。

最後に、3部は近畿大学、大阪経済法科大学、神戸大学がブロックを制し、ブロック決勝リーグに進んだ。2部に長年定着しており安定した力のある神戸大学が2試合とも完封勝利で力の差を見せつけて、2部復帰を果たした。また、決勝では破れた大阪経済法科大学であったが、2部との入れ替え戦で龍谷大学に打ち勝ち、久しぶりの2部となった。大阪経済法科大学は全日本インカレにも出場する権利を獲得したように、かつてのような元気な戦いぶりをこれから期待したい。

(理事長 森田 啓之)

平成28年度第48回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成28年4月9・10・16・17・29日、5月1・3日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦対戦結果

チーム	園田学園	立 命 館	太成学院	大阪大谷	龍 谷	武 庫 川	奈良文化	神戸親和
園田学園		○10-0	○9-2	○1-0	○7-0	○9-0	○7-0	○7-1
立 命 館	●0-10		○7-0	●0-2	○1-0	●3-5	○7-6	○9-2
太成学院	●2-9	●0-7		○6-5	○7-0	●0-1	○7-0	●0-1
大阪大谷	●0-1	○2-0	●5-6		○3-0	○3-1	○4-1	○5-0
龍 谷	●0-7	●0-1	●0-7	●0-3		●0-1	●2-5	●3-4
武 庫 川	●0-9	○5-3	○1-0	●1-3	○1-0		●1-4	●0-8
奈良文化	●0-7	●6-7	●0-7	●1-4	○5-2	○4-1		●0-1
神戸親和	●1-7	●2-9	○1-0	●0-5	○4-3	○8-0	○1-0	

※3～4位、5～6位は、当該チームでの直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

優勝 園田学園女子大学 (7勝0分0敗)
 2位 大阪大谷大学 (5勝0分2敗)
 3位 立 命 館 大学 (4勝0分3敗)
 4位 神戸親和女子大学 (4勝0分3敗)

5位 武庫川女子大学 (3勝0分4敗)
 6位 太成学院大学 (3勝0分4敗)
 7位 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 (2勝0分5敗)
 8位 龍 谷 大 学 (0勝0分7敗)

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	児嶋 優	園田学園女子大学	0.571
2位	石川 恭子	園田学園女子大学	0.500
3位	仁科 芽惟	大阪大谷大学	0.470
4位	中西 美帆	立命館大学	0.450
5位	堤 加菜子	園田学園女子大学	0.444
6位	森山 春奈	大阪大谷大学	0.423
7位	小嶋那奈美	神戸親和女子大学	0.416
8位	入谷玲生奈	大阪大谷大学	0.409
9位	山田 夢子	神戸親和女子大学	0.384
10位	青木 祭	龍谷大学	0.368

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	原 奈々	園田学園女子大学	0.00
2位	吉崎菜々海	大阪大谷大学	1.18
3位	吉田 優姫	太成学院大学	1.64

4位 浜西千那美 神戸親和女子大学 2.15

5位 井戸 渚 龍谷大学 2.55

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	栂山 奈々	捕手
大阪大谷大学	仁科 芽惟	中堅手
立命館大学	中西 美帆	一塁手
神戸親和女子大学	勝本 舞香	右翼手
武庫川女子大学	武田 理紗	左翼手
太成学院大学	吉田 優姫	投手
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	増田みゆき	三塁手
龍谷大学	寺西 穂香	内野手

ホームラン賞：大村明日香 太成学院大学 記録2

盗塁賞：堤 加菜子 園田学園女子大学 記録6

2 部リーグ戦対戦結果

チーム	大阪国際	天理	同志社	関西	大阪青山	大阪体育	勝	分	敗	順位
大阪国際		△1-1	△5-5	●2-3	○4-3	○12-4	2	2	1	5位
天理	△1-1		●11-12	○5-4	●1-2	○6-4	2	1	2	3位
同志社	△5-5	○12-11		○7-0	●3-4	○8-0	3	1	1	2位
関西	○3-2	●4-5	●0-7		○5-4	△5-5	2	1	2	4位
大阪青山	●3-4	○2-1	○4-3	●4-5		○6-4	3	0	2	1位
大阪体育	●4-12	●4-6	●0-8	△5-5	●4-6		0	1	4	6位

※1～2位、3～5位は、当該チームでの直接対戦の勝敗による。

2 部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	山口みどり	大阪国際大学	0.615
2位	楠野 愛紗	大阪体育大学	0.500
2位	稲岡 桃香	同志社大学	0.500
4位	佐伯 瞳	関西大学	0.470
5位	寺井 美咲	同志社大学	0.466
6位	重富めぐみ	同志社大学	0.437

7位 江口 実里 関西大学 0.428

8位 神村 瑞穂 天理大学 0.421

9位 岩城 南美 大阪体育大学 0.416

9位 溝渕 七海 大阪国際大学 0.416

投手成績			
順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	荻森ちひろ	関西大学	0.00
2 位	森本 夏未	同志社大学	0.50
3 位	中島智奈都	大阪青山大学	1.17

同志社大学	寺井 美咲	内野手
天理大学	神野まどか	投 手
関西大学	佐伯 瞳	中堅手
大阪国際大学	山口みどり	右翼手
大阪体育大学	砂山 奈菜	中堅手

ベストプレイ賞			
大 学	氏 名	守備位置	
大阪青山大学	土肥 礼奈	中堅手	

ホームラン賞：該当者なし

盗塁賞：嶋本 鈴佳 天理大学 記録 4

3 部 A リーグ戦対戦結果

チーム	兵庫教育	大阪教育	羽衣国際	佛 教	四天王寺	勝	分	敗
兵庫教育		○ 6 - 0	○ 8 - 1	○ 7 - 0	○ 17 - 2	4	0	0
大阪教育	● 0 - 6		● 2 - 6	○ 5 - 3	○ 14 - 2	2	0	2
羽衣国際	● 1 - 8	○ 6 - 2		○ 8 - 1	○ 34 - 0	3	0	1
佛 教	● 0 - 7	● 3 - 5	● 1 - 8		○ 11 - 7	1	0	4
四天王寺	● 2 - 17	● 2 - 14	● 0 - 34	● 7 - 11		0	0	4

3 部 B リーグ戦対戦結果

チーム	びわこ	京都女子	京都産業	大阪府立	摂 南	勝	分	敗
びわこ		○ 11 - 0	○ 4 - 3	○ 7 - 0	○ 7 - 0	4	0	0
京都女子	● 0 - 11		● 3 - 17	○ 7 - 0	○ 12 - 5	2	0	2
京都産業	● 3 - 4	○ 17 - 3		○ 15 - 0	○ 7 - 0	3	0	1
大阪府立	● 0 - 7	● 0 - 7	● 0 - 15		○ 7 - 0	1	0	3
摂 南	● 0 - 7	● 5 - 12	● 0 - 7	● 0 - 7		0	0	4

※Aリーグ、Bリーグのでの結果を踏まえ、順位戦にて総合順位を決定。

3 部最終成績

優勝	びわこ成蹊スポーツ大学	(5 勝 0 分 0 敗)
2 位	兵庫教育大学	(4 勝 0 分 1 敗)
3 位	京都産業大学	(4 勝 0 分 1 敗)
4 位	羽衣国際大学	(3 勝 0 分 2 敗)
5 位	京都女子大学	(3 勝 0 分 2 敗)
6 位	大阪教育大学	(2 勝 0 分 3 敗)
7 位	四天王寺大学	(1 勝 0 分 4 敗)
8 位	佛教大学	(1 勝 0 分 4 敗)

9 位	大阪府立大学	(1 勝 0 分 4 敗)
10 位	摂南大学	(1 勝 0 分 4 敗)

3 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	宮本 菜那	京都産業大学	0.900
2 位	恵良比奈乃	羽衣国際大学	0.750
2 位	米澤 彩	佛教大学	0.750

2位	藤田 莉珠	兵庫教育大学	0.750
5位	萩原 萌	兵庫教育大学	0.710
6位	西山 唯	京都女子大学	0.667
6位	清水 美里	摂南大学	0.667
6位	上野千真理	兵庫教育大学	0.667
6位	埴岡 千聖	兵庫教育大学	0.667
6位	西田 晴香	兵庫教育大学	0.677

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	山田 春華	大阪教育大学	3.15
2位	堀内 佐起	佛教大学	3.2
3位	蘆田 栞	兵庫教育大学	3.5

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
びわこ成蹊スポーツ大学	吉野 楓可	外野手
兵庫教育大学	横井 春菜	三塁手
京都産業大学	橋本 侑佳	外野手
羽衣国際大学	恵良比奈乃	中堅手
京都女子大学	大西優里佳	投 手
大阪教育大学	浮穴 梨紗	遊撃手
四天王寺大学	植松 留依	一塁手
佛教大学	立岡 由衣	内野手
大阪府立大学	井上愛依子	内野手
摂南大学	香川 彩香	捕 手
盗塁賞：恵良比奈乃 羽衣国際大学		記録 5



平成28年度 第48回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成28年4月16日～5月29日

会場：大阪府泉南市／サザンスタジアム・なみはやグランド、大阪市／柴島グランド

1部リーグ戦

チーム	立 命 館	同 志 社	関 西	京都産業	神戸学院	四天王寺	勝	分	敗	順 位
立 命 館	-	● 1 - 11	○ 3 - 2	○ 8 - 5	△ 7 - 7	○ 5 - 2	3	1	1	1位
同 志 社	○ 11 - 1	-	● 1 - 2	○ 4 - 2	● 1 - 4	○ 5 - 1	3	0	2	2位
関 西	● 2 - 3	○ 2 - 1	-	● 5 - 6	○ 5 - 3	○ 8 - 0	3	0	2	3位
京都産業	● 5 - 8	● 2 - 4	○ 6 - 5	-	○ 9 - 6	○ 1 - 0	3	0	2	4位
神戸学院	△ 7 - 7	○ 4 - 1	● 3 - 5	● 6 - 9	-	● 3 - 4	1	1	3	5位
四天王寺	● 2 - 5	● 1 - 5	● 0 - 8	● 0 - 1	○ 4 - 3	-	1	0	4	6位

☆立命館大学は、5季ぶり15回目の優勝！★四天王寺大学は2部に自動降格 ※2～4位は得点差規定により決定

2部リーグ戦

2部A	大阪体育	関西学院	大阪経済	大阪教育	大 阪	勝	分	敗	点	順 位
大阪体育		○ 8 - 1	○ 2 - 1	○ 2 - 1	○ 6 - 5	4	0	0	12	1 位
関西学院	● 1 - 8		○ 14 - 3	○ 9 - 3	○ 7 - 3	3	0	1	9	2 位
大阪経済	● 1 - 2	● 3 - 14		○ 4 - 2	○ 8 - 1	2	0	2	6	3 位
大阪教育	● 1 - 2	● 3 - 9	● 2 - 4		○ 10 - 2	2	0	2	3	4 位
大 阪	● 5 - 6	● 3 - 7	● 1 - 8	● 2 - 10		0	0	4	0	5 位

2部B	大阪府立	大阪経法	神 戸	佛 教	兵庫教育	勝	分	敗	点	順 位
大阪府立		○ 8 - 0	○ 6 - 2	○ 10 - 0	○ 5 - 0	4	0	0	12	1 位
大阪経法	● 0 - 8		△ 4 - 4	○ 3 - 1	○ 5 - 2	2	1	1	7	2 位
神 戸	● 2 - 6	△ 4 - 4		○ 4 - 1	△ 1 - 1	1	2	1	5	3 位
佛 教	● 0 - 10	● 1 - 3	● 1 - 4		○ 9 - 3	1	0	3	3	4 位
兵庫教育	● 0 - 5	● 2 - 5	△ 1 - 1	● 3 - 9		0	1	3	1	5 位

◎ 2部ブロック決勝 大阪体育大学11 - 1 大阪府立大学 ☆大阪体育大学は1部に自動昇格

◎ 2部最下位決定戦 大阪大学4 - 3 兵庫教育大学 ★大阪大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

3部A	京 都	龍 谷	大阪工業	京都学園	和 歌 山	勝	分	敗	点	順 位
京 都		○ 7 - 6	○ 18 - 13	○ 9 - 0	○ 10 - 0	4	0	0	12	1 位
龍 谷	● 6 - 7		○ 6 - 2	○ 6 - 5	○ 7 - 0	3	0	1	9	2 位
大阪工業	● 13 - 18	● 2 - 6		△ 7 - 7	○ 8 - 6	1	1	2	4	3 位
京都学園	● 0 - 9	● 5 - 6	△ 7 - 7		○ 9 - 2	1	1	2	4	4 位
和 歌 山	● 0 - 10	● 0 - 7	● 6 - 8	● 2 - 9		0	0	4	0	5 位

※ 3位～4位は得失点差規定により決定

3部B	奈良教育	近 畿	甲 南	大阪産業	勝	分	敗	点	順 位
奈良教育		○ 7 - 6	△ 3 - 3	○ 13 - 1	2	1	0	7	1 位
近 畿	● 6 - 7		○ 8 - 5	○ 15 - 0	2	0	1	6	2 位
甲 南	△ 3 - 3	● 5 - 8		○ 14 - 3	1	1	1	4	3 位
大阪産業	● 1 - 13	● 0 - 15	● 3 - 14		0	0	3	0	4 位

3部C	大阪市立	兵庫県立	摂南	流通科学	勝	分	敗	点	順位
大阪市立		○4-1	○9-5	○13-1	3	0	0	9	1位
兵庫県立	●1-4		○12-2	○28-5	2	0	1	6	2位
摂南	●5-9	●2-12		○7-0	1	0	2	3	3位
流通科学	●1-13	●5-28	●0-7		0	0	3	0	4位

◎3部ブロック決勝 京都大学10-4 奈良教育大学 奈良教育大学0-11大阪市立大学
大阪市立大学10-1 京都大学 ☆大阪市立大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 神戸学院大学10-6 大阪府立大学 ☆両者とも原部に残留

2部・3部 兵庫教育大学7-6 京 都 大 学 ☆両者とも原部に残留

【総評】

今季の1部は、最後の最後まで優勝争いがもつれたと言えば聞こえは良いが、1部らしからぬ大味なゲームが多かったため、どこが優勝するのなかなか先が見えなかったというのが実際であった。その中で、大事な試合を落とさなかった立命館大学が、5季ぶりの優勝となった。久しぶりの優勝を糧に、来季のさらなる奮起を期待したい。

2部では、大阪体育大学と大阪府立大学がそれぞれ全勝でブロックを制したが、決勝では、大阪体育大学のパワーが炸裂し、意外な大差となった。大阪体育大学は、四天王寺大学と入れ替わるように1部に昇格するが、是非とも来春は1部での上位、そして定着を目指してほしい。一方、3部は伝統校の京都大学、接戦を制した奈良教育大学、攻守に安定した大阪市立大学がブロック決勝にコマを進めたが、3チームの中で最も力があつたのが大阪市立であり、文句ない勝利で2部昇格

となった。

ここ数シーズンは1部と2部、そして2部と3部の間で頻繁な降格と昇格が続いている。各部の力の差が縮まっているということも言えるが、全体として「投手力」が課題であることに変わりはない。この冬の間の「投手のレベルアップ」、課題はこれに尽きる。

最後になるが、今年度からリーグ戦の拠点を泉南市に移しての実施となった。外野フェンスを協会の方々の指導によって自分たちで設置しながら試行錯誤の1年であったが、来年度からは段取りも少しずつ良くなっていくと思われる。関係の方々のお陰で今まで以上に恵まれた環境でプレイできることに対する感謝を忘れることなく（一方で、チームの審判に対する暴言という問題もあった）、来年度から役員、学生ともども、今一度襟を正して、取り組んでいきたい。

（理事長 森田 啓之）



平成28年度第48回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成28年9月10・11・17・22・24・25日、10月1・2・10日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦対戦結果

チーム	園田学園	立命館	大阪大谷	神戸親和	武庫川	同志社	奈良文化	大阪青山
園田学園		○7-0	○3-0	○8-1	○7-0	○6-0	○2-0	○6-0
立命館	●0-7		○4-0	○1-0	○6-4	●2-4	○5-2	○2-0
大阪大谷	●0-3	●0-4		○4-0	○2-0	○5-0	○2-1	●4-5
神戸親和	●1-8	●0-1	●0-4		○3-0	●0-4	●0-6	○4-2
武庫川	●0-7	●4-6	●0-2	●0-3		○2-0	○2-1	○8-1
同志社	●0-6	○4-2	●0-5	○4-0	●0-2		○7-6	●2-4
奈良文化	●0-2	●2-5	●1-2	○6-0	●1-2	●6-7		△1-1
大阪青山	●0-6	●0-2	○5-4	●2-4	●1-8	○4-2	△1-1	

※4～5位、6～7位は、当該チームの直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

優勝	園田学園女子大学	(7勝0分0敗)
2位	立命館大学	(5勝0分2敗)
3位	大阪大谷大学	(4勝0分3敗)
4位	武庫川女子大学	(3勝0分4敗)
5位	同志社大学	(3勝0分4敗)
6位	神戸親和女子大学	(2勝0分5敗)
7位	大阪青山大学	(2勝1分4敗)
8位	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	(1勝1分5敗)

9位	青木 千秋	大阪大谷大学	0.409
10位	堤 加菜子	園田学園女子大学	0.400
10位	山根 志帆	大阪大谷大学	0.400

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	原田 悠	園田学園女子大学	0.00
2位	立目 静奈	武庫川女子大学	1.33
3位	浜西千那美	神戸親和女子大学	2.21

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	田井亜加音	園田学園女子大学	0.555
2位	金谷 愛美	同志社大学	0.434
3位	黒岩 美里	大阪青山大学	0.428
3位	日浦 安奈	神戸親和女子大学	0.428
3位	富山 凜子	園田学園女子大学	0.428
6位	長井みなみ	大阪青山大学	0.421
7位	長船 実幸	武庫川女子大学	0.412
8位	石川 恭子	園田学園女子大学	0.411

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	堤 加菜子	左翼手
立命館大学	本庄 遥	投手
大阪大谷大学	吉崎菜々海	投手
武庫川女子大学	井上智奈美	遊撃手
同志社大学	重富めぐみ	外野手
神戸親和女子大学	日浦 安奈	三塁手
大阪青山大学	黒岩 美里	二塁手
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	西畑 安美	右翼手

盗塁賞：堤 加菜子 園田学園女子大学
長船 実幸 武庫川女子大学 記録 4

ホームラン賞：該当者なし

2部リーグ戦対戦結果

チーム	龍 谷	太成学院	大阪国際	天 理	大阪体育	関 西	勝	分	敗	順 位
龍 谷		○ 5 - 3	● 0 - 7	● 0 - 5	○ 2 - 1	● 1 - 5	2	0	3	4 位
太成学院	● 3 - 5		● 4 - 6	● 1 - 2	○ 4 - 3	● 3 - 4	1	0	4	5 位
大阪国際	○ 7 - 0	○ 6 - 4		● 0 - 6	○ 9 - 2	○ 8 - 1	4	0	1	2 位
天 理	○ 5 - 0	○ 2 - 1	○ 6 - 0		○ 4 - 0	○ 3 - 2	5	0	0	1 位
大阪体育	● 1 - 2	● 3 - 4	● 2 - 9	● 0 - 4		● 1 - 2	0	0	5	6 位
関 西	○ 5 - 1	○ 4 - 3	● 1 - 8	● 2 - 3	○ 2 - 1		3	0	2	3 位

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	溝渕 七海	大阪国際大学	0.500
1 位	佐々木萌香	大阪国際大学	0.500
1 位	石井はるか	大阪体育大学	0.500
1 位	前川 夏海	天理大学	0.500
5 位	山元麻莉絵	関西大学	0.470
6 位	吉田 愛純	大阪国際大学	0.428
7 位	奥村 愛梨	大阪国際大学	0.416
8 位	奥 実里	龍谷大学	0.410
9 位	小山 菜奈	太成学院大学	0.400
10 位	砂山 奈菜	大阪体育大学	0.384

順位 氏 名 大 学 防御率

1 位	前川 夏海	天理大学	0.44
2 位	石川 千尋	大阪国際大学	1.27
3 位	平木 琴実	関西大学	2.33

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
天理大学	嶋本 鈴佳	中堅手
大阪国際大学	吉田 愛純	中堅手
関西大学	杉田 裕子	一塁手
龍谷大学	服部 泉	捕 手
太成学院大学	早川みずき	内野手
大阪体育大学	砂山 奈菜	中堅手

盗塁賞：該当者なし

投手成績

ホームラン賞：該当者なし

3部Aリーグ戦対戦結果

チーム	び わ こ	京都産業	羽衣国際	兵庫教育	京都女子	大阪教育	勝	分	敗	順 位
び わ こ		● 4 - 9	○ 4 - 3	○ 5 - 2	○ 12 - 2	○ 8 - 1	4	0	1	2 位
京都産業	○ 9 - 4		○ 6 - 3	○ 3 - 1	○ 12 - 0	○ 10 - 0	5	0	0	1 位
羽衣国際	● 3 - 4	● 3 - 6		● 2 - 7	○ 12 - 2	○ 15 - 2	2	0	3	4 位
兵庫教育	● 2 - 5	● 1 - 3	○ 7 - 2		○ 8 - 5	○ 9 - 1	3	0	2	3 位
京都女子	● 2 - 12	● 0 - 12	● 2 - 12	● 5 - 8		○ 4 - 3	1	0	4	5 位
大阪教育	● 1 - 8	● 0 - 10	● 2 - 15	● 1 - 9	● 3 - 4		0	0	5	6 位

3部Bリーグ戦対戦結果

チーム	佛 教	大阪産業	大阪府立	四天王寺	摂 南	勝	分	敗	順 位
佛 教		● 0 - 7	○ 12 - 6	○ 7 - 0	○ 13 - 6	3	0	1	8 位
大阪産業	○ 7 - 0		○ 13 - 3	○ 13 - 7	○ 10 - 0	4	0	0	7 位
大阪府立	● 6 - 12	● 3 - 13		○ 7 - 0	● 8 - 16	1	0	3	10 位
四天王寺	● 0 - 7	● 7 - 13	● 0 - 7		● 0 - 7	0	0	4	11 位
摂 南	● 6 - 13	● 0 - 10	○ 16 - 8	○ 7 - 0		2	0	2	9 位

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
1 位	國木 里奈	大阪産業大学	0.556
2 位	中田 真帆	びわこ成蹊スポーツ大学	0.522
3 位	宮本 菜那	京都産業大学	0.500
4 位	西沢 祐香	京都産業大学	0.474
5 位	埜辺 綾香	京都女子大学	0.473
6 位	長田 真奈	兵庫教育大学	0.455
7 位	橋本 侑佳	京都産業大学	0.444
8 位	吉岡 麗	京都女子大学	0.437
9 位	板越 愛美	羽衣国際大学	0.421
10 位	喜多 美予	羽衣国際大学	0.412
10 位	松下 莉子	羽衣国際大学	0.412

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	由川茅成実	びわこ成蹊スポーツ大学	2.92

2 位 宮本 菜那 京都産業大学 3.29

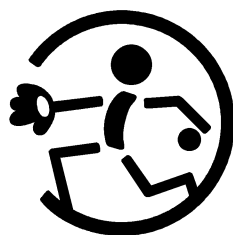
2 位 吉岡 麗 京都女子大学 3.29

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
京都産業大学	宮本 菜那	投 手
びわこ成蹊スポーツ大学	由川茅成実	内野手
兵庫教育大学	尾松 真衣	投 手
羽衣国際大学	的場 萌	左翼手
京都女子大学	西山 唯	三塁手
大阪教育大学	山田 春華	投 手
大阪産業大学	山下 真優	投 手
佛教大学	佐藤絵里香	内野手
摂南大学	清水 美里	投 手
大阪府立大学	辻 渚	内野手
四天王寺大学	北田 美緒	投 手

盗塁賞：寺内 郁実 大阪府立大学 記録11

ホームラン賞：宮本 菜那 京都産業大学 記録3



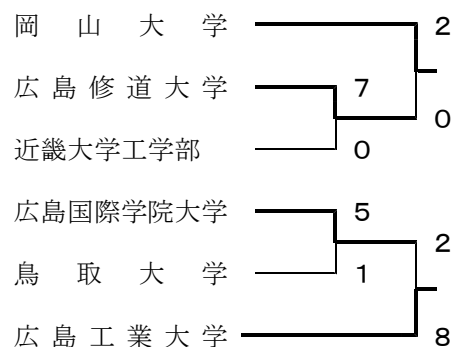
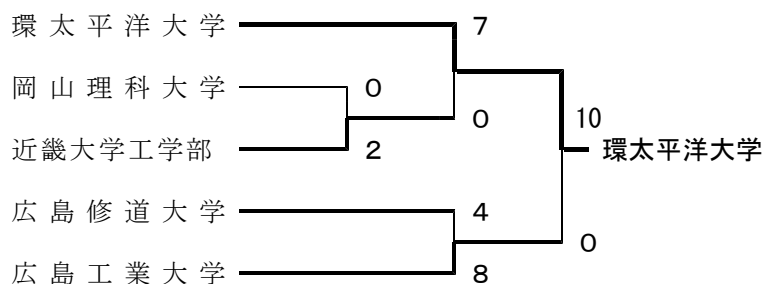
第51回全日本大学・第48回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

会期：平成28年5月14日(土)・15日(日)

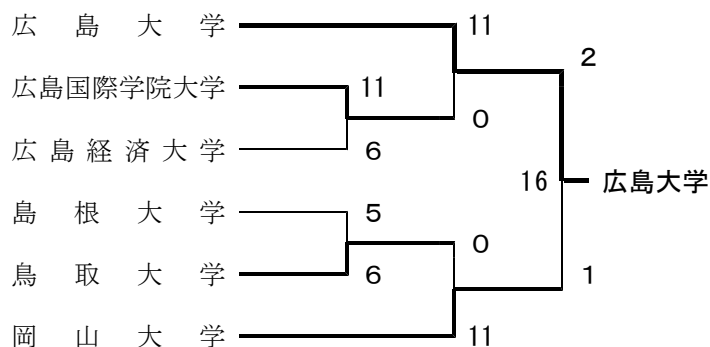
会場：広島県三原市／白竜湖スポーツ村運動公園（男子）

広島県府中市／須グラウンド（女子）

男子Aゾーン



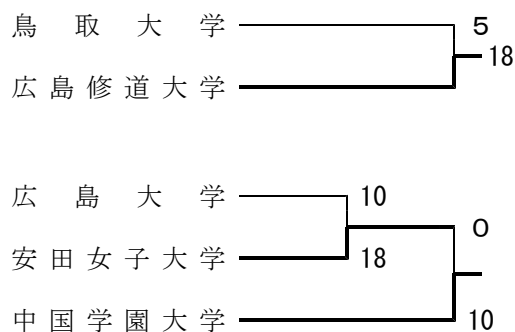
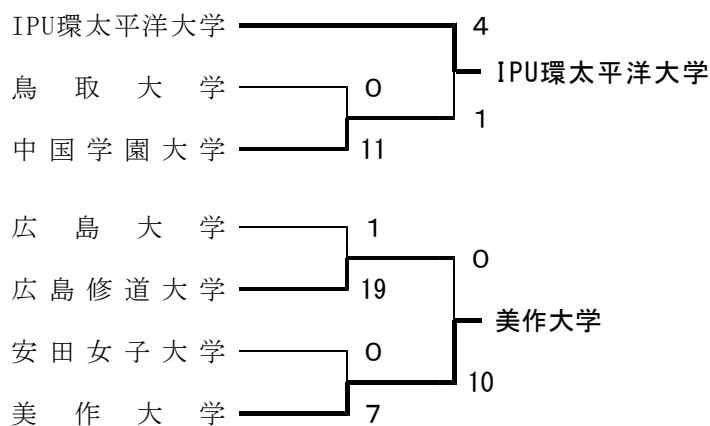
男子Bゾーン



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：
 環太平洋大学(10年連続10回目)
 広島大学(3年連続16回目)
 岡山大学(2年連続10回目)
 広島工業大学(2年ぶり8回目)

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：
 同上4校

女子



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：IPU環太平洋大学(10年連続10回目)・美作大学(3年連続3回目)・
 広島修道大学(初)・中国学園大学(2年連続10回目)

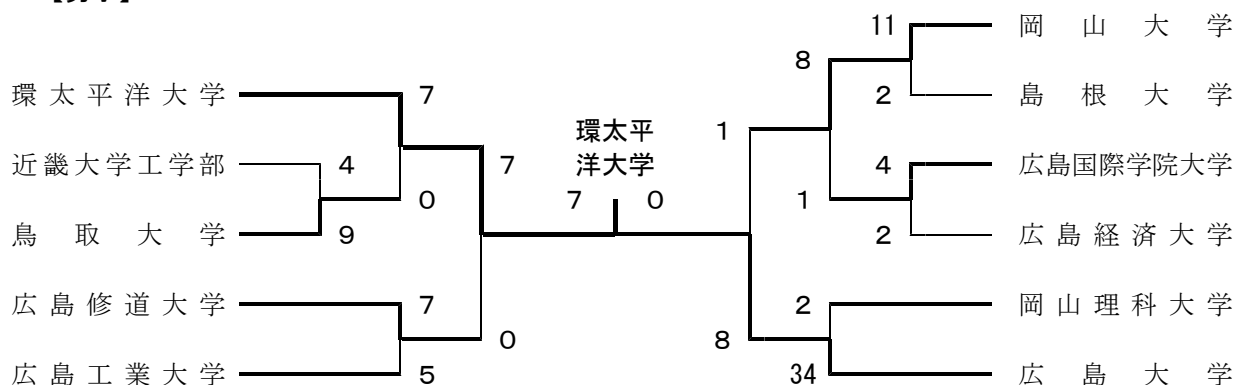
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：同上4校

第16回 中国地区大学ソフトボール選手権大会

会期：平成28年11月12日・13日

会場：広島市／広島修道大学ソフトボール場、岡山県美咲町／中央運動公園

【男子】



【女子予選リーグ】

A	美 作	中 国	鳥 取	広 島	勝敗	順
美作		○ 6－3	○ 14－0	*	2 0	1
中国 学園	● 3－6		*	○ 7－6	1 1	2
鳥取	● 0－14	*		● 9－14	0 2	4
広島	*	● 6－7	○ 14－9		1 1	3

B	I P U	安 田	修 道	勝敗	順
環太平洋		○ 7－0	○ 17－0	2 0	1
安田 女子	● 0－7		○ 2－1	1 1	2
広島 修道	● 3－4	● 1－2		0 2	3

【女子順位決定リーグ】

上位	美作	I P U	安田	中国	勝敗	順
美作	○	●	○	*	1 1	2
環太平洋	○	○	*	○	2 0	1
安田	●	*	●	○	0 2	4
中国	*	●	○	*	1 1	3

下位	広島	修道	鳥取	勝敗	順
広島		○ 7－6	○ 7－3	2 0	5
広島 修道	● 6－7		○ 19－2	1 1	6
鳥取	● 3－7	● 2－19		0 2	7

【女子個人賞】最優秀選手：吉井 朝香（IPU・環太平洋大学） 優秀選手：池田茉由（美作大学）

第51回 全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会 ー兼、第47回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会ー

会期：平成28年5月14日(土)・15日(日)

会場：高知県高知市／春野総合運動公園

【男子】

高知大学	8		高工	9	松山大学
愛媛大学	7	0	10	0	四国大学
高知工科大学	7		9	4	香川大学
愛媛大学	0	7	8		

3位決定戦：香川大学 13－2 高知大学

全日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学（2年連続4回目）・松山大学(11年ぶり11回目)・
香川大学(2年ぶり14回目)

西日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学・松山大学・香川大学

【女子】

チーム	環 太	四 国	香 川	勝	敗	順位
環太平洋 大学短期 大学部		○ 8－0	○ 26－0	2	0	1 位
四国大学	● 1－4		○ 8－7	1	1	2 位
香川大学	● 0－26	● 7－8		0	2	3 位

全日本大学選手権出場権獲得校：

環太平洋大学短期大学部(19年連続19回目)

西日本大学選手権出場権獲得校：

環太平洋大学短期大学部

機関誌ウインドミルの原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX：(0795)44-2227

E-mail: hmorita@hyogo-u.ac.jp

平成28年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成28年10月 8 日(土)・ 9 日(日)

会場：香川県坂出市／総社グラウンド

【男子予選リーグ戦】

予選A	高 工	香 川	松 山	高 知	順
高知工科		○ 13-1	○ 6-5	* *	1
香 川	● 1-13		* *	○ 6-1	3
松 山	● 5-6	* *		○ 12-3	2
高 知	* *	● 1-6	● 3-12		4

予選B	四 国	徳 島	愛 媛	順
四 国		● 2-3	○ 15-4	2
徳 島	○ 3-2		○ 10-0	1
愛 媛	● 4-15	● 0-10		3

※2～3位は得失点差による。

【男子順位決定戦】

高知工科大学	8			
四 国 大 学	0	11		
松 山 大 学	0		優勝 高知工科大学	
徳 島 大 学	11	2		

香川大学	5		
愛媛大学	7	1	
高知大学	6		

【女子】

チーム	香 川	四 国	I P U	順
香 川		● 6-7	● 0-13	3
四 国	○ 7-6		● 0-11	2
IPU短大	○ 13-0	○ 11-0		1

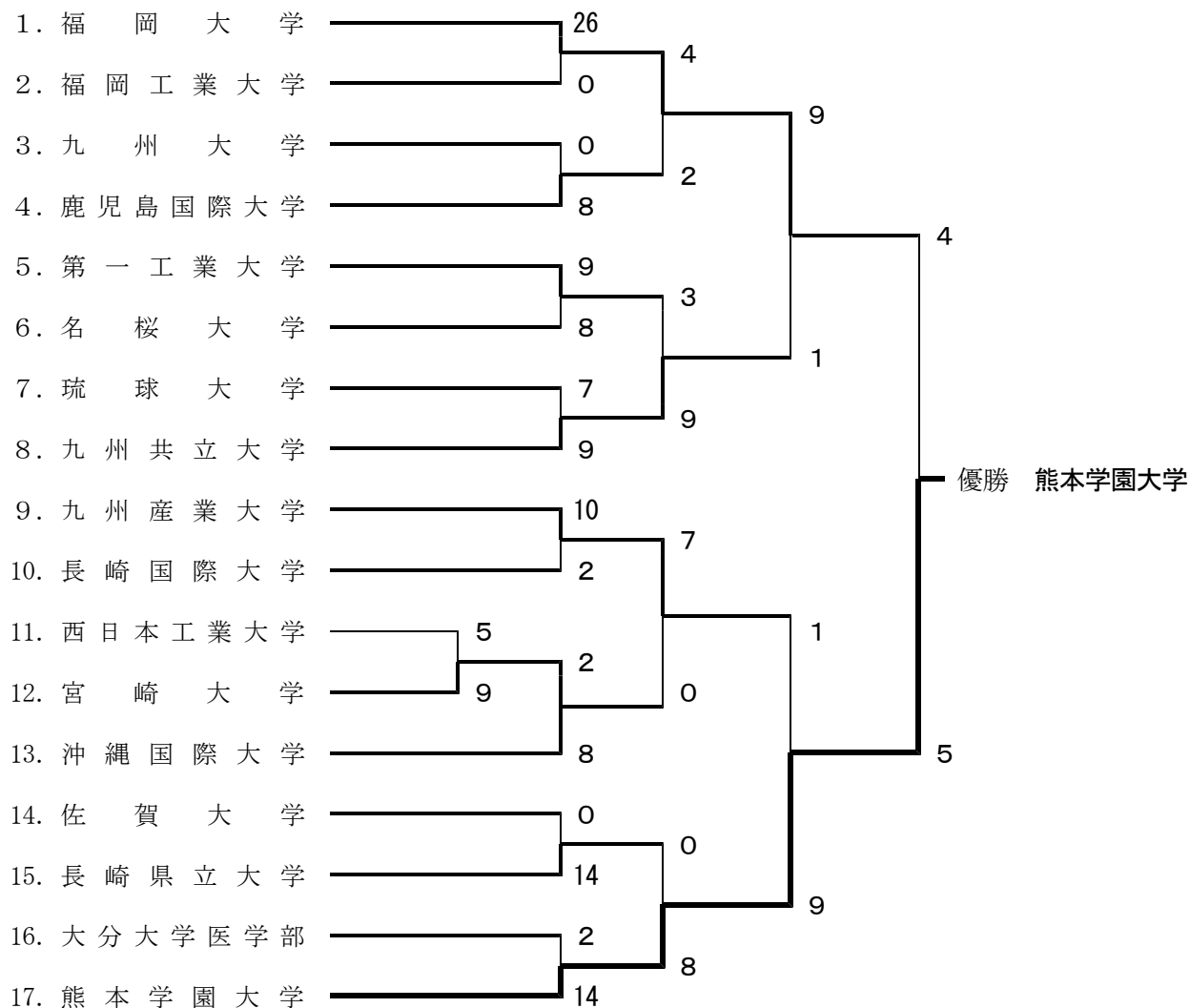


【九州地区】第35 回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
（兼、第51回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

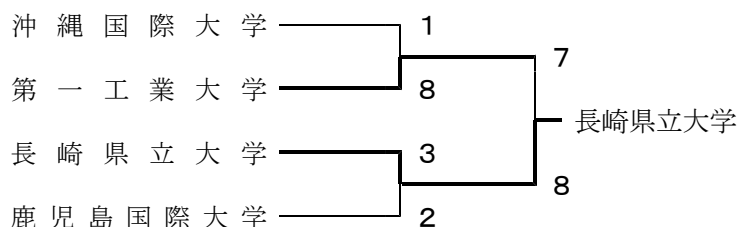
会期：平成28年 5 月20日（金）～22日（日）

会場：鹿児島県南九州市知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】



第5代表決定戦



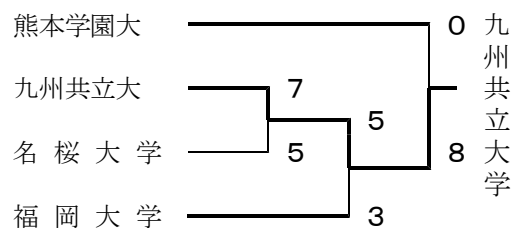
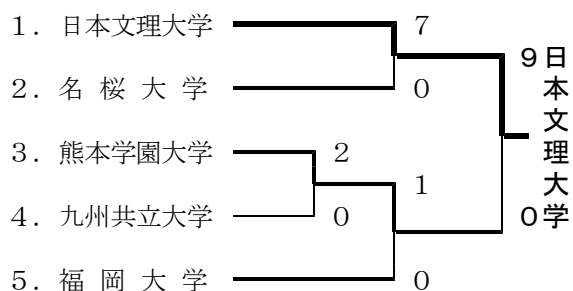
※第51回全日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：熊本学園大学（3年連続21回目）・福岡大学（2年ぶり41回目）・

九州共立大学（3年ぶり4回目）・九州産業大学（4年連続13回目）・長崎県立大学（初）

※第487回西日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：熊本学園大学・福岡大学・九州共立大学・九州産業大学・

長崎県立大学・沖縄国際大学・第一工業大学

【女子】



※第51回全日本大学選手権大会出場校：日本文理大学（4年ぶり6回目）、九州共立大学（4年ぶり6回目）

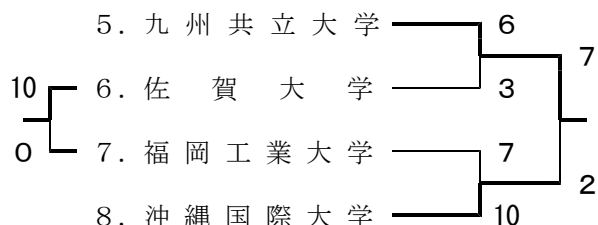
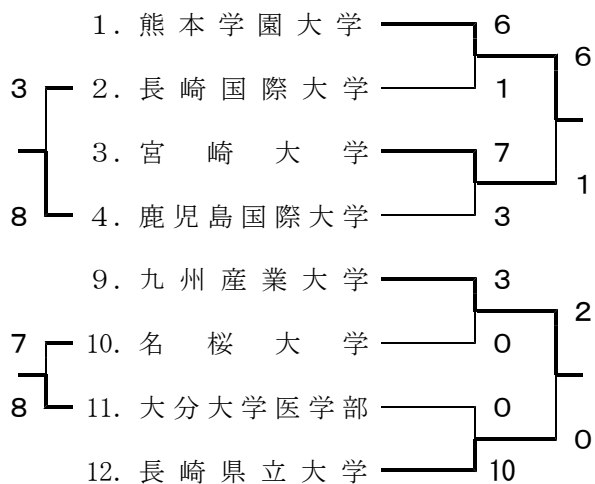
※第48回西日本大学選手権大会出場権獲得校：日本文理大学・九州共立大学

第16回 九州地区大学男子ソフトボール秋季大会

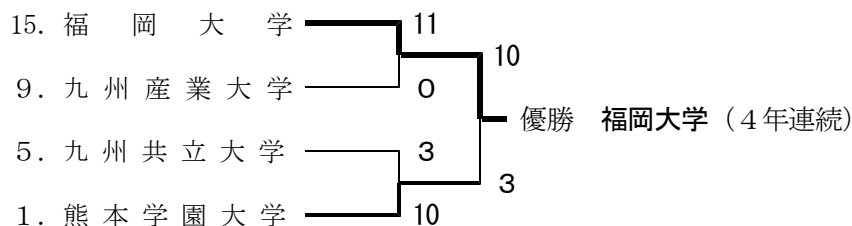
会期：平成28年11月12日（土）～13日（日）

会場：福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンター

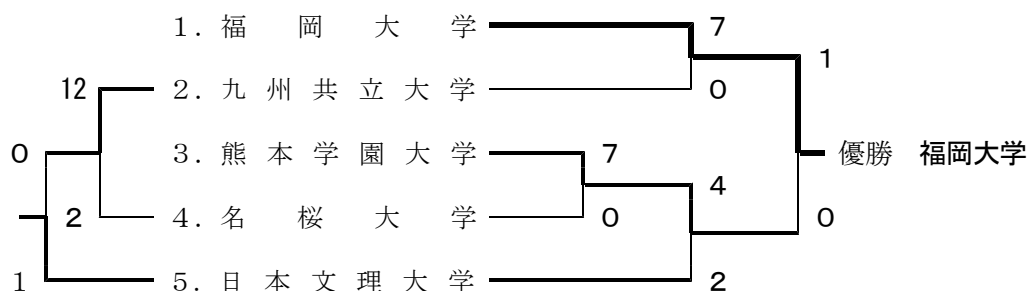
【男子予選トーナメント】



【男子決勝トーナメント】



【女子】



【調査研究部会】

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含．抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月30日で区切るものとする。

執 筆

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白20mm・左

要 項

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録部会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟は、2016年2月13日に開催された学連創立50周年記念式典において、「全日本大学ソフトボール連盟創立五十周年記念特別功労表彰」を行いました。表彰者と楯の文面は以下の通りです。

表彰者：吉野みねこ氏（前副会長・現顧問）・末井健作氏（元理事長・現顧問）

楯の文面：あなたは 長きにわたり本連盟の役員として

大学ソフトボールの発展に尽力され

とくに 大学選手の国際大会への参加や

国際交流事業において指導的役割を果たされました

また(公財)日本ソフトボール協会の役員としても

日本ソフトボール界の発展に尽力され

その働きにより 本連盟はもとより

大学ソフトボール界全体の地位を大きく向上させました

今日までの五十年の歴史を振り返った時

あなたのその顕著な功績が現在の大学連盟を

形づくっているといっても過言ではありません

よってここに本連盟創立五十周年を記念し

特別功労を賞します

また、吉村正元東京地区理事（早稲田大学）と新垣實元九州地区理事（沖縄国際大学）に対し、永年にわたり連盟の役員として地区の大会運営等にご尽力を賜りましたので、2016年3月25日の総合役員会において「功労表彰」を贈呈しました。ここに記してお知らせいたします。※所属大学は在任時

SNSの活用について

前号でFacebookやTwitterの活用をお願いしました。現在、広報記録部会で把握している地区のSNSは、東京都学連・関東学連・東海学連（男女）・関西学連（男子）です。これ以外の地区で開設しているところがあればお知らせください。また、学連公式Facebookの「いいね!」は1600をやっと超え、フォロアーもほぼ同数です。まだ、一桁二桁足りませんので、さらなるご協力をお願いいたします。

なお、情報の発信にあたっては、正確性や迅速性ばかりでなく見易さにもご配慮いただき、組織内の連絡ではなく、世界中に活動を発信していることに心してください。

平成28・29年度
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	—	
副 会 長	中 野 元	熊本学園大学	丸 山 悟	日本福祉大学
	小 嶋 高 良	八戸工業大学	—	
顧 問	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授	水 野 信 義	WSM教育研究所
	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授	大 内 敬 哉	中京大学名誉教授
	中 野 紀 明	国土舘大学名誉教授	末 井 健 作	兵庫県立大学名誉教授
	武 藤 政 幸	城西大学名誉教授	吉 野 みねこ	東京女子体育大学名誉教授
理 事 長	久保田 豊 司	大阪国際大学	—	
副理事長	岩 間 英 明	松本大学	清 水 正	山梨学院大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大 塚 健 樹	盛岡大学	柳 田 信 也	東京理科大学
	長 澤 俊 恵	城西大学	高 橋 流 星	日本体育大学
	二 瓶 雄 樹	中京大学	山 本 孔 一	IPU・環太平洋大学
	宮 尾 直 海	環太平洋大学短期大学部	濱 貴 一	熊本学園大学
理 事	舟 山 健 一	東北福祉大学	高 橋 和 美	富士大学
	高 橋 光 平	城西国際大学	増 淵 まり子	淑徳大学
	森 田 一 雄	金沢学院大学	藤 原 徹	東京富士大学
	筒 井 崇 護	日本体育大学	佐 藤 理 恵	東京女子体育大学
	川 崎 千 明	岐阜経済大学	大 矢 隆 二	常葉大学

理 事	石 井 賀一郎	日本福祉大学	東 美 幸	東海学園大学
	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学	平 野 義 明	関西大学
	鈴 木 正 明	四天王寺大学	山 本 薫	名桜大学
	竹 下 俊 一	第一工業大学	水 谷 博	至学館大学名誉教授
	富 田 国 興	(広島修道大学)	吉 末 和 也	関西大学
評 議 員	平 良 拓 也	仙台大学	高 橋 伸 次	高崎経済大学
	大 塚 隆	東海大学	近 藤 弘 康	長岡大学
	菅 野 貴 広	静岡大学	和 田 正 志	中京学院大学
	宮 澤 千 尋	南山大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学
	大 島 新 司	大阪工業大学	児 玉 公 正	大阪大谷大学
	辻 井 美恵子	びわこ成蹊スポーツ大学	河 内 満	広島修道大学
	伊 勢 幸 広	高知工科大学	山 中 卓	鹿児島国際大学
	井 上 博 司	熊本学園大学	—	
監 事	細 田 きみ子	東京女子体育大学	秋 澤 俊 史	摂南大学
事 務 局	〒570-855 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学 kubota@.oiu.ac.jp			
学 生 委 員 長	黒 田 裕 太	関西大学	※学生委員は28年度のみ	
学 生 副 委 員 長	今 野 聖 花	日本体育大学	松 本 桃 奈	東京女子体育大学
学 生 委 員	小 島 正 旭	東京理科大学	杉 浦 仁 美	山梨学院大学
	相 川 雄 祐	日本体育大学	出 口 敬 太	南山大学
	榎 橋 祐 介	関西大学	島 崎 蓮 弥	園田学園女子大学
	近 藤 悠	園田学園女子大学	—	

平成28年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	9	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	7	金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 長岡大学 福井大学 福井県立大学	
東 京	21	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 大東文化大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 東京都市大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	29	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪教育大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 摂南大学 同志社大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	11	岡山大学 岡山理科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 島根大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際学院大学	
四 国	7	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 徳島大学 松山大学	
九 州	18	大分大学医学部 沖縄国際大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 佐賀大学 崇城大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 西日本工業大学 福岡大学 福岡工業大学 宮崎大学 名桜大学 琉球大学	

平成28年度 女子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学	
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 白鷗大学 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	5	金沢大学 金沢学院大学 信州大学 富山大学 松本大学	
東 京	18	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 早稲田大学	
東 海	14	愛知教育大学 至学館大学 岐阜経済大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 星城大学 鈴鹿大学 中京大学 中京学院大学 中部学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学	
近 畿	25	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪教育大学 大阪国際大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 京都産業大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 奈良学園大学奈良文化女子短期大学 兵庫教育大学 羽衣国際大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	7	環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 広島大学 広島修道大学 美作大学 安田女子大学	
四 国	3	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学	
九 州	5	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学 名桜大学	
男 子 135大学 女 子 102大学 合 計 237大学 2,234名			平成28年12月 5 日現在

編 集 後 記

全日本大学ソフトボール連盟は創立50年を経過し、新しい半世紀に1歩を踏み出しました。この記念式典と祝賀会が2月13日に東京で盛大に開催されました。また、本年度のインカレは、その記念大会として地区出場枠を増やして男女各40チームの参加で行われました。この記念すべき年にソフトボールがオリンピック種目に復帰したことは、正にご同慶の至りです。

このような状況の中で、昨年は「草の根の国際交流」を特集しました。そこにこそ世界中の人々との絆を深める何かがあると考えたからです。そして本号では、今年世界で活躍した大学生選手の活躍を特集しました。ここに、全日本男子ヘッドコーチの西村氏（環太平洋大学）と同女子アシスタントコーチの木田氏（園田学園女子大学）から、世界をめざす選手たちへ理論と経験に基づく貴重なご助言とご示唆をいただきました。記してお御礼申し上げます。

学連は巻頭言にあるように、大学におけるスポーツ活動の大きな変化の渦の中で、2020年の先も見据えて活動していきます。本誌も20年続きましたので、編集方針に再検討を加えます。今後とも引き続きご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、本誌に原稿や情報をお寄せいただいた方々に御礼と感謝を申し上げ、編集後記といたします。

広報記録部会：水谷 博（部長）・大塚健樹（盛岡大学）・
高橋光平（城西国際大学）・宮尾直海（環太平洋大学短期大学部）

表紙デザイン：川北卓史（画家、長野県安曇野市在住）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第20号

2017年1月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟会長 一谷 宣宏

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail mztn@xd6.so-net.ne.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒570-8555 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学守口キャンパス

U R L : www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/

E-mail : kubota@oiu.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X



TO CARBON

多層の弾きに、新素材の手応え。

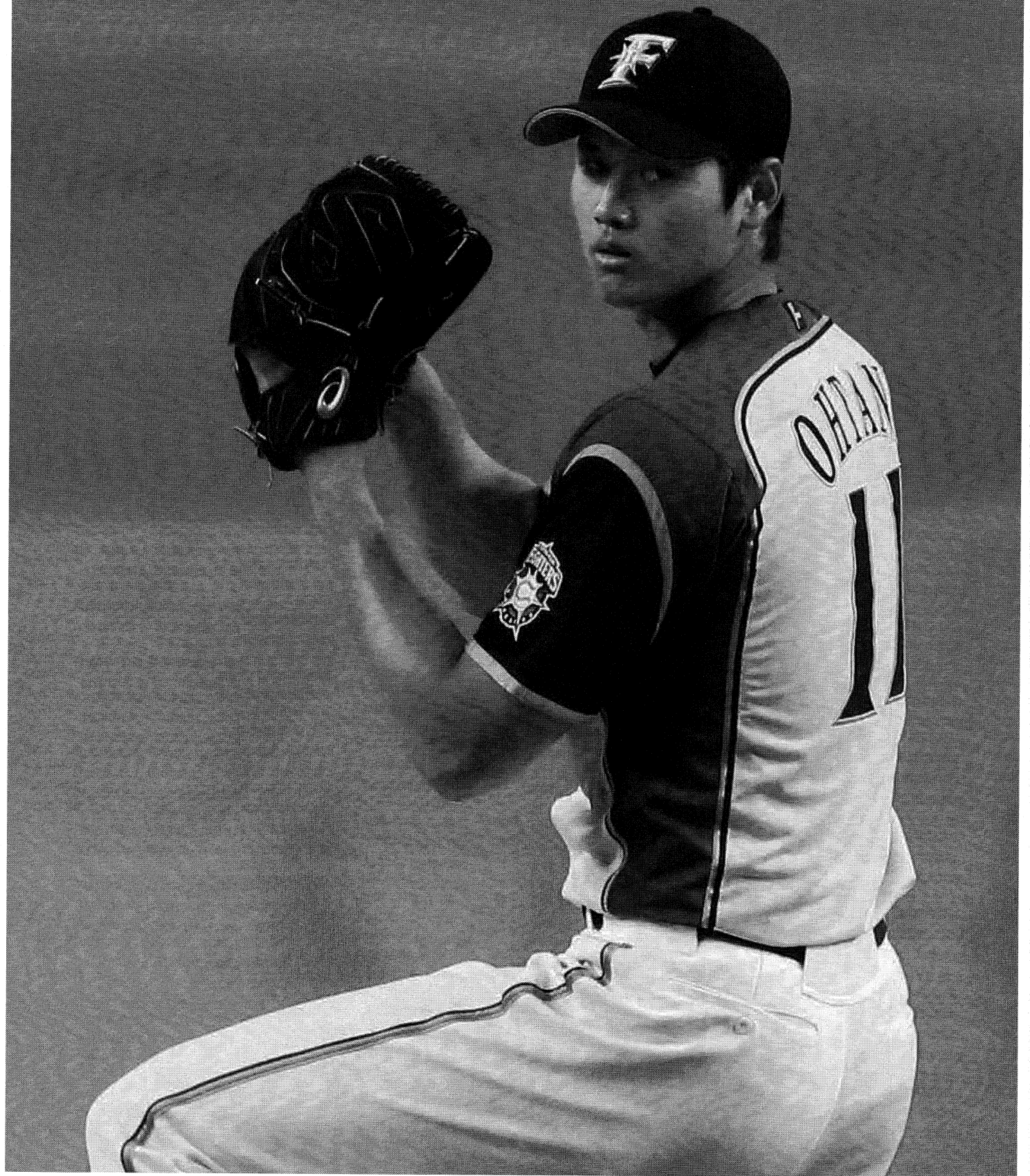
新素材「TOカーボン」をミズノのバットに初採用。多層構造の
飛びに加え、これまで以上に弾く打感を実現した新型エックス。
バランス設計も一から見直し、装いも新たにリニューアル。

エックス[3号革・ゴムボール用] 本体価格 ¥42,000+税

●TOカーボン ●φ57mm ●中国製

1CJFS10584	84cm	平均710g	ホワイト×ピンク (64710)
1CJFS10585	85cm	平均710g	ホワイト×ピンク (64710)
1CJFS10585	85cm	平均740g	ホワイト×ピンク (64740)
1CJFS10586	86cm	平均720g	ホワイト×ピンク (64720)

最新、最速。 **asics** BASEBALL

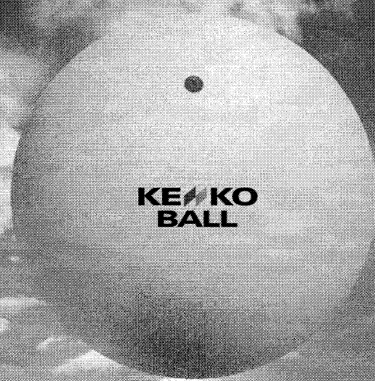


GOLDSTAGE

感動！ サプライヤー ケンコーボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

一九三四年創業以来七〇年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます

KENKO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

「ボールのロゴマークカラーはイメージ
実際の商品とは異なります」

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

2013・2014・2016全日本大学ソフトボール(インカレ)決勝DVD・FAX専用注文用紙
特別価格注文書 FAX番号042-507-1450 ※予備FAX042-571-5278

ご注文に当たっての注意事項

- ① 特別価格の適用は、本用紙でお申し込みされた方20名様限定です。(本用紙にご記入の上FAXで送信して下さい)
- ② お支払方法は、「代金引換」のみです。価格は送料込みですが代引き手数料一律320円がかかります。
- ③ FAXが繋がりにくい場合は、予備FAX番号 042-571-5278 をご利用下さい。
- ④ クレジットカード決済をご希望の方は、ジェイネットTV公式サイトからお申込み下さい。(※定価での販売となります)

2013・2014・2016インカレ男女決勝戦DVD 限定特別価格ご注文内容

商品名	通常価格(税込)	特別価格(税込)	ご注文数	合計金額
① 2016男子決勝 国士舘大学vs環太平洋大学(176分)	—5,000円—	4,500円		円
② 2016女子決勝 日本体育大学vs園田学園女子大学(95分)	—5,000円—	4,500円		円
① 2014男子決勝 環太平洋大学vs早稲田大学(104分)	—5,000円—	4,500円		円
② 2014女子決勝 日本体育大学vs東京国際大学(124分)	—5,000円—	4,500円		円
③ 2013男子決勝 早稲田大学vs同志社大学	—5,000円—	4,500円		円
④ 2013女子決勝 園田学園女子大学vs中京大学	—5,000円—	4,500円		円
代引き手数料(一律)				320 円

☐ ……太枠内を記入後、本用紙をそのままFAXして下さい

合計金額

円

メールアドレス(※必須)	@
お名前(※必須)	
ご住所(※必須)	〒
電話番号(必須)	

※ご注文者とお届け先が異なる場合、以下にご記入ください。

フリガナ	
お届け先お名前	
お届け先ご住所	〒
お届け先電話番号	

時間指定	指定なし	午前中	12時～14時	14時～16時	16時～18時	18時～20時	20時～21時
------	------	-----	---------	---------	---------	---------	---------

DVD販売に関するお問い合わせ

ジェイネットTVオンラインショップ(株式会社ジェイネットTV内)
〒186-0003 東京都国立市富士見台2-8-7-402
電話042-573-7842 FAX042-507-1450(※予備FAX 042-571-5278)
販売責任者: 藤田孝一

ジェイネットTVはこちら



備考欄 ※ご質問・ご要望がありましたらご記入ください。



ウインドミル No. 20 (2016)

ISSN 1343-439 X